

CentreNET®
AT-TCP/32 Professional Ver.2.1

User Manual

ご注意

- 本書の中に含まれる情報は、当社（アライドテレシス株式会社）が保有しています。当社の同意なく本書の全体もしくは一部をコピーまたは転載しないでください。
- 当社は、予告なく本書の全体もしくは一部を修正または改訂することがあります。あらかじめご了承ください。
- 当社は、改良のため予告なく製品の仕様を変更することがあります。あらかじめご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

著作権表示

- Copyright © 1996, 1997, 2000 アライドテレシス株式会社
- Copyright © 1996 Orangesoft, Inc.

商標について

- CentreNET、CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国その他の国における登録商標です。
- UNIX は、X/Open カンパニーリミテッドがライセンスする米国ならびに他の国における登録商標です。
- PC-9800 は、日本電気株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、製品名等は、各社の商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

- 2000年9月初版

目次

ご注意	ii
著作権表示	ii
商標について	ii
マニュアルバージョン	ii
第 1 章 概要	1
第 2 章 電子メール	3
2.1 起動	3
2.2 環境設定	4
2.3 接続	10
2.4 メールを読む	11
2.5 メールの整理	12
2.6 メールの検索	17
2.7 メールの送信	19
2.8 添付ファイル	25
2.9 アドレス帳	28
2.10 オフラインモード	31
2.11 高度な設定	33
2.12 暗号化	35
2.13 終了	52
第 3 章 ネットニュースリーダー	53
3.1 起動	53
3.2 環境設定	54

3.3	接続	59
3.4	記事の購読	59
3.5	記事の投稿	61
3.6	フォローアップ	63
3.7	メールの送信	63
3.8	切断	64
3.9	終了	64
第4章	VT 端末エミュレータ	65
4.1	起動	65
4.2	ログイン	66
4.3	ログアウト	72
4.4	切断	72
4.5	終了	72
4.6	その他の機能	73
4.7	UNIX 以外のサーバにログインする	77
第5章	Ftp クライアント	81
5.1	起動	81
5.2	FTP セッションの登録	81
5.3	FTP サーバへの接続	84
5.4	ファイルの転送	85
5.5	ファイルの表示	88
5.6	ファイル名の変更	90
5.7	ファイルの削除	91
5.8	終了	92
5.9	マクロプロセッサ機能	92
第6章	Ftp サーバ	101
6.1	起動	101
6.2	設定	102

6.3	終了	106
第7章	Ping ユーティリティ	107
7.1	起動	107
7.2	ping の実行	108
7.3	トレースルートの実行	109
7.4	終了	110
第8章	リモートプリント	111
8.1	起動	111
8.2	基本設定	111
8.3	印刷	112
8.4	プリントオプション	113
8.5	終了	114
第9章	プリンタサーバ	115
9.1	起動	115
9.2	プリンタの選択	116
9.3	終了	117
第10章	Tftp クライアント	119
10.1	起動	119
10.2	ファイル転送	120
10.3	終了	124
第11章	Tftp サーバ	125
11.1	起動	125
11.2	ディレクトリの設定	126
11.3	サーバの開始と停止	127
11.4	終了	128
第12章	リモートコマンド	129
12.1	リモートホスト側に必要な環境と設定	129

12.2	起動	131
12.3	r コマンドの実行	132
12.4	スクリプトファイルの使用	136
12.5	終了	139
第 13 章 Finger クライアント		141
13.1	起動	142
13.2	finger の実行	142
13.3	情報の保存	143
13.4	漢字コード変換の設定	144
13.5	終了	144
第 14 章 Finger サーバ		145
14.1	起動	145
14.2	終了	146
第 15 章 Whois クライアント		147
15.1	起動	147
15.2	漢字コード変換の設定	148
15.3	情報の検索	149
15.4	情報の保存	149
15.5	終了	149
第 16 章 時刻設定ユーティリティ		151
16.1	日付・時刻の確認	151
16.2	終了	152
第 17 章 ダイヤルアップコネクター		153
17.1	はじめに	153
17.2	起動	154
17.3	接続先の登録	154
17.4	接続と切断	159

17.5	巡回接続と巡回切断	160
17.6	接続状態の確認	160
17.7	接続先の削除	161
17.8	接続先情報の編集	161
17.9	自動起動と自動ダイヤル	161
17.10	リダイヤル	163
17.11	自動切断	164
17.12	ダイヤルアップコネクタのアイコン化	165
17.13	接続後に接続ダイアログを隠す	166
17.14	接続通知	166
17.15	構内交換機 (PBX) 経由で接続する場合	167
17.16	終了	169
付録 A	ユーザーサポート	171
A.1	調査依頼書のご記入にあたって	171

第 1 章

概要

このたびは、CentreNET AT-TCP/32 Professional(以下、AT-TCP/32)をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。AT-TCP/32 は、Windows95/98/NT 3.51/NT 4.0/2000 対応の 32 ビット TCP/IP アプリケーションパッケージです。AT-TCP/32 を使用することにより、UNIX システムと Windows システムが混在するネットワークを容易に構築することができます。

本 User Manual では、AT-TCP/32 収録の各アプリケーションについて、起動から終了までの基本的な操作方法を説明しています。なお、各アプリケーションのより詳細な使用方法や設定方法については、オンラインヘルプをご参照ください。

Topics:

- 電子メール (☞ p.3)
- ネットニュースリーダー (☞ p.53)
- VT 端末エミュレータ (☞ p.65)
- Ftp クライアント (☞ p.81)
- Ftp サーバ (☞ p.101)
- Ping ユーティリティ (☞ p.107)
- リモートプリント (☞ p.111)
- プリンタサーバ (☞ p.115)
- Tftp クライアント (☞ p.119)
- Tftp サーバ (☞ p.125)
- リモートコマンド (☞ p.129)
- Finger クライアント (☞ p.141)
- Finger サーバ (☞ p.145)
- Whois クライアント (☞ p.147)
- 時刻設定ユーティリティ (☞ p.151)
- ダイヤルアップコネクタ (☞ p.153)

第2章

電子メール

「電子メール」(ATMail)は、Windows上でインターネットメールの送受信を行うためのアプリケーションです。ATMailは以下の特長を持っています。

- SMTPプロトコル(送信用)、POP3プロトコル(受信用)をサポート
- 着信メールをフォルダで分類・管理
- メールメッセージの暗号化と復号化

Topics:

- 起動 (☞ p.3)
- 環境設定 (☞ p.4)
- 接続 (☞ p.10)
- メールを読む (☞ p.11)
- メールの整理 (☞ p.12)
- メールの検索 (☞ p.17)
- メールの送信 (☞ p.19)
- 添付ファイル (☞ p.25)
- アドレス帳 (☞ p.28)
- オフラインモード (☞ p.31)
- 高度な設定 (☞ p.33)
- 暗号化 (☞ p.35)
- 終了 (☞ p.52)

2.1 起動

「スタート」メニューから、「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「電子メール」の順に選択します。

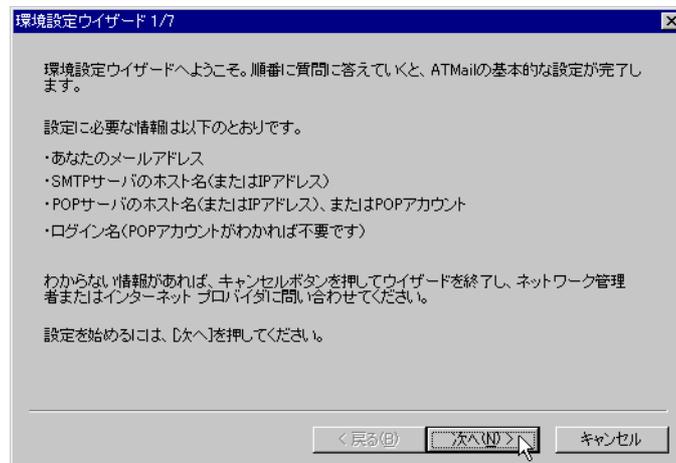
2.2 環境設定

2.2.1 ウィザードによる設定

初めて ATMail を起動すると、環境設定ウィザードが表示されます。このウィザードでは、ATMail を使用するために必要となる基本的な設定を行います。ウィザードの指示にしたがってください。

なお、ウィザードをキャンセルして、ATMail ウィンドウの「ネットワーク」「環境設定」で設定を行うこともできます。その場合は、ウィザードの 1/7 でキャンセルをクリックしてください。

1. 「次へ」ボタンをクリックして次に進みます。



環境設定ウィザード 1/7

2. POP サーバ（受信用）と SMTP サーバ（送信用）のホスト名を入力します。POP サーバの代わりに POP アカウント名を指定することもできます。その場合、次の画面（3/7）でログイン名を入力する必要がなくなります。



環境設定ウィザード 2/7

※ POP アカウントは、「ログイン名@POP サーバのホスト名」の形式で指定します。ログイン名「mikeo」、POP サーバのホスト名「afrika.tw.allied-telesis.co.jp」の場合、POP アカウントは「mikeo@afrika.tw.allied-telesis.co.jp」となります。POP アカウントの形式はメールアドレスとよく似ていますが、必ずしもメールアドレスと同じではありませんのでご注意ください。

- POP サーバのログイン名を入力します。2/7 で POP アカウントを指定した場合はそのまま「次へ」をクリックします。



環境設定ウィザード 3/7

- メールアドレスと本名を入力します。



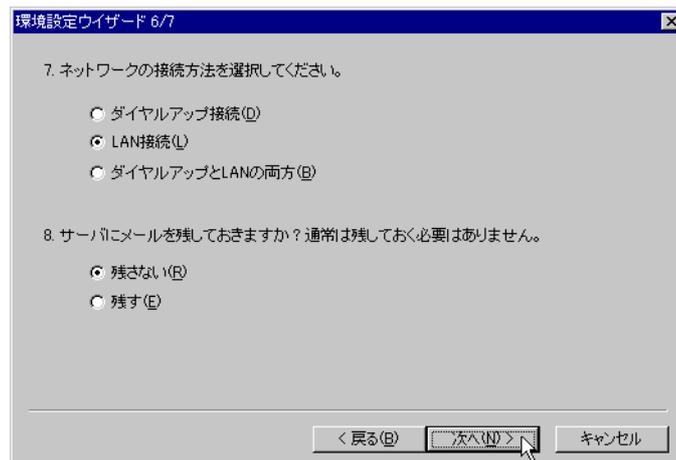
環境設定ウィザード 4/7

5. 受信したメールを保存するディレクトリを指定します。



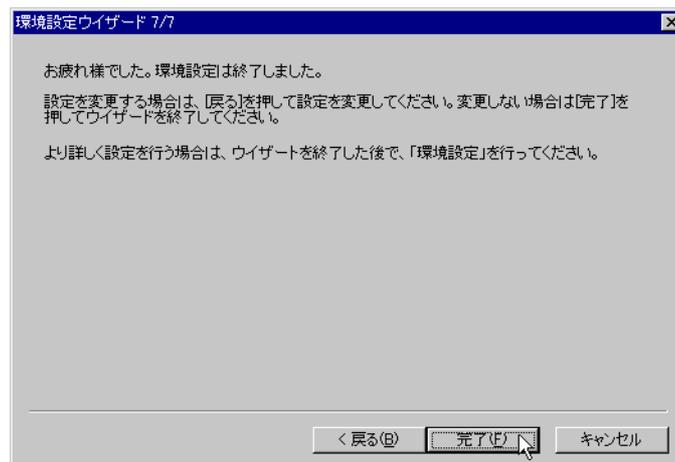
環境設定ウィザード 5/7

6. ネットワークの接続方法と POP サーバにメールを残すかどうかを指定します。



環境設定ウィザード 6/7

7. 「完了」をクリックすると設定完了です。

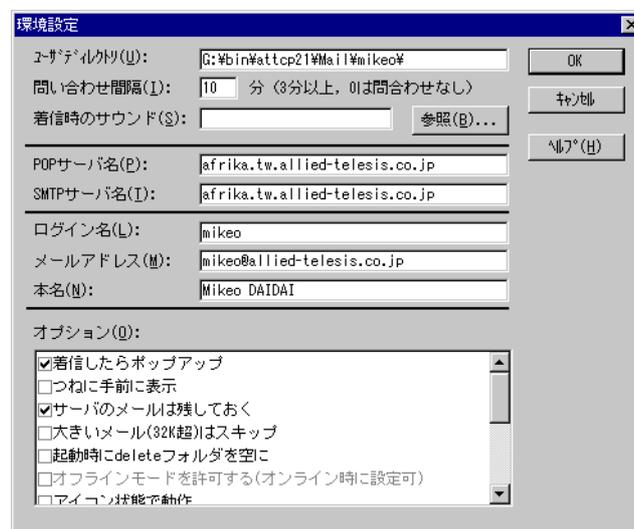


環境設定ウィザード 7/7

2.2.2 環境設定メニューによる設定

ウィザードによる設定をキャンセルした場合、あるいは、ウィザードによる設定を変更したい場合は、ATMail ウィンドウの「ネットワーク」「環境設定」メニューで設定を行います。

1. メニューから「ネットワーク」「環境設定」を選択し、「環境設定」ダイアログを表示させます。ここで必要な情報を入力します。



環境設定ダイアログ

ユーザディレクトリ

受信したメールやアドレス帳など、個人データを置くディレクトリを指定します。

問い合わせ間隔

POP サーバに着信メールの問い合わせを行う間隔を指定します。同じメールサーバを利用し

ているユーザ数が多い場合は、長めに設定してください。単位時間あたりの参照回数（人数）が多くなると、接続に失敗する可能性があります。デフォルトは10分です。3分以上で設定してください。

＼ 着信メールの自動チェックを行いたくないときは、問い合わせ間隔を「0」分に指定します。

着信時のサウンド

メール着信時に再生する WAV ファイルを指定します。

POP サーバ名

受信時に使用する POP サーバのホスト名を入力します。POP3/ APOP に対応。RPOP は使用できません。

SMTP サーバ名

送信時に使用する SMTP サーバのホスト名を入力します。

ログイン名

POP サーバへのログイン名を入力します。

メールアドレス

メールアドレスを入力します。

本名

メールアドレスに付ける本名を指定します。

オプション

以下のチェックボックスがあります。

着信したらポップアップ

ここをチェックすると、ATMail をアイコン化しているときに新着メールが届くと、ATMail ウィンドウが元のサイズに戻ります。デフォルトは on です。

つねに手前に表示

これをチェックすると、他のウィンドウよりも、ATMail のウィンドウが常に手前に表示されます。

サーバのメールは残しておく

ここをチェックすると、ATMail でメールを読んでも、サーバのスプールからメールが削除されません。デフォルトは on です。ただし、サーバ上にたくさんメールを残しておくと、次のような弊害が予想されますのでご注意ください。

- サーバのディスク資源が消費される
- ATMail が新着メールを問い合わせるたびに、サーバ上のメールをすべて読み直す（サーバから ATMail ヘデータが転送される）ので、通信量が多くなり、実行速度が遅くなる。

大きいメールはスキップ

ここをチェックすると、32K バイト以上のメールを PC 側に読み込まなくなります。

起動時に delete フォルダを空に

ReadMail ウィンドウでメールを削除すると、そのメールは「delete」フォルダ（ファイル）に移動されます。これチェックすると、ATMail 起動時に「delete」フォルダの内

容を空にします。

オフラインモードを許可する

ここをチェックすると、書いたメールを送信待機フォルダに保存しておき、次回オンラインになったときにまとめて送信することができます。ただし、オフラインモードでは、サーバに到着メールを取りに行ったり、メールを出したりすることはできません。また、オフラインモードでは、パスワードチェックが行われないため誰でもあなたのフォルダのメールを読むことができます。これはセキュリティ上非常に危険ですから、運用に注意してください。

アイコン状態で動作

これをチェックしておく、新着メールがないときは、ATMail ウィンドウがアイコン状態になります。

サーバのメールを削除する前に確認

ここをチェックすると、サーバにスプールされているメールを削除する前に確認のメッセージが表示されます。

送信待機メールを送る前に確認

ここをチェックすると、送信待機メールがある場合、送信前に確認のメッセージが表示されます。

起動時に接続ウィンドウを表示する

ここをチェックすると、ATMail の起動時に、POP パスワードを入力するための「接続ウィンドウ」が表示されます。

ダイヤルアップ接続を監視

これをチェックすると、ダイヤルアップ接続時に ATMail を自動的にオンラインにしたり、切断時に自動的にオフラインにしたりすることができます。

WEB ブラウザのメール送信を横取り

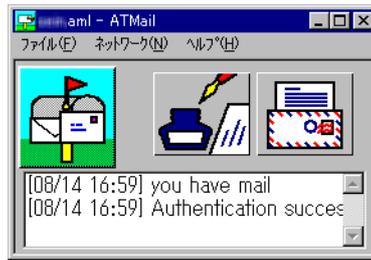
ここをチェックすると、ご使用のブラウザからメーラー起動メニューを選択した場合に、ATMail が起動されるようになります。

ReadMail の起動時に新着メールをチェックする

ここをチェックすると、ReadMail ウィンドウの起動時に自動的に新着メールを読み込みます。

2. 環境をすべて設定したら、「OK」ボタンをクリックします。
3. 「ファイル名を指定して保存」ダイアログが表示されます。保存するファイルの名前を指定して「保存」ボタンをクリックします。複数のユーザーでご使用の際は、ファイル名が重なったり、どれが自分の設定ファイルかわからなくなったりしないよう、ご注意ください。

4. ATMail ウィンドウが表示されます。



ATMail ウィンドウ

一度、環境設定をすると次回からその設定で起動されます。複数のユーザでご使用の際はご注意ください。

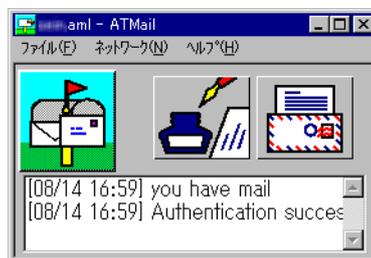
2.3 接続

1. 2回目以降の起動時には、以下のように接続ダイアログが表示されます。
ログイン名が自分のものであることを確認したら、POP サーバにログインするためのパスワードを入力してください。



接続ダイアログ

2. 正しく接続が完了すると、ATMail ウィンドウが以下のように表示にされます。



ATMail ウィンドウ

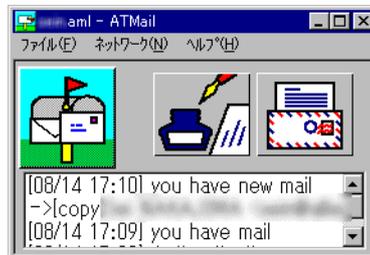
接続に失敗した場合、ATMail ウィンドウは以下のような表示になります。その場合は、メニューの「ネットワーク」「環境設定」で環境設定を確認してください。



ログイン失敗

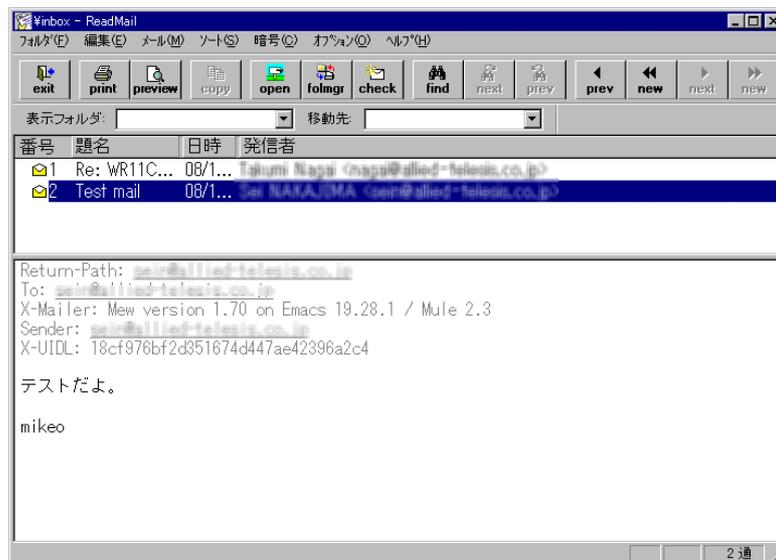
2.4 メールを読む

1. 新着メールが届くと、ATMail ウィンドウの表示が以下のように変わります。



メール到着

2. 右の  ボタンをクリックすると、メールリーダー「ReadMail」ウィンドウが起動し、メールを読むことができます。ReadMail がすでに起動されている場合は、ウィンドウが切り替わりません。ReadMail を複数起動することはできません。



ReadMail ウィンドウ

Subject リスト

メールの Subject と発信者の本名とメールアドレスが表示されます。反転している行が、現在メールウィンドウ（メールの本体）に表示されているメールです。

番号・題名・日時・発信者ボタン

これらのボタンを押すと、その項目別に、メールがソートして表示されます。また、これらの境界でマウスの左ボタンを押したまま移動させると、表示項目の幅を調整することができます。

メールの本文

クリップボードへのコピーはできますが、編集はできません。メールのヘッダ部の表示切り替えは、ツールバーの「header」ボタンまたは「オプション」 「すべてのヘッダを表示」で行います。

2.5 メールの整理

ATMail では、「フォルダ」や「キャビネット」を利用して、メールを自由に分類・整理することができます。

フォルダ

フォルダとは、レターフォルダのようなものです。

通常メールサーバから取り込まれたメールは、「inbox」というフォルダにコピーされます。また、「delete」フォルダには、削除されたメールが入られます。

キャビネット

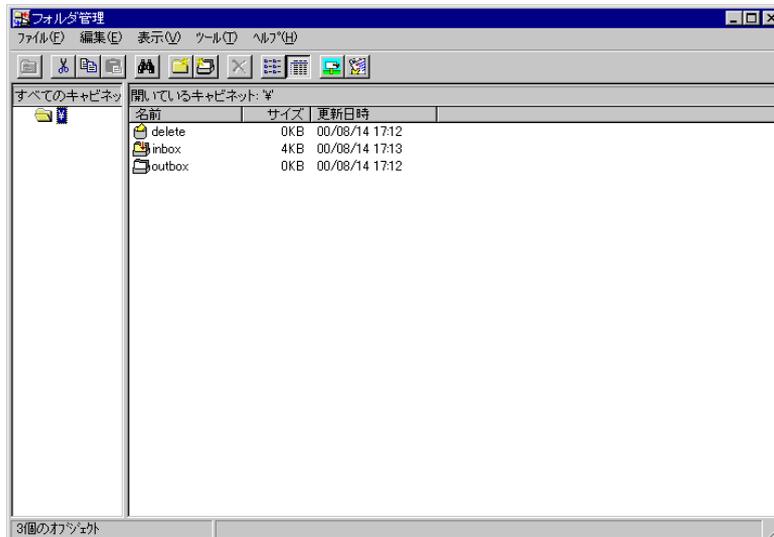
ATMail ではさらに、いくつかのフォルダをまとめて「キャビネット」を作ることができます。

2.5.1 フォルダの作成

ATMail のデフォルトフォルダは「inbox」ですが、以下の操作を行うことで、任意のフォルダを作成することができます。

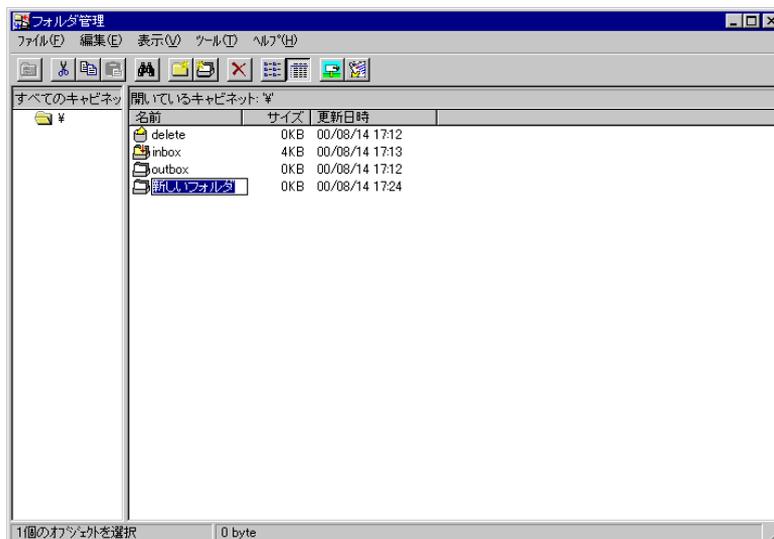
1. ReadMail ウィンドウのメニューから「フォルダ」 「フォルダの整理」を選択します。

2. 「フォルダ管理」ウィンドウが表示されます。



「フォルダ管理」ウィンドウ

3. メニューから「ファイル」 「新規作成」 「フォルダ」を選択します。
4. 「新しいフォルダ」フォルダが作成されるので、好きな名前を入力します（日本語入力可）。ユーザーディレクトリにある拡張子のないファイルは、すべてフォルダと見なされます。



新しいフォルダ

5. メニューの「ファイル」 「閉じる」をクリックし、「フォルダ管理」ウィンドウを閉じます。

6. ReadMail ウィンドウの「表示フォルダ」ドロップダウンリストの矢印をクリックすると、作成したフォルダの名前が表示されます。



フォルダ一覧

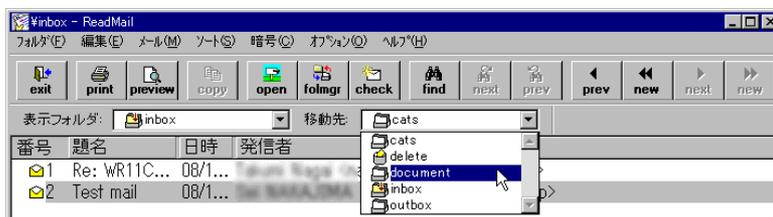
2.5.2 キャビネットの作成

1. ReadMail ウィンドウのメニューから「フォルダ」「フォルダの整理」を選択し、「フォルダ管理」ウィンドウを表示させます。
2. メニューから「ファイル」「新規作成」「キャビネット」を選択します。
3. 「新しいキャビネット」が作成されるので、好きな名前を入力します（日本語入力可）。
4. メニューの「ファイル」「閉じる」をクリックし、「フォルダ管理」ウィンドウを閉じます。
5. Readmail ウィンドウの「表示フォルダ」ドロップダウンリストの矢印をクリックすると、作成したキャビネットの名前が表示されます。

2.5.3 メールの移動

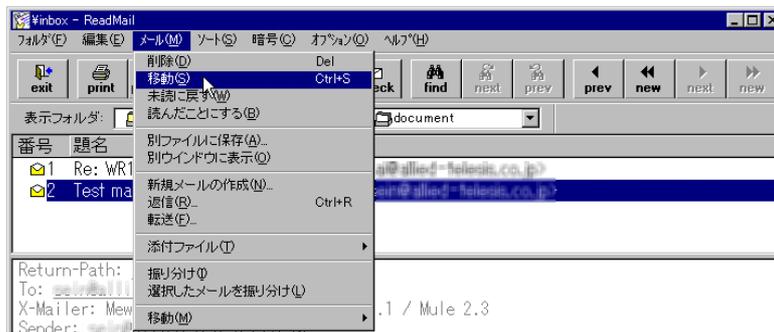
メールを整理しないままにしておくと、inbox フォルダが一杯になって必要なメールを探しにくくなります。以下の手順にしたがって、定期的にメールの整理をするとよいでしょう。

1. ReadMail ウィンドウで、移動したいメールを選択します。
2. 次に、「移動先」ドロップダウンリストから、移動先のフォルダを選択します。



移動先フォルダリスト

3. ツールバーの「move」ボタンをクリックするか、メニューから「メール」「移動」を選択します。

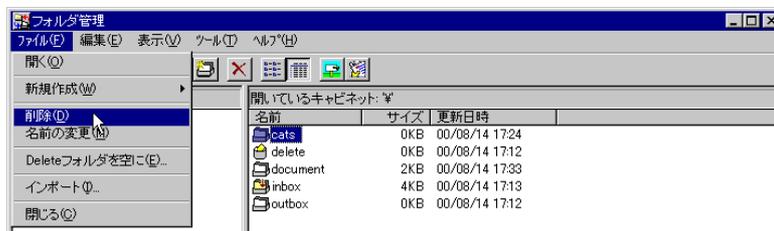


移動

2.5.4 フォルダ・キャビネットの削除

1. ReadMail ウィンドウのメニューから「フォルダ」「フォルダの整理」を選択し、「フォルダ管理」ウィンドウを表示させます。
2. 削除したいフォルダを選択し、メニューの「ファイル」「削除」を選択します。

✧ フォルダ内にメールが残っている場合は、フォルダに保存されているメールも削除されますのでご注意ください。



フォルダの削除

3. 選択したフォルダ、またはキャビネットを削除してもよい場合は「はい」ボタンをクリックします。



削除の確認

2.5.5 フォルダ・キャビネット名の変更

1. ReadMail ウィンドウのメニューから「フォルダ」 「フォルダの整理」を選択し、「フォルダ管理」ウィンドウを表示させます。
2. 名前を変更したいフォルダまたはキャビネットを選択し、メニューから「ファイル」 「名前の変更」を選択します。
3. 選択したフォルダまたはキャビネットが四角く囲まれるので、新しい名前を入力します。

2.5.6 メールの自動振り分け

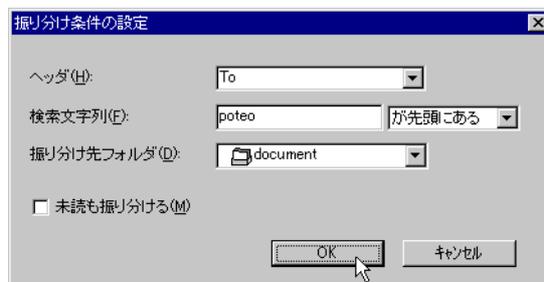
ATMail では、受信したメールを自動的にフォルダに振り分けることができます。以下の手順にしたがって振り分け条件を設定します。

1. ReadMail ウィンドウのメニューから「オプション」 「環境設定」を選択します。
2. 「環境設定」ダイアログが表示されます。「振り分け条件」タブを選択し、「新規」ボタンをクリックします。



環境設定ダイアログ

3. 「振り分け条件の設定」ダイアログが表示されるので、必要な情報を入力します。



振り分け条件の設定

ヘッダ

振り分け条件の対象とするヘッダを選択します。「To」、「From」、「Subject」から選択できます。

検索文字列

指定ヘッダに含まれる文字列を指定します。また、この文字列がヘッダの「先頭」と「途中」のどちらに現れるのかも指定します。

振り分け先フォルダ

条件にあったメールを移動するフォルダを指定します。振り分け先フォルダは、「フォルダ」「フォルダの作成」であらかじめ作成しておく必要があります。

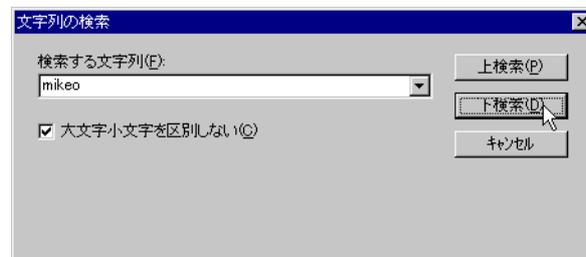
2.6 メールの検索

ReadMail では、特定の文字列を含むメールを検索することができます。

2.6.1 特定フォルダに対する検索

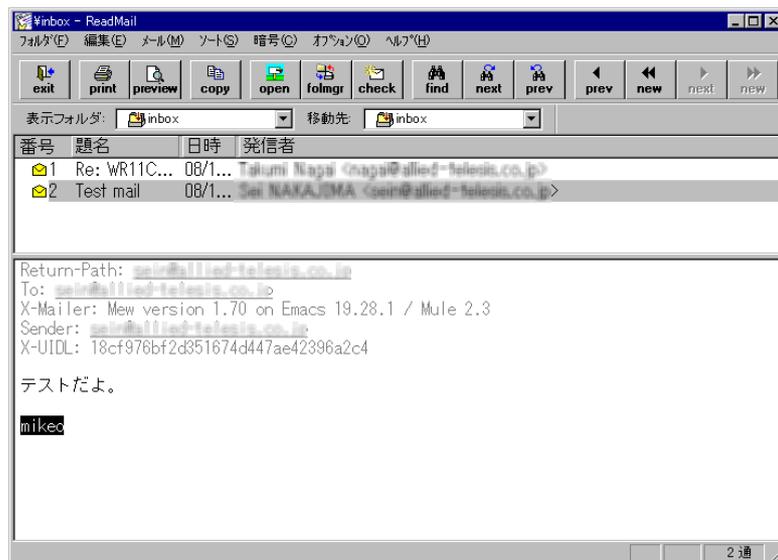
現在表示しているフォルダ内のメールを検索するには、以下の手順にしたがいます。

1. 検索したいフォルダを表示させ、メニューの「編集」「検索」を選択します。
2. 「文字列の検索」ダイアログが表示されるので、検索したい文字列を入力し、「上検索」か「下検索」をクリックします。



文字列の検索ダイアログ

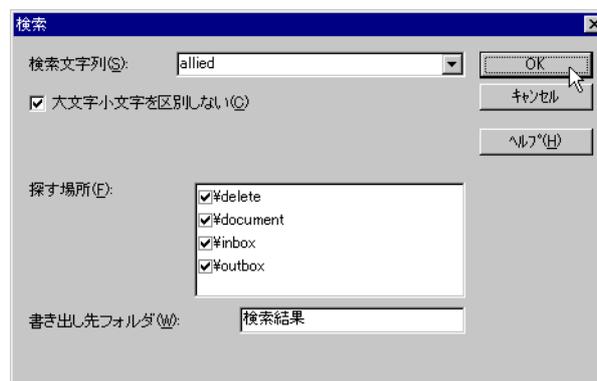
3. 文字列が見つくと、そのメールが表示され、文字列が反転表示されます。



文字列が見つかった

2.6.2 複数フォルダ・キャビネットに対する検索

1. ReadMail ウィンドウのメニューから「フォルダ」「フォルダの整理」を選択し、「フォルダ管理」ウィンドウを表示させます。
2. 「フォルダ管理」ウィンドウのメニューから「ツール」「検索」を選択します。
3. 「検索」ダイアログが表示されます。このダイアログが表示されたら ReadMail ウィンドウを閉じてください。ReadMail ウィンドウを開いたまま検索しようとすると、エラーになりますのでご注意ください。



検索ダイアログ

4. 検索したい文字列を「検索する文字列」フィールド内に入力します。他のオプションについても、適宜選択してください。入力が終わったら、「OK」ボタンをクリックして検索を開始します。

5. 検索結果は「検索結果」というフォルダに該当メールがコピーされるかたちで表示されます。



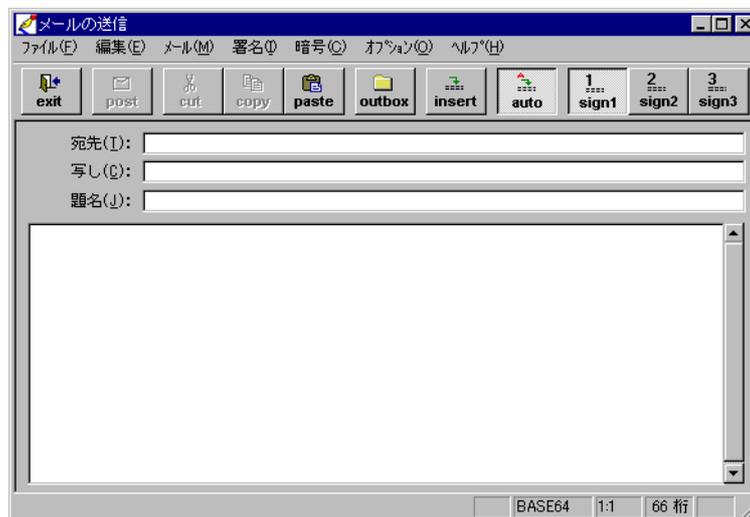
検索結果フォルダ

2.7 メールの送信

2.7.1 新規作成

1. ATMail ウィンドウの  ボタンをクリックすると、「メールの送信」ウィンドウが表示されます。

＼ オフラインモードの場合、実際のメールの送信はできませんが、オフライン時に書いたメールを送信待機フォルダに保存しておき、次回オンラインになったときに、まとめて送信することができます。
(オフライン時にメールを書く)



メールの送信ウィンドウ

宛先

メールを送信する相手のアドレスを指定します。複数指定も可能です。その場合は、半角スペースかカンマで区切って指定してください。ここにカーソルを置くと、アドレス帳が表示されます。

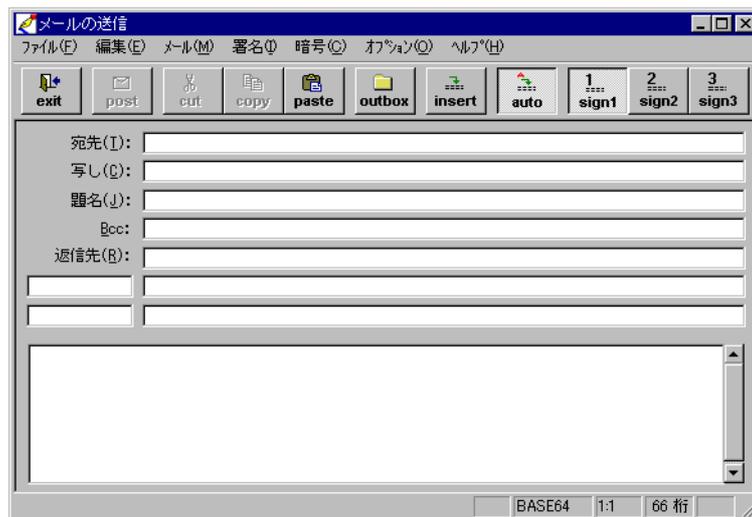
写し

メールを同報するアドレスを指定します。複数指定も可能です。複数指定の方法は、宛先と同じです。ここにカーソルを置くと、アドレス帳が表示されます。

題名

メールの題名を記述します。全角文字を指定することもできます。文字数の制限は特にありませんが、あまり長いものは避け、1行に収まるようにしてください。

また、「オプション」「詳細設定」をクリックすると、「メール送信ウィンドウが以下のように変わります。



詳細設定

Bcc: (ブラインド・カーボン・コピー)

通常、ヘッダを見れば誰に送って、誰に同報したかがわかりますが、ここに宛先を指定すると、ヘッダに情報が記載されません。よって、宛先/写しに指定した人たちにわからないように送りたい場合は、ここにアドレスを指定します。ここにカーソルを置くと、アドレス帳が表示されます。

返信先

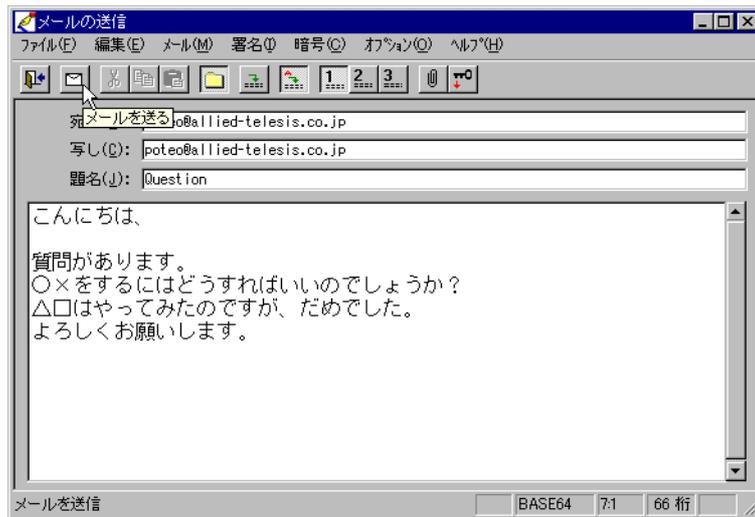
普段使っているのとは異なるアドレスに返信してほしいときは、ここでそのメールアドレスを指定します。

指定ヘッダ(「返信先」の下)

任意のヘッダを付加したいときは、ここにヘッダ名と内容を記述します。

2. 必要項目を指定したら、本文を入力します。

3. 本文を入力したら、「メール」「送信」または「post」ボタンをクリックします。



メール送信

4. 「送信の確認」ダイアログが表示されます。各項目の設定を確認して、よければ「OK」ボタンをクリックして送信します。



送信の確認ダイアログ

2.7.2 返信

1. ReadMail ウィンドウで読んでいるメールに返事を出す場合は、メニューの「メール」「返信」または「reply」ボタンをクリックします。

2. 「メールの返信」ダイアログが表示されます。各項目を指定し、「OK」ボタンをクリックします。



メールの返信ダイアログ

発信者

From に指定されていたアドレスを、To にコピーするかどうかを指定します。

To のアドレス

To に指定されていたアドレスを、To にコピーするかどうかを指定します。リストは反転した行のみがコピーされます。マウスクリックで変更できます。

Cc のアドレス

Cc に指定されていたアドレスを、Cc にコピーするかどうかを指定します。リストは反転した行のみがコピーされます。マウスクリックで変更できます。

引用符

引用した行の先頭に付ける文字を指定します。

引用のコメント

引用部分の前につけるコメントの言語を選択します。日本語と英語から選択できます。コメントが不要な場合は「なし」を選択します。

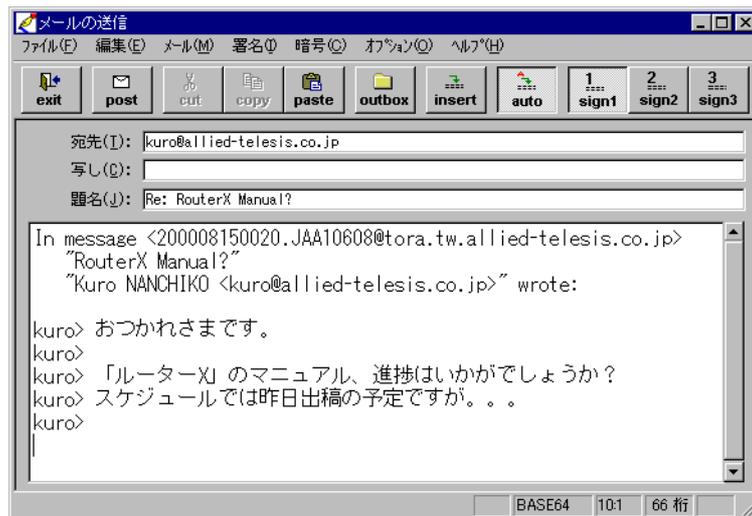
名前付き引用

ここをチェックすると、引用行の先頭に元メールの送信者のアドレスが入ります。

本文を引用

本文を引用するかどうかを指定します。

3. 「メールの送信」ウィンドウが表示されます。

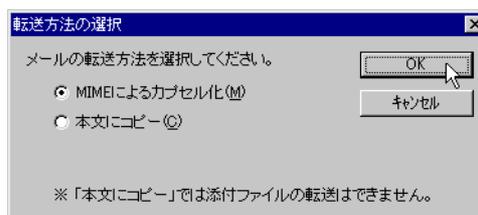


メールの送信ウィンドウ

4. 本文を入力し、メニューの「メール」「送信」または「post」ボタンをクリックします。
5. 「送信の確認」ダイアログが表示されます。各項目の設定を確認して、よければ「OK」をクリックして送信します。

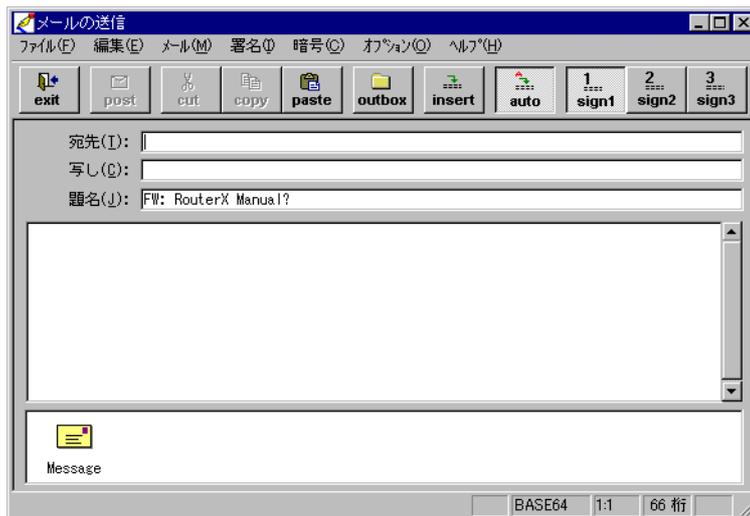
2.7.3 転送

1. ReadMail ウィンドウで転送したいメールを選択し、メニューの「メール」「転送」または「forward」ボタンをクリックします。
2. 「転送方法の選択」ダイアログが表示されます。「MIME によるカプセル化」か「本文にコピー」のどちらかを選択して「OK」ボタンをクリックします。

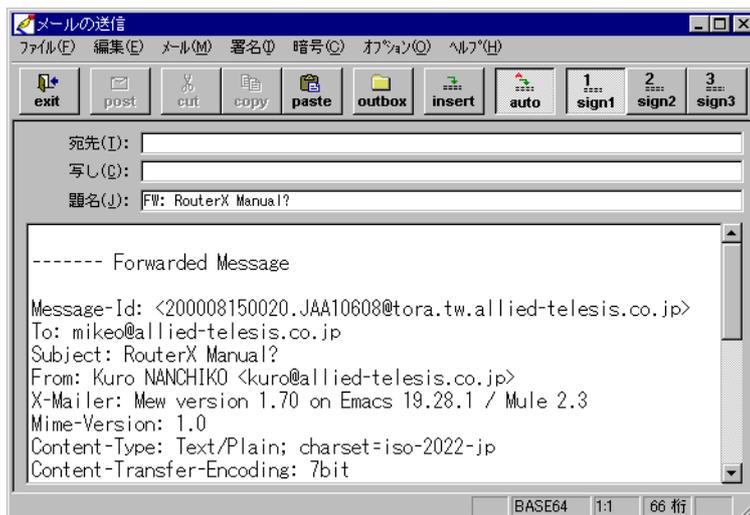


転送方法の選択ダイアログ

3. 「メールの送信」ウィンドウが開きます。



「MIME によるカプセル化」の場合



「本文にコピー」の場合

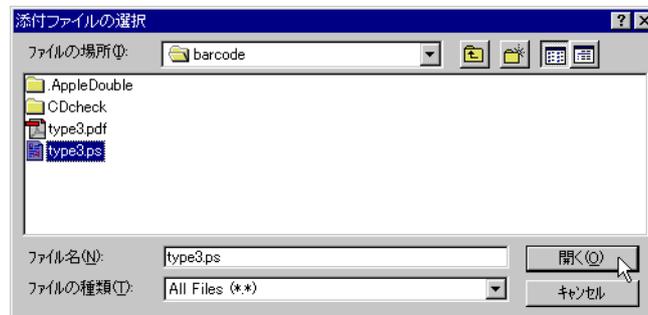
4. 「宛先」と「写し」を指定し、メニューの「メール」「送信」または「post」ボタンをクリックします。
5. メニューの「オプション」「送信確認」がチェックされている場合は、「送信の確認」ダイアログが表示されます。各項目の設定を確認して、よければ「OK」をクリックして送信します。

2.8 添付ファイル

ATMail では、任意のファイルをメッセージに添付して送信したり、受信メールに添付されたファイルを表示、保存することができます。

2.8.1 添付ファイルの送信

1. 「メールの送信」ウィンドウを表示させます。
2. メニューから「ファイル」「添付ファイル」「追加」を選択するか、ツールバーの「attach」ボタンをクリックします。
3. 「添付ファイルの選択」ダイアログが表示されるので、添付するファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。



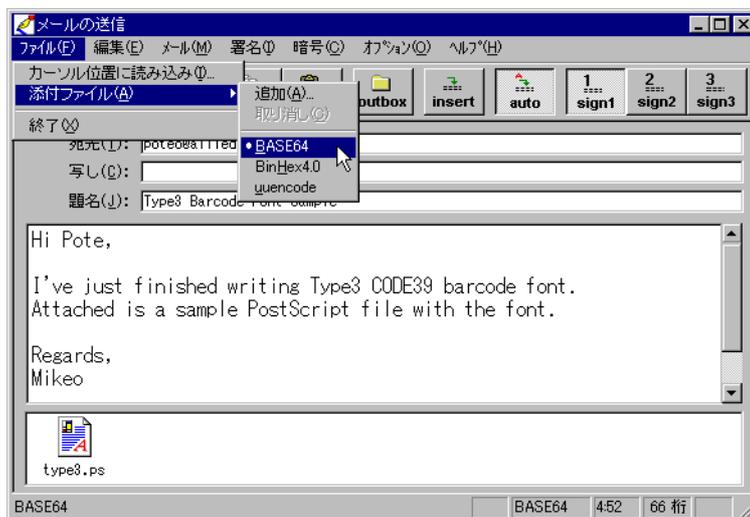
添付ファイルの追加

4. 「メールの送信」ウィンドウの下部に添付ファイルのアイコンが表示されます。



添付ファイルのアイコン

5. 添付ファイルのエンコード形式は、メニューの「ファイル」 「添付ファイル」で選択できます。BASE64、BinHex4.0、uuencode の中から選択してください。選択されているエンコード形式は、「メールの送信」ウィンドウの右下にも表示されます。

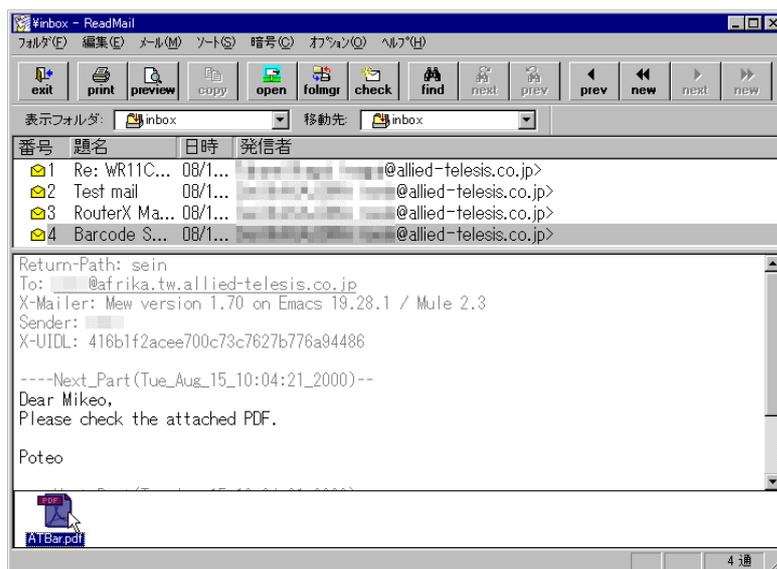


エンコード形式の選択

6. あとは、前述のメール送信手順にしたがってメールを送信します。

2.8.2 添付ファイルの表示

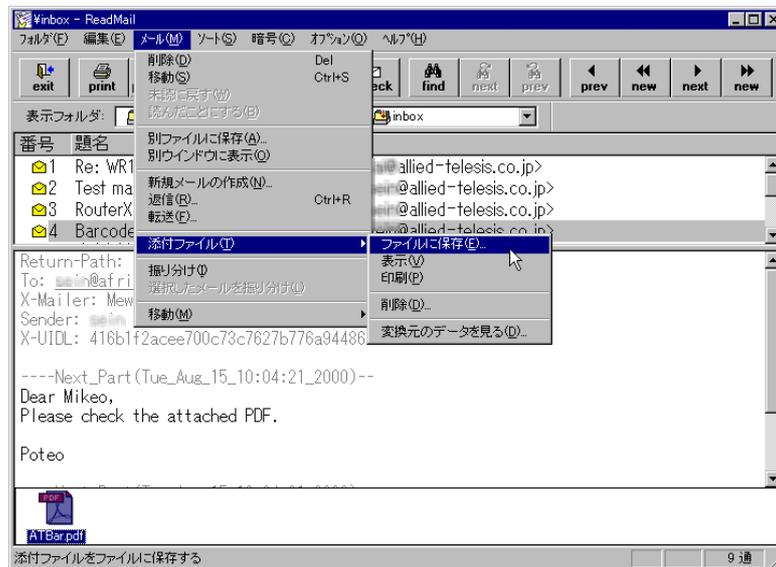
表示させたい添付ファイルのアイコンを選択し、メニューから「メール」 「添付ファイル」 「表示」を選択するか、添付ファイルのアイコンをダブルクリックします。また、添付ファイルアイコンの右クリックメニューから「表示」を選択することもできます。



添付ファイルの表示

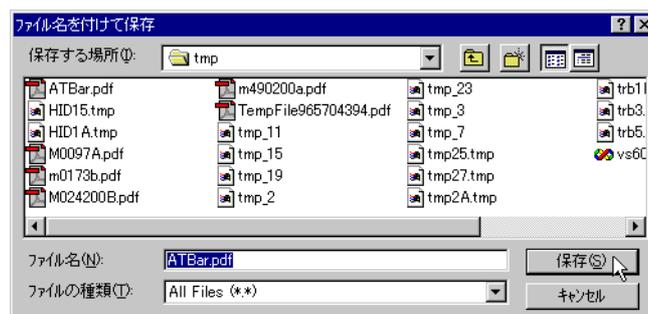
2.8.3 添付ファイルの保存

1. 保存したい添付ファイルのアイコンを選択し、メニューから「メール」「添付ファイル」「ファイルに保存」をクリックします。あるいは、添付ファイルアイコンの右クリックメニューから「ファイルに保存」を選択しても同じです。



添付ファイルの保存

2. 「ファイル名を付けて保存」ダイアログが表示されるので、保存するファイルの名前を指定して「OK」ボタンをクリックします。

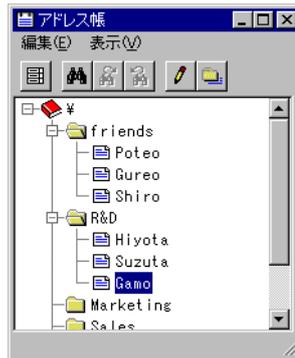


添付ファイル保存ダイアログ

2.9 アドレス帳

「メールの送信」ウィンドウのアドレス指定テキストボックス（「宛先」や「写し」など）にカーソルを置くと、「アドレス帳」ウィンドウが表示されます。

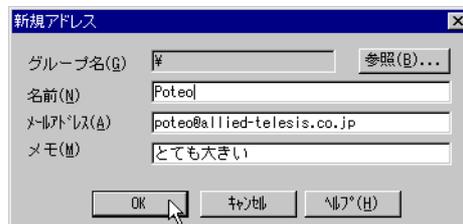
アドレス帳にメールアドレスを登録しておくことで、メールを送信する際にいちいちメールアドレスを入力する必要がなくなるので便利です。



アドレス帳

2.9.1 アドレスの登録

1. 「アドレス帳」ウィンドウのメニューから「編集」、「新規作成」、「アドレス」の順に選択します。
2. 「新規アドレス」ダイアログが表示されるので、アドレス帳に登録する人の「名前」、「メールアドレス」を入力して「OK」ボタンをクリックしてください。コメントを付けたい場合は、「メモ」に入力します。また、「参照」ボタンを押して「グループ名」を選択することにより、アドレスを指定したグループ直下に登録することもできます。



新規アドレスダイアログ

3. 「アドレス帳」ウィンドウに、登録したアドレスの「名前」が表示されます。登録したアドレスは、デフォルトではルート直下に表示されます。

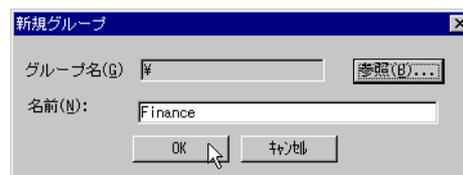


登録されたアドレス

2.9.2 グループの作成

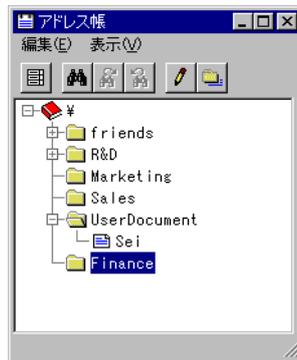
登録したアドレスは、グループ（フォルダのようなもの）ごとに分類することができます。

1. 「アドレス帳」ウィンドウのメニューから「編集」、「新規作成」、「グループ」の順に選択します。
2. 「新規グループ」ダイアログが表示されるので、作成するグループの名前を「名前」に入力します。「グループ名」に表示されるのは、作成するグループが所属する親グループの名前です。「参照」ボタンを押すとツリーが表示され、グループの作成場所を選択することができます。例ではツリーのルート直下に「Finance」というグループを作成します。



新規グループダイアログ

3. 入力が完了したら「OK」ボタンを押してください。「アドレス帳」ウィンドウに作成したグループが表示されます。



登録されたグループ

2.9.3 登録内容の変更

登録したアドレスやグループの名前などは、次の手順で変更することができます。

1. 変更したいアドレス名またはグループを選択し、「編集」 「編集」を選択するか、ツールバーの「編集」ボタンをクリックします。
2. 名前を変更する場合は「アドレスの編集」ダイアログが、グループ名を変更する場合は「グループの編集」ダイアログが表示されます。



名前を変更する場合



グループ名を変更する場合

3. 各項目を編集し、「OK」ボタンをクリックします。

2.9.4 登録内容の削除

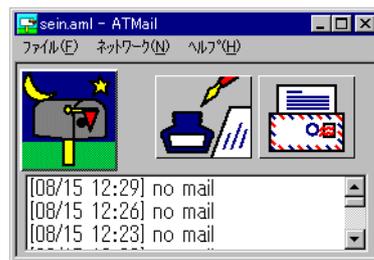
登録したアドレスやグループを削除するには、次の手順にしたがってください。

1. 削除したい名前またはグループを選択し、「編集」「削除」を選択します。
2. 削除するかどうかを確認するダイアログが表示されます。削除する場合は「はい」をクリックします。

2.10 オフラインモード

ATMail は、定期的（問い合わせ間隔）にサーバ上のメールボックスを参照します。よって、ダイヤルアップ IP 接続で ATMail を利用する場合は、通常 ATMail が動いている間、回線が接続されたままになります。「メールを読み終わったら、接続を切りたい」ときは、以下の手順でオフラインモードに切り替えてください。

オフラインモードでは、ATMail ウィンドウが次のような表示になります。

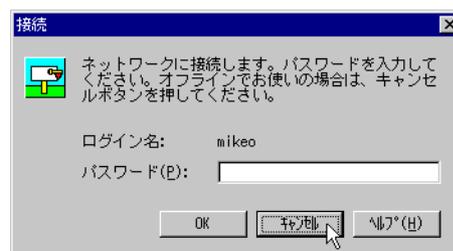


オフライン時のメインウィンドウ

2.10.1 モードの切り替え

ATMail をオフラインで起動する

ATMail 起動時の「接続」ダイアログボックスでログインせずに、「キャンセル」します。



オフライン起動

メニューで切り替える

ATMail ウィンドウの「ネットワーク」をクリックし、プルダウンメニューを表示させ、「オンライン」にチェックが付いているかどうかを確認します。チェックしてあればオンラインですので、クリックしてチェックを外します。



オフラインへの切り替え

＼ オフラインでメールを読むには、オンライン時に「ネットワーク」「環境設定」で環境設定ダイアログを表示させ、「オフラインモードを許可する」をチェックしておかなければなりません。ただし、この設定を行うと、パスワードによる認証が行われなくなるので、受信したメールを誰でも読むことができます。その点充分ご注意ください。

2.10.2 オフライン時にメールを書く

オフライン時にはサーバと接続しないので、実際にサーバとのメールの送受信はできませんが、ダイヤルアップ IP 環境でお使いの場合、オフラインの状態でもメールを書きためておき（送信待機フォルダに保存）接続時にまとめて送信することができます。

1. ATMail ウィンドウの「ネットワーク」「メールを送る」または  ボタンをクリックし、「メールの送信」ウィンドウを表示させます。
2. 「メールの送信」の各手順に従ってメールを作成、送信します。
3. 以下のメッセージが表示されます。



待機メッセージ

＼ 送信待機フォルダは、「OutGoing」という名前で作成されます。送信待機フォルダがない場合や消してしまった場合は、「フォルダ管理」ウィンドウの「ファイル」「新規作成」「フォルダ」メニューを使って「OutGoing」というフォルダを作成してください。

2.10.3 オンラインにしてメールを送信する

1. ATMail ウィンドウで、「ネットワーク」 「オンライン」をチェックします。
2. オフライン時に書いたメールがあるときは、次のダイアログが表示されます。送信する場合は、「はい」をクリックします。



待機メール送信の確認

2.10.4 送信待機フォルダの確認

オンライン切り替え時に以下の状況が発生した場合、送信待機フォルダには、送信されなかったメールが残ります。

- 送信待機フォルダからのメール送信に失敗した場合
- 送信待機メールを送信しなかった（キャンセルした）場合

送信待機フォルダの内容を見るには、ReadMail ウィンドウの「フォルダ」 「送信待機フォルダを開く」を選択します。

2.11 高度な設定

ATMail では、「高度な設定」ダイアログボックスで、メールホストとの通信設定をさらに細かく指定することができます。

この設定の変更は、オフライン時にのみ行えます。オンライン時は参照することしかできませんので、あらかじめメニューの「ネットワーク」 「オンライン」でオフラインにしておいてください。

1. ATMail ウィンドウの「ネットワーク」 「高度な設定」を選択します。

2. 「高度な設定」ダイアログが表示されるので、必要な項目を変更します。



高度な設定ダイアログ

POP Port

POP サーバのポート番号を指定します。通常は 110 です。お使いの POP サーバのポート番号がデフォルト (既定値) でない場合は、その値を設定してください。

SMTP Port

SMTP サーバのポート番号を指定します。通常は 25 です。お使いの SMTP サーバのポート番号がデフォルト (既定値) でない場合は、その値を設定してください。

FQDN

メール送信時に POP3 のエラーが出た場合、ここでドメイン名を指定します。

TCP WAIT

サーバに接続する際のタイムアウト値 (秒) を指定します。ダイヤルアップ接続時にサーバとの接続に失敗する場合は、この値を長くしてみてください。

TCP Retry

サーバへの接続が失敗した場合の再試行回数を指定します。ダイヤルアップ接続時にサーバとの接続に失敗する場合は、この値を大きくしてみてください。

送信漢字コード

送信するメールメッセージの漢字コードを指定します。通常は「JIS」を指定します。

受信漢字コード

受信メッセージの漢字コードを指定します。通常は「自動判定」を指定します。

APOP を使う

POP サーバとの接続時にパスワードを暗号化して送ります。サーバが APOP をサポートしている必要があります。

3. 各項目の入力が終了したら「OK」ボタンをクリックします。

2.12 暗号化

ATMail では、PGP という公開鍵暗号プログラムを利用して、暗号化されたメールの送受信が可能です。電子メールは大変便利なアプリケーションですが、インターネットメールには元来葉書並みのセキュリティが低いという欠点があります。

メッセージに暗号化を施せば、この欠点をいくらか解消することができます。以下、ATMail における暗号化機能の使い方について説明します。

※ 本パッケージには、PGP プログラムは含まれていません。「Installation Guide」の該当部分をご参照の上、各自入手/インストールしてください。以下の説明では、PGP のインストールは完了しているものとしています。

2.12.1 暗号化の概要

電子メールの問題点

電子メールを使用して情報をやり取りするときに問題となるのが、情報の機密性と信頼性です。一般的に、電子メールによる情報のやり取りには次のような問題点があります。

盗聴

メールは複数の拠点（機器）によって中継されるため、第三者によって盗み見られる可能性があります。暗号化されていないメールには、郵便における「葉書」と同程度の機密性しかありません（見ようと思えば誰でも見ることができる）。

改ざん

中継の途中で、第三者によってメールの内容が変更されてしまう恐れがあります。

否認

都合の悪いメールに対して、送信者がメールを送信した事実を認めない恐れがあります。

なりすまし

第三者が他人になりますましてメールを出してしまう可能性があります。

公開鍵暗号

これらの問題点は、「公開鍵暗号」と呼ばれる技術によって、ある程度解決することができます。公開鍵暗号では、「秘密鍵」と「公開鍵」という 2 つの鍵をペアで使用します。ATMail では PGP という公開鍵暗号プログラムを使用します。

公開鍵

メッセージを暗号化するために使用する鍵です。その名が示すように、公開鍵を秘密にしておく必要はありません。公開鍵暗号を使う場合は、あらかじめ自分の公開鍵を、情報をやり取りしたい相手に渡しておきます。自分の公開鍵で暗号化されたメッセージは、自分の秘密鍵でしか復号化できません。逆に、メッセージを暗号化して送信するときは、相手の公開鍵を使います。

秘密鍵

公開鍵によって暗号化されたメッセージを復号化するときや、電子署名をするときに使用する鍵です。秘密鍵は作成した本人だけが所有し、厳重に管理します。

パスフレーズ

PGP では、秘密鍵を保護するためにパスフレーズというパスワードを使用します。この文字列は、秘密鍵を使用するときに常に入力を求められます。

2.12.2 PGP の環境設定と鍵の作成

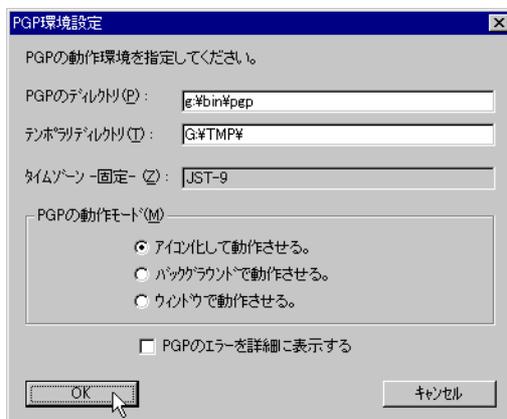
暗号化機能を利用するには、あらかじめ PGP プログラムの環境設定を行い、自分の秘密鍵と公開鍵を作成しておく必要があります。

1. ATMail ウィンドウで「ファイル」「セキュリティ設定」を選択します。
2. 初めてのときは次のメッセージが表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。



メッセージ

3. 「PGP 環境設定」ダイアログが表示されます。各項目について設定を行い、「OK」ボタンをクリックします。



PGP 環境設定ダイアログ

PGP のディレクトリ

PGP プログラムがインストールされているディレクトリを指定します。

テンポラリディレクトリ

PGP が一時ファイルを格納するディレクトリを指定します。

PGP の動作モード

PGP プログラム実行時の動作モードを以下の3つから選択します。

アイコン化して動作させる。

PGP をアイコン化 (最小化) された状態で実行します。PGP の動作自体は見えません。

バックグラウンドで動作させる。

PGP のバックグラウンドで実行します。一連の動作はウィンドウ上に現れません。

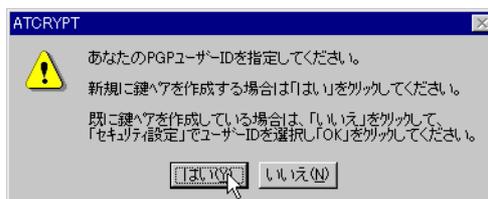
ウィンドウで動作させる。

PGP をウィンドウ状態で実行します。PGP を実行すると、MS-DOS プロンプトが開き、一連の動作が表示されます。

PGP のエラーを詳細に表示する

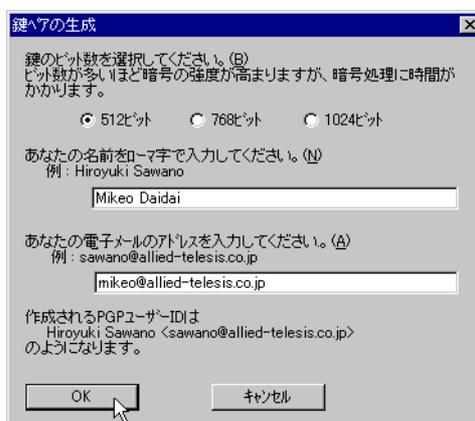
PGP の実行経過を詳細に表示します。

- 次のダイアログが表示されます。新規に公開鍵と秘密鍵のペアを作成する場合は「はい」を、すでに鍵ペアを作成済みの場合は「いいえ」ボタンをクリックします。



Atcrypt メッセージ

- 「はい」ボタンをクリックすると「鍵ペアの生成」ダイアログが表示されます。ここでは鍵を作成するため、以下の項目について設定が必要となります。設定が終わったら「OK」ボタンをクリックしてください。



鍵ペアの作成ダイアログ

鍵のビット数

公開鍵の長さを選択します。鍵が長いほどメッセージの安全度が高くなります。

名前

自分の名前を入力します。

電子メールのアドレス

メールのアドレスを入力します。

6. MS-DOS プロンプトが開き、以下のメッセージが表示されます。ここでは秘密鍵を保護するためのパスフレーズを登録します。パスフレーズは秘密鍵を使用するときになります。短すぎるものや容易に想像ができるようなものを避けて登録してください。パスフレーズは画面上に表示されることはありません。

```
You need a pass phrase to protect your RSA secret key.
Your pass phrase can be any sentence or phrase and may have many
words, spaces, punctuation, or any other printable characters.
```

```
Enter pass phrase:
```

7. 確認のため、もう一度パスフレーズを入力します。

```
Enter same pass phrase again:
```

8. 公開鍵と秘密鍵を作成するために必要なランダムなビット列を作ります。ビット列は、キー入力の間隔を元に作られます。ビーブ音が鳴るまで適当なキー入力をしてください。ただし、同じキーを連続で入力することは避けてください。

```
Note that key generation is a lengthy process.
```

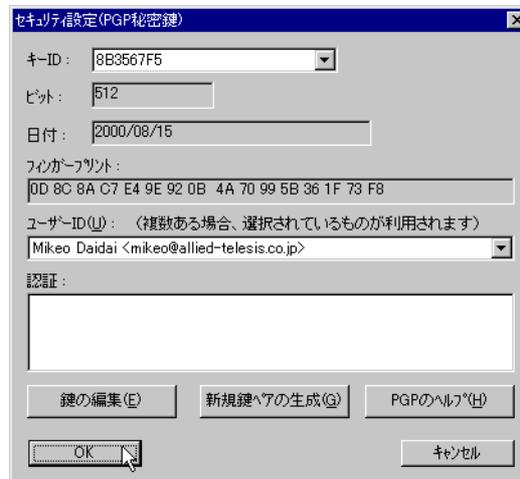
```
We need to generate 576 random bits. This is done by measuring the
time intervals between your keystrokes. Please enter some random text
on your keyboard until you hear the beep:
```

```
576
```

9. ビーブ音が鳴った後、公開鍵と秘密鍵の作成が始まります。

```
0 * -Enough, thank you
.....****
```

- 公開鍵と秘密鍵が作成されると、MS-DOS プロンプトは閉じ、次のような「セキュリティ設定」ダイアログが表示されます。「ユーザー ID」ボックスに自分の名前とメールアドレスが表示されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。



PGP 秘密鍵

2.12.3 作成した公開鍵を相手に渡す

暗号化したメールのやりとりをするには、当事者がお互いの公開鍵を持っていないければなりません。そのためには、作成した自分の公開鍵を鍵ファイルから取り出し、相手に渡す必要があります。

鍵を渡す方法には、メールで送る方法と FD などのメディアにコピーして手渡す方法の 2 種類があります。

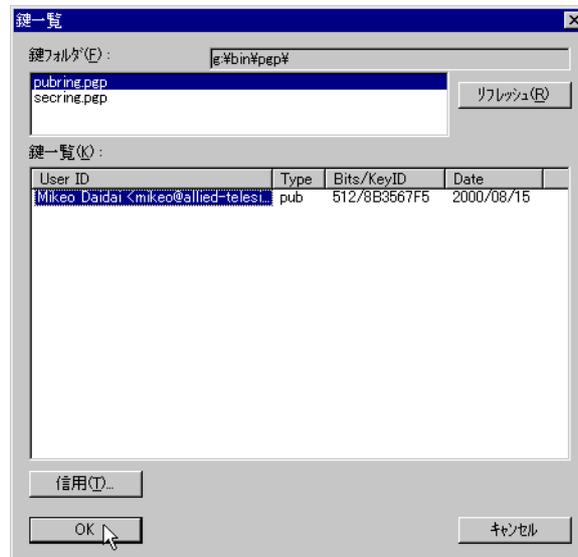
メールに添付して渡す

メールに自分の公開鍵を添付するには 2 つの方法があります。「メールの送信」ウィンドウ上で行う方法と ATMail ウィンドウ上で行う方法です。

「メールの送信」ウィンドウでの方法

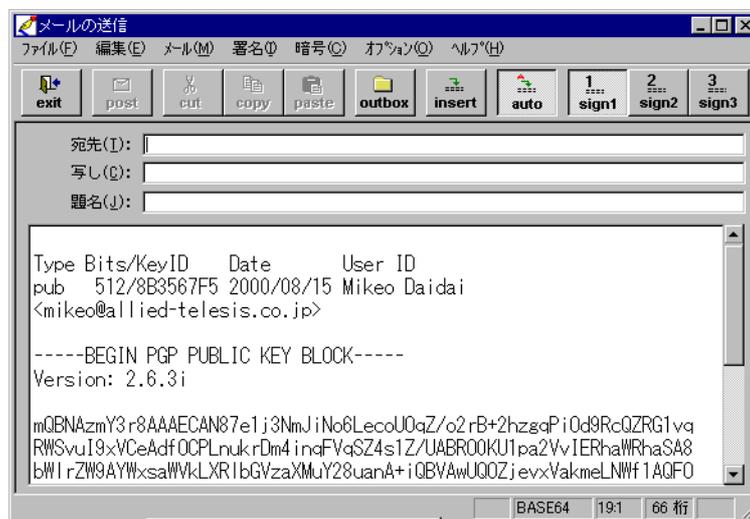
- 「メールの送信」ウィンドウを開き、「暗号」「公開鍵の添付」を選択します。

2. 「鍵一覧」ダイアログが表示されるので、鍵一覧から自分の User ID を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



鍵一覧ダイアログ

3. 次のように自分の公開鍵が取り出され、メールの本文に挿入されます。あとは、宛先や題名など必要項目を入力すれば、このまま簡単に送ることができます。

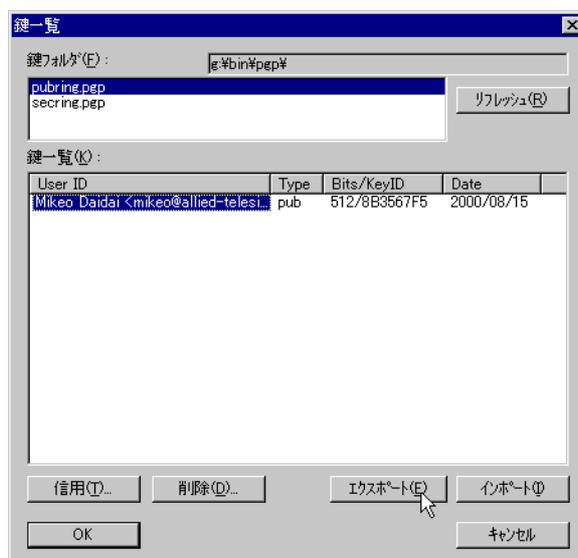


本文に挿入された公開鍵

「ATMail」ウィンドウでの方法

1. メニューの「ファイル」「公開鍵管理」をクリックします。

- 「鍵一覧」ダイアログが表示されるので、鍵一覧から自分の User ID を選択し、「エクスポート」ボタンをクリックします。



鍵一覧ダイアログ

- 「鍵のエクスポート」ダイアログが表示されます。エクスポート先として「クリップボード」を指定し、「OK」ボタンをクリックします。自分の公開鍵が取り出され、クリップボードにコピーされます。



鍵のエクスポート

- あとは、クリップボードにコピーされた公開鍵をメール本文に貼り付けて送ることができます。

ファイルをコピーして渡す

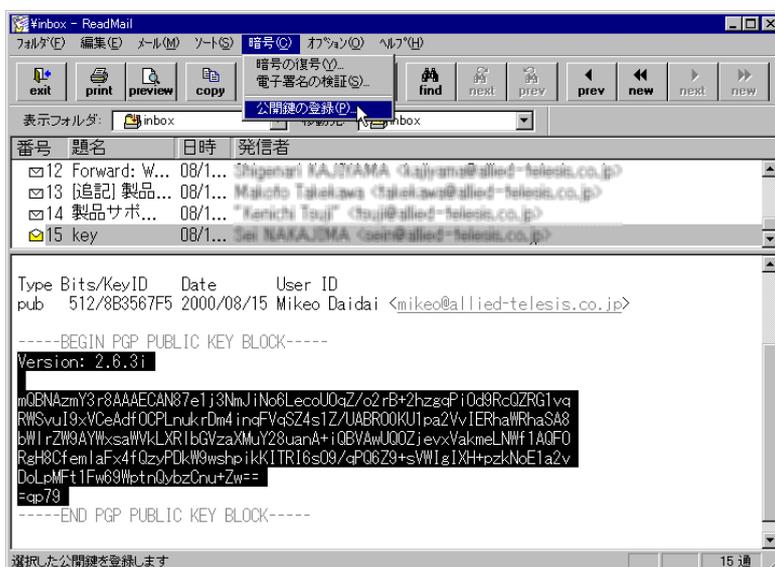
- 「ATMail ウィンドウでの方法」の手順 1~2 で「鍵のエクスポート」ダイアログを表示させます。
- エクスポート先として「ファイル」を指定し、ファイル名をフルパスで入力して「OK」ボタンをクリックします。自分の公開鍵が取り出され、指定したファイルに書き出されます。
鍵を書き出したファイルの拡張子は「.asc」となります。あとは、このファイルをフロッピーディスク等のメディアにコピーして、相手に渡すことができます。

2.12.4 受け取った公開鍵を鍵フォルダに登録する

相手から公開鍵を受け取ったら、自分の「鍵フォルダ」に受け取った公開鍵を登録しなければなりません。登録方法には、ReadMail ウィンドウ上で行う方法と ATMail ウィンドウ上で行う方法があります。

「ReadMail」ウィンドウでの方法

1. 公開鍵のデータ部分を選択し、メニューの「暗号」「公開鍵の登録」を選択します。公開鍵のデータ部分とは、「---BEGIN PGP PUBLIC KEY BLOCK---」と「---END PGP PUBLIC KEY BLOCK---」に囲まれた部分をさします。



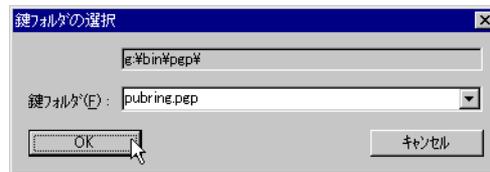
公開鍵の登録

公開鍵のデータ部分の例

```
Version: 2.6.3ia
```

```
KiiGKKDGZARw1myfy4tZemIwKQyCIu9FOy4MYEr28ch38mjlgPVyj2Tjgrx9AAUR
tChFbWkgVGFryWhhc2hpidXlbWlAYWxsaWVkbGZvaXMuY28uanA+iQCVAwUQ
MroW0PVyj2Tjgrx9AQHZwwP/WOTq+trEp+IMqbOn/1GjF1NyPP0WgbyK48pCAiLR
MAIbY58fqgFwBkTAu03gpMIskY7CVz6mDpnX3NLvLyViNav2nBMLV6B3e8VelkY
uE8=
=4pMC
```

2. 「鍵フォルダの選択」ダイアログが表示されます。自分の鍵フォルダ名 (pubring.pgp) を確認し、「OK」ボタンをクリックします。



鍵フォルダの選択ダイアログ

3. 以下のダイアログが表示されます。受け取った公開鍵の内容を確認し、その公開鍵の正当性を認めて (認証して) 登録する場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。確認をせずに鍵フォルダに追加する場合は、「はい」をクリックします。



鍵追加の確認

「いいえ」ボタンをクリックした場合は、MS-DOS プロンプトが開き、通常以下の項目について質問されます (公開鍵によっては、聞かれない項目もあります)。

- (a) 誰にも認証されていない公開鍵に対して、あなた自身で認証するかどうか尋ねられます。
- (b) 前の質問に y と答えると、鍵の指紋 (fingerprint) が表示されます。この指紋に対して、本当に認証するかどうか聞いてきます。
- (c) 前の質問に対して y と答えると、公開鍵が表示され、その公開鍵が本当に表示されている User ID のものなのか聞いてきます。
- (d) 前の質問に対して y と答えると、あなたのパスワードを聞いてきます。
- (e) パスワードを入力すると、表示された User ID の人を信用しているか、もし、第三者の公開鍵にこの User ID の人が認証者として署名している場合に、第三者の公開鍵を認証するかどうか聞いてきます。
- (f) 以下の項目からその答えを選び、番号を入力します。
 - I don't know (わからない)
 - No (信用しない)
 - Usually (だいたい信用する)
 - Yes, alway (常に信用する)

相手の人が十分に信用できる人であれば、3 か 4 を指定します。または 2 を指定した場合は、第三者の公開鍵の中に、その User ID の人の署名がある場合に、その正当性について確認することになります。

4. すべての質問に答えると DOS プロンプトが閉じ、以下のダイアログが表示されるので、「OK」ボタンをクリックしてください。

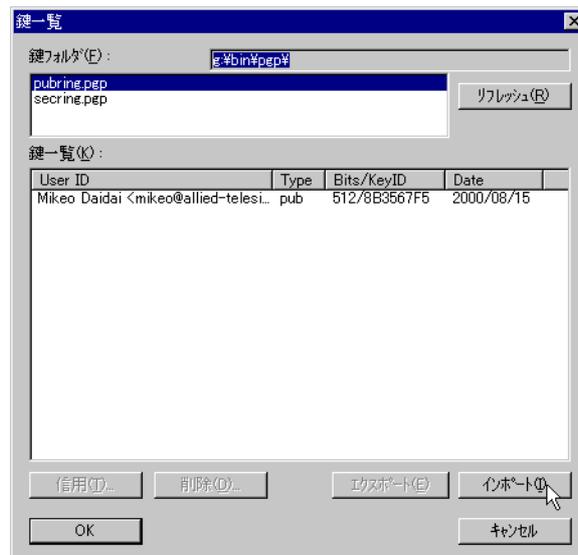


公開鍵の取り出し成功

「ATMail」ウィンドウでの方法

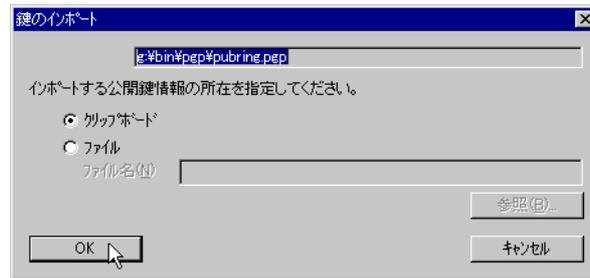
メールで受け取った場合

1. ReadMail ウィンドウで、公開鍵のデータ部分を選択し、メニューの「編集」「コピー」をクリックします。
2. ATMail ウィンドウの「ファイル」「公開鍵管理」を選択します。
3. 「鍵一覧」ダイアログが表示されるので、「インポート」ボタンをクリックします。



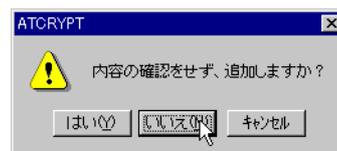
鍵一覧

4. 「鍵のインポート」ダイアログが表示されるので、「クリップボード」を選択し「OK」ボタンをクリックします。



鍵のインポート

5. 以下のダイアログが表示されます。受け取った公開鍵の内容を確認し、その公開鍵の正当性を認めて（認証して）登録する場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。確認をせずに鍵フォルダに追加する場合は、「はい」をクリックします。ただし、その公開鍵に第三者の署名がある場合、自分の公開鍵フォルダでその第三者を認証していない場合は、「はい」を押しても認証の手続きが行われます。



鍵追加の確認

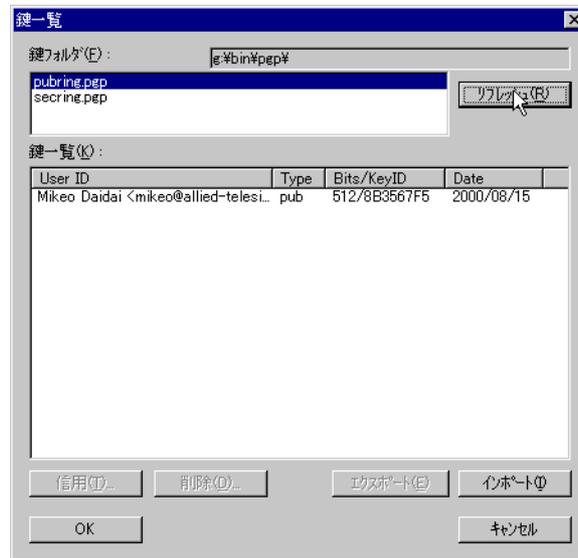
「いいえ」ボタンをクリックした場合は、MS-DOS プロンプトが開き、通常以下の項目について質問されます（公開鍵によっては、聞かれない項目もあります）。

- 誰にも認証されていない公開鍵に対して、あなた自身で認証するかどうか尋ねられます。
- 前の質問に y と答えると、鍵の指紋（fingerprint）が表示されます。この指紋に対して、本当に認証するかどうか聞いてきます。
- 前の質問に対して y と答えると、公開鍵が表示され、その公開鍵が本当に表示されている User ID のものなのか聞いてきます。
- 前の質問に対して y と答えると、あなたのパスフレーズを聞いてきます。
- パスフレーズを入力すると、表示された User ID の人を信用しているか、もし、第三者の公開鍵にこの User ID の人が認証者として署名している場合に、第三者の公開鍵を認証するかどうか聞いてきます。
- 以下の項目からその答えを選び、番号を入力します。
 - I don't know（わからない）
 - No（信用しない）
 - Usually（だいたい信用する）
 - Yes, always（常に信用する）

相手の人が十分に信用できる人であれば、3 か 4 を指定します。または 2 を指定した場合は、

第三者の公開鍵の中に、その User ID の人の署名がある場合に、その正当性について確認することになります。

6. すべての質問に答えると DOS プロンプトが閉じ、「鍵一覧」ウィンドウに戻ります。
認証の手続きは、「鍵一覧」ダイアログの「信用」ボタンで行うこともできます。
7. 「リフレッシュ」ボタンをクリックして、公開鍵ファイルを更新します。

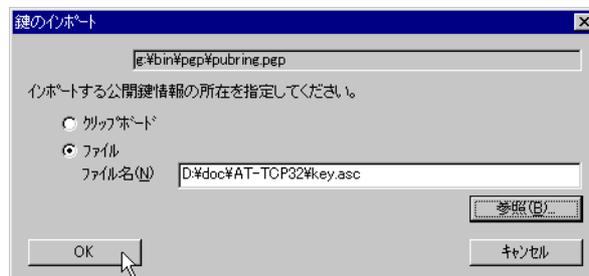


鍵ファイルの更新

8. 公開鍵ファイルの情報が更新されます。

ファイルで受け取った場合

1. 「メールで受け取った場合」の手順 2~3 で「鍵のインポート」ダイアログを表示させます。
2. 「鍵のインポート」ダイアログが表示されるので、「ファイル」を選択し、受け取った鍵のファイル名をフルパスで入力します。または、「参照」ボタンで選択することもできます。ファイル名を入力したら「OK」ボタンをクリックしてください。



鍵のインポート

3. 「メールで受け取った場合」の手順 5 ~ 7 にしたがって公開鍵の情報を更新します。

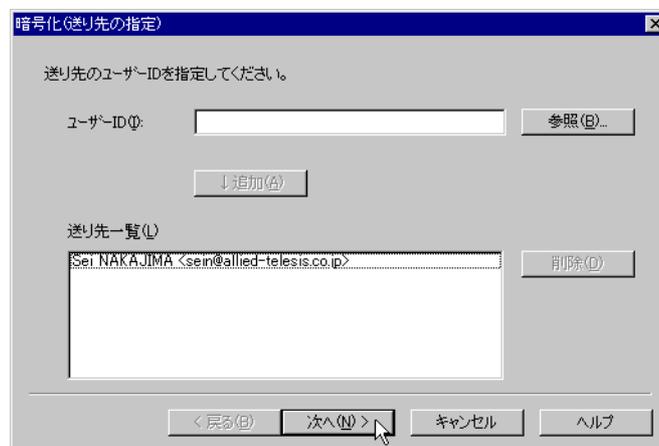
2.12.5 メールの暗号化

1. 「メールの送信」ウィンドウを開き、宛先、写し、題名、本文を入力します。
2. 「暗号」「暗号化」をクリックしてチェックを付けます。



暗号化メニュー

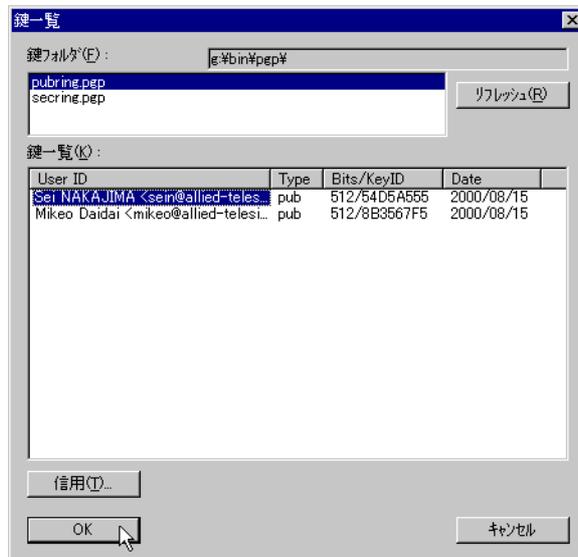
3. メニューの「メール」「送信」を選択するか「post」ボタンをクリックします。「送信の確認」ダイアログで送信先を確認して「OK」を押します。
4. 「暗号化(送り先の指定)」ダイアログが表示されます。ここでは送信先を確認します。「送り先一覧」に宛先が表示されるので、確認後「次へ」ボタンをクリックします。



送り先の確認

宛先にエイリアスを指定した場合や、送り先一覧に表示されている名前と鍵フォルダに登録してある名前が一致しない場合は暗号化することができません。

その場合は「ユーザー ID」ボックスの右側にある「参照」ボタンをクリックして「鍵一覧」ダイアログを表示させ、「鍵一覧」から宛先の User ID を選択して「OK」を押してください。



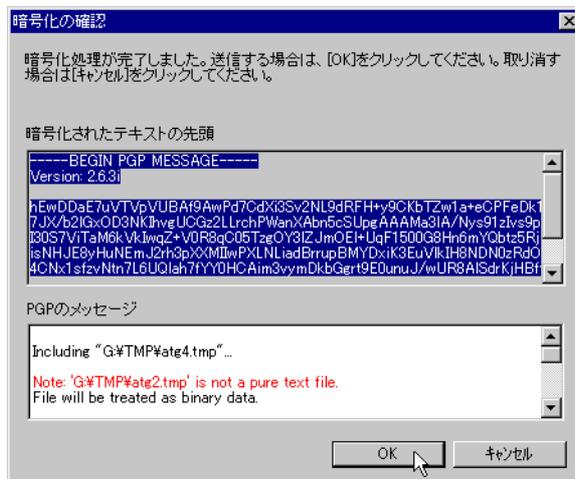
鍵一覧

- 署名をするダイアログが表示されます。暗号文に署名する場合は、「署名をする」にチェックし、その下のボックスにパスフレーズを入力します。署名しない場合は、「署名をする」のチェックを外します。入力が終了したら「完了」ボタンをクリックします。



パスフレーズの入力

6. 暗号化処理を行った後、「暗号化の確認」のダイアログが表示されます。そのまま送信する場合は「OK」ボタンをクリックします。取り消す場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。

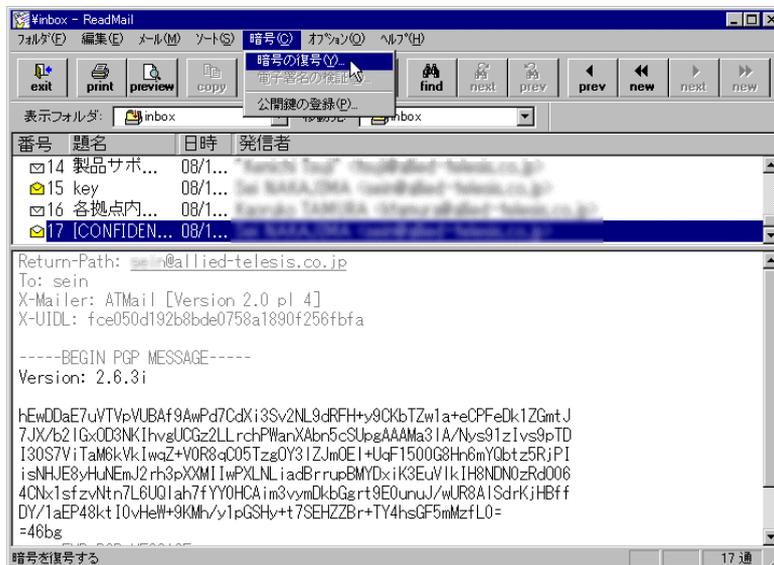


暗号化の確認

2.12.6 メールの復号化

暗号化されたメールを受信した場合は、次の手順で復号化します。

1. ReadMail ウィンドウで、「暗号化」「暗号の復号」を選択します。



復号メニュー

2. 「復号化 (パズフレーズ)」ダイアログが表示されます。パズフレーズを入力してください。



復号化ダイアログ

3. 復号化処理が行われ、ReadMail ウィンドウの下に、復号化されたメールの内容が表示されます。



復号化されたメール

2.12.7 PGP 頻出エラーメッセージ

エラー 1

Error: [ファイル名] is not a ciphertext, signature, or key file.

エラー: [ファイル名] は暗号化テキスト、署名、もしくはキーファイルではありません。

原因

暗号化や電子署名が施されていないメッセージを復号化しようとした。

対策

暗号化や電子署名が施されていないメッセージに対して復号化を行わないでください。

エラー 2

Error: Bad pass phrase.

エラー: パズフレーズが正しくありません。

原因

入力したパズフレーズが鍵のものと合致しなかった。

対策

正しいパスフレーズを入力してください。

エラー 3

Note: [ファイル名] is not a pure text file. File will be treated as binary data.

注意: [ファイル名] は純粋なテキストファイルではありません。ファイルはバイナリファイルとして扱われます。

原因

PGP263i が日本語の JIS コードに対応していない。

対策

メッセージが出力されるだけで処理は行われます。このメッセージは無視してかまいません。

エラー 4

Cannot find the public key matching userid [User ID] This user will not be able to decrypt this message.

User ID [User ID] の公開鍵が見つかりません。このユーザへのメッセージは暗号化できません。

原因

指定した送り先 User ID が pubring.pgp 中に存在しない。

対策

User ID をミスタイプしていないかどうか確認してください。ミスタイプしていない場合は公開鍵を持っていないということなので、User ID に対応する公開鍵を入手してください。

エラー 5

WARNING: Because this public key is not certified with a trusted signature, it is not known with high confidence that this public key actually belongs to:[User ID]

警告:この公開鍵は信頼できる署名によって認証されていないので、この公開鍵が本当に [User ID] のものかはわかりません。

原因

暗号化の際に使用した送り先の公開鍵に信用できる認証がなされていない。

対策

実際には処理が行われるため使用上の問題はありませんが、自分の User ID で認証を行うか、信頼できる User ID で認証された公開鍵を入手することで、この警告は出力されなくなります。

エラー 6

WARNING: Bad signature, doesn't match file contents!

警告:不正な署名です。ファイル内容と合致しません。

原因

ATMail はメールのメッセージテキストをシフト JIS 形式で保持していますが、電子メールに電子署名を施す場合、JIS コードで行うのが慣例となっています。その結果、電子署名を施したときと、署名の検証を行ったときのテキストに差異が発生し、このメッセージが出力されません。また、漢字混じりのメールでなくても、伝送の途中で変更が加えられた場合、このメッセージが出力されます。

対策

電子署名の検証を行いたいときは、送り主に暗号化も同時に行ってもらようお願いしてください。漢字混じりのメールでないときは、そのメールの内容は保証されないので、捨てることが望ましいです。

エラー 7

You do not have the secret key needed to decrypt this file.

あなたはこのファイルを復号化する秘密鍵を持っていません。

原因

暗号化されたメールが受取人以外の公開鍵を用いて暗号化されたか、受取人の秘密鍵を誤って秘密フォルダ (secring.pgp) から削除してしまった。

対策

メールが受取人以外の公開鍵で暗号化されていた場合は受取人の公開鍵で暗号化したものを送りなおしてもらってください。

エラー 8

WARNING: Can't find the right public key — can't check signature integrity.

警告: 正しい公開鍵がありません。--署名が完全であるかチェックできません。

原因

電子署名を検証するために必要となる、送り手の公開鍵を所有していない。

対策

電子署名を施した送り手の公開鍵を手に入れてください。

2.13 終了

ATMail ウィンドウで「ファイル」 「終了」を選択します。

第3章

ネットニュースリーダー

「ネットニュースリーダー」(ATNews)は、Windows上でネットニュースを読んだり、投稿したりするためのアプリケーションです。

本アプリケーションには、次のような特長があります。

- ニュースグループをツリー化して、一覧表示することができます。
- メールアプリケーションの「電子メール」(ATMail)を利用して、メールを送信することができます。
- 1台のマシンで複数のユーザが利用できます。
- ユーザごとに未読・既読の管理ができます。
- ユーザごとの購読情報を保存できます。

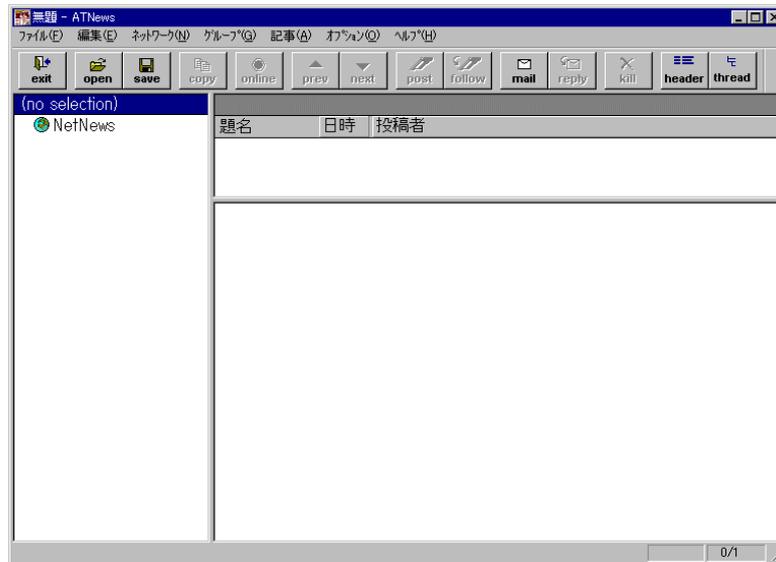
Topics:

- 起動 (☞ p.53)
- 環境設定 (☞ p.54)
- 接続 (☞ p.59)
- 記事の購読 (☞ p.59)
- 記事の投稿 (☞ p.61)
- フォローアップ (☞ p.63)
- メールの送信 (☞ p.63)
- 切断 (☞ p.64)
- 終了 (☞ p.64)

3.1 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「ネットニュースリーダー」の順に選択します。

2. メイン画面が表示されます。



メイン画面

3.2 環境設定

ニュースサーバに接続するためには、最初に環境設定が必要です。

メニューの「オプション」 「設定」をクリックすると、以下の環境設定ダイアログが表示されます。ここで、必要な情報を入力します。

環境をすべて設定したら、メニューから「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択し、ファイル名を指定して保存します。複数ユーザーでお使いの際には、ファイル名が重なったり、わからなくなったりしないようにご注意ください。

3.2.1 個人情報

個人情報を設定します。ここで設定した情報は、投稿する記事に付加されます。



The screenshot shows a dialog box titled '環境設定' (Environment Settings) with a close button (X) in the top right corner. The '個人情報' (Personal Information) tab is selected. The dialog contains three input fields: 'メールアドレス(M):' (Email Address) with the value 'mikeo@allied-tesis.co.jp', '本名(R):' (Real Name) with the value 'Mikeo DAIDAI', and '組織名(O):' (Organization Name) with the value 'Allied Tesis K.K.'. At the bottom, there are four buttons: 'OK', 'キャンセル' (Cancel), '適用(A)' (Apply), and 'ヘルプ' (Help).

個人情報

メールアドレス

メールアドレスを入力してください。投稿のときに、投稿者のアドレスとして付加されます。

本名

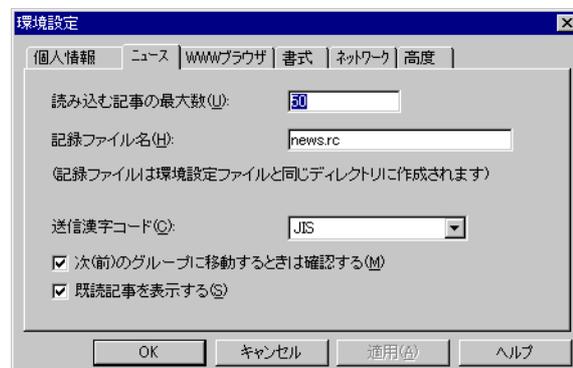
名前を入力してください。投稿のときに、投稿者名として付加されます。

組織名

会社名などの組織名を入力してください。組織名として付加されます。

3.2.2 ニュース

ニュースの購読、投稿に関する設定を行います。



The screenshot shows the same '環境設定' (Environment Settings) dialog box, but with the 'ニュース' (News) tab selected. The '読み込む記事の最大数(U):' (Maximum number of articles to load) is set to '50'. The '記録ファイル名(F):' (Record file name) is 'news.rc', with a note below it: '(記録ファイルは環境設定ファイルと同じディレクトリに作成されます)' (Record files are created in the same directory as the environment settings file). The '送信漢字コード(C):' (Send character code) is set to 'JIS'. There are two checked checkboxes: '次(前)のグループに移動するときを確認する(M)' (Confirm when moving to the next (previous) group) and '既読記事を表示する(S)' (Display read articles).

ニュースに関する設定

読み込む記事の最大数

最初に読み込むときの記事の数を設定します。

記録ファイル名

購読するニュースグループの状態を保存するファイルです。

送信漢字コード

記事を投稿するときの漢字コードを設定します。漢字コードのタイプには、JIS、EUC、SJIS があります。コードを間違えると、投稿する記事が文字化けしてしまうのでご注意ください。使用すべきコードは、ニュースサーバによって異なりますので、ニュースサーバの管理者におたずねください。

次 (前) のグループに移動するときは確認する

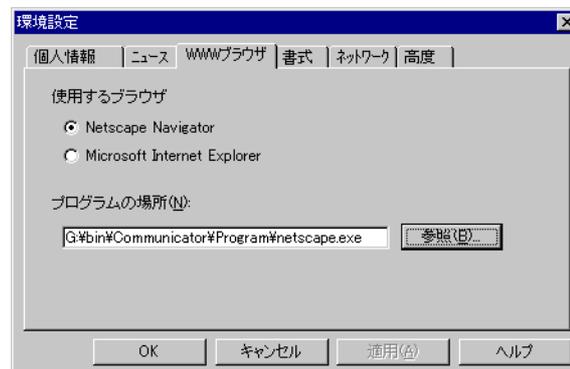
一番最後 (最初) の記事から次 (前) のニュースグループに移動するときに、確認するかどうかを設定します。

既読記事を表示する

すでに読んだ記事も記事一覧に表示します。

3.2.3 WWW ブラウザ

WWW ブラウザの種類と場所を設定します。



WWW ブラウザの指定

使用するブラウザ

使用するブラウザを選択します。

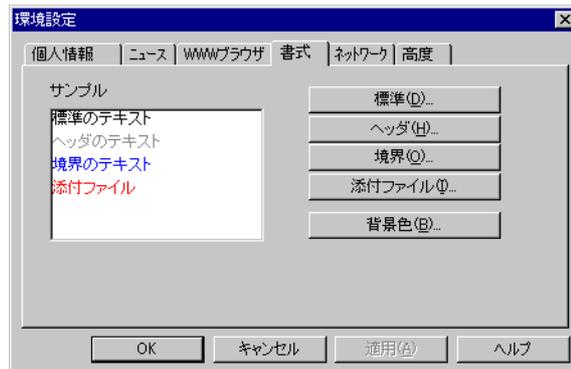
プログラムの場所

使用するブラウザの実行ファイル名をフルパスで設定します。

3.2.4 書式

表示する記事の色を設定します。

「標準」、「ヘッダ」、「境界」、「添付ファイル」、「背景色」の各ボタンを押すと、色の設定ウィンドウが表示されるので、それぞれの色を設定してください。また、サンプル行をダブルクリックしても、色の設定ウィンドウを表示させることができます。



書式

標準

記事の内容の色を設定します。

ヘッダ

記事のヘッダの色を設定します。

境界

記事と添付ファイル内容の境界線の色を設定します。

添付ファイル

添付ファイルの色を設定します。

背景色

記事の背景色を設定します。

3.2.5 ネットワーク

ニュースサーバを指定します。ニュースサーバ名が設定されていないと接続できません。



ニュースサーバの指定

ニュースサーバ名

ホスト名または、IP アドレスを入力してください。

3.2.6 高度

ニュースサーバとの TCP/IP 通信に関するパラメータを設定します。オンライン中は変更できません。



高度な設定

リセット

それぞれの設定値をデフォルトに戻します。デフォルト値は、NNTP ポートが 119、TCP WAIT が 12、TCP RETRY が 5 です。

NNTP ポート

ニュースサーバのポート番号を指定します。NNTP のデフォルトポートは 119 ですが、サーバが別のポートを使っている場合は、その番号を入力してください。

TCP WAIT

ニュースサーバに接続する際のタイムアウト値を設定します。ダイヤルアップ接続の場合は、長めに設定することをおすすめします。

TCP RETRY

ニュースサーバへの接続が失敗したときのリトライ回数を設定します。

3.3 接続

ニュースサーバに接続するには、「環境設定」で必要な情報を設定したのち、メニューの「ネットワーク」「オンライン」を選択するか、ツールバーの「online」ボタンをクリックします。

3.4 記事の購読

3.4.1 通常購読する記事の設定

デフォルトの設定では、ニュースサーバへの初回接続時に、未読記事があるすべてのニュースグループの情報を取り込みます。

ニュースグループは非常に数が多いので、目的のニュースグループを探すだけでもたいへんです。まず最初に、読みたいグループを厳選し、「通常読むニュースグループ」として設定してください。こうすることにより、次回からは、読みたいグループだけがニュースグループ一覧に表示されるようになります。

1. 普段読まないニュースグループをマウスで選択します。
2. メニューの「グループ」「購読を止める」を選択します。
3. 選択したアイコンがサブグループを含む場合は、「購読を止める」ダイアログが表示されます。
4. 「選択したグループだけ購読を止める」か「サブグループごと購読を止める」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
5. 購読を中止したニュースグループや記事は、ニュースグループ一覧に表示されなくなります。

3.4.2 購読したいニュースグループが少ない場合

購読するニュースグループが少ない場合は、以下の手順で購読記事の設定を行うと便利です。

1. 最初にトップアイコンをマウスで選択します。
2. メニューから「グループ」「購読を止める」を選択します。「購読を止める」ダイアログが表示されるので、「サブグループごと購読を止める」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
これにより、すべてのニュースグループが購読対象からはずれます。

3. メニューの「グループ」 「すべてのグループを表示」を選択して、すべてのニュースグループを表示させます。
4. ニュースグループ一覧の中から、購読したいニュースグループを選択します。「Shift」キーや「Alt」キーを押しながらクリックすることで複数グループの同時選択も可能です。
5. 選択が終わったら、メニューの「グループ」 「購読する」をクリックします。
6. メニューの「グループ」 「すべてのグループを表示」を再度クリックしてマークをはずすと、「通常購読するニュースグループ」だけが表示されるようになります。

※ 通常購読する記事の設定をした後に新たなニュースグループが作成された場合は、次回ニュースサーバへの接続時に、新しいニュースグループが一覧に表示されます。

3.4.3 通常購読する記事の設定の保存

通常購読する記事の設定の情報を保存しておく、次回ニュースサーバに接続したときから、購読したいニュースグループの未読記事だけが取り込まれるようになります。

現在の環境に情報を保存する場合

1. メニューの「ファイル」 「上書き保存」をクリックします。

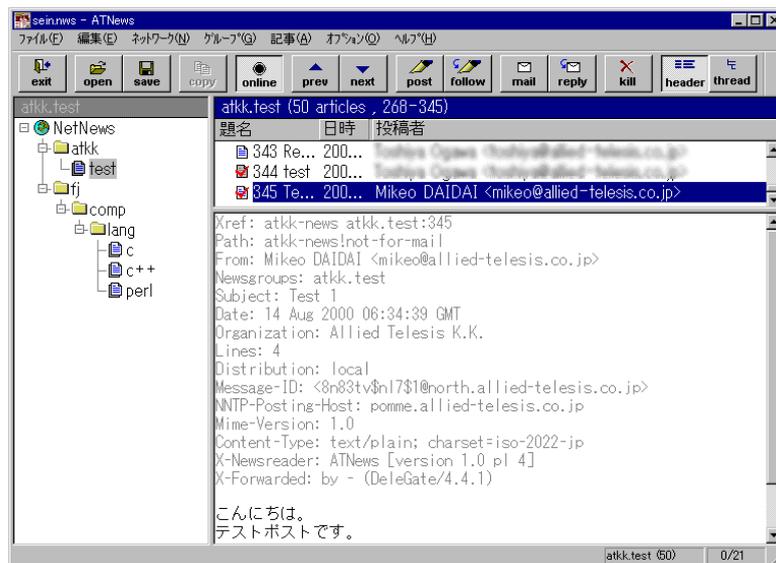
現在の環境を新たに情報ファイルに保存する場合

1. メニューの「ファイル」 「名前を付けて保存」をクリックします。
2. 「環境設定」の手順2と同様にファイル名を付けて保存します。

3.4.4 記事を読む

1. 読みたいニュースグループのアイコンをダブルクリックします。
2. そのニュースグループの未読の記事一覧が表示されます。

3. 読みたい記事アイコンをクリックします。



記事を読む

3.4.5 ニュースグループの検索

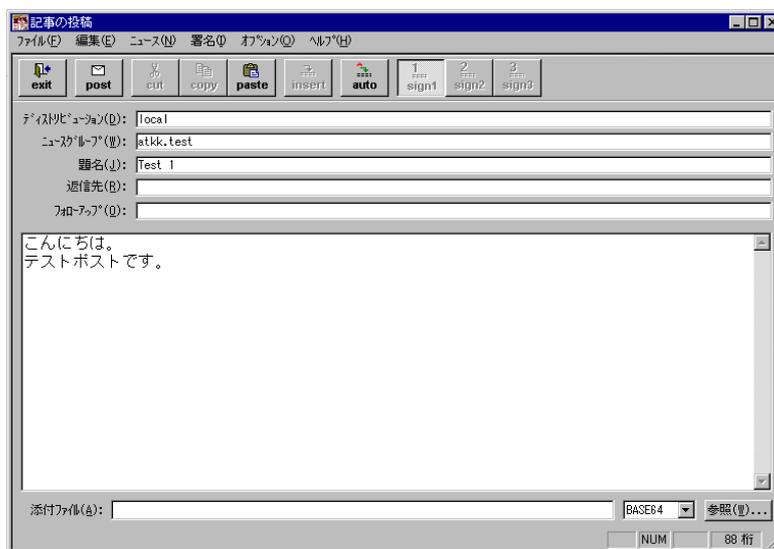
1. ニュースグループ一覧内のどこかをクリックし、メニューから「編集」「検索」を選択します。
2. 「グループの検索」ダイアログが表示されます。「検索グループ名」フィールドに検索するニュースグループ名、キーワードを入力し、検索方向を選択します。
3. 入力したグループ名、キーワードと一致した箇所にカーソルが移動します。

3.5 記事の投稿

3.5.1 新規投稿

1. ニュースグループ一覧から、投稿したいニュースグループを選択します。
2. ツールバーの「post」をクリックするか、メニューの「記事」「新規記事の作成」を選択します。

3. 以下のような記事の投稿ウィンドウが表示されます。必要な情報を入力し、記事を書きます。



記事の作成

ディストリビューション

投稿した記事が配布される範囲を指定します。local を指定するとローカルシステムにのみ配布されます。local の規模はそのネットワークによって違います。

ニュースグループ

投稿先のニュースグループを指定します。これを入力しないと投稿できませんので、必ず指定してください。

複数のニュースグループにクロスポストすることもできます。カンマで区切ってニュースグループを入力してください。

題名

投稿する記事の題名を入力します。日本語の入力も可能です。

返信先

投稿した記事に対してメールで返事が欲しい場合など指定します。ここで設定しなければ、「オプション」「設定」で個人情報に設定したメールアドレスが入ります。

フォローアップ

この記事に対するフォローアップを別のニュースグループに投稿してもらいたいときに、そのニュースグループを指定します。クロスポストしたときにフォローアップのニュースグループを指定できます。

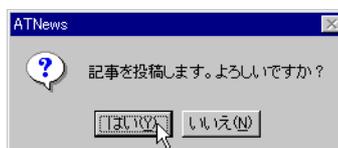
記事内容

記事を入力します。半角カタカナは使用できません。もし、使用しても投稿時に自動的に全角に変換されます。

添付ファイル

バイナリデータを投稿する場合に、添付するファイル名を指定します。「参照」ボタンをクリックしてファイルリストから選択することもできます。エンコード方式は、MIME 準拠の BinHex4.0、Base64、uuencode から選択可能です。

4. 本文を書き終えたら、ツールバーの「post」をクリックするか、メニューの「ニュース」「送信」を選択します。
5. 確認のメッセージが表示されます。送信してもよければ「はい」ボタンをクリックします。



投稿の確認

3.6 フォローアップ

1. フォローアップしたい記事を選択します。
2. ツールバーの「follow」ボタンをクリック、またはメニューの「記事」「フォローアップ記事の作成」をクリックします。「フォローアップ」ダイアログが表示されるので、必要な情報を設定し、「OK」ボタンをクリックします。
3. 「記事の投稿」ウィンドウが表示されるので、フォローアップの記事を書きます。
4. 本文を書き終えたら、ツールバーの「post」をクリックします。またはメニューの「ニュース」「送信」を選択します。
5. 確認のメッセージが表示されます。送信してもよければ「はい」をクリックします。

3.7 メールの送信

メールの送信機能は、ニュースの投稿者に対して直接メールを出したいときに便利な機能です。この機能は ATMail を利用しますので、あらかじめ ATMail を起動しておいてください。

ATMail の使い方に関しては、ATMail の項を参照してください。

3.7.1 送信

1. ツールバーの「mail」ボタンをクリックするか、メニューから「記事」「メールの作成」を選択します。
2. ATMail のメールの送信ウィンドウが表示されます。メールを作成し、送信してください。

3.7.2 返信

1. メールを返信したい記事にカーソルを合わせます。

2. 「reply」ボタンをクリックするか、メニューの「記事」 「返信メールの作成」を選択します。
3. ATMail の「メールの返信」ダイアログが表示されるので、返信先が正しいかどうかを確認し、「OK」ボタンをクリックします。
4. ATMail の「メールの送信」ウィンドウが表示されます。メール本文を書き、送信してください。

3.8 切断

ニュースサーバとの接続を切断するには、メニューの「ネットワーク」 「オンライン」を選択するか、ツールバーの「online」ボタンをクリックします。

3.9 終了

1. メニューから「ファイル」 「終了」を選択します。
2. 環境設定が変更された場合は、設定を保存するかどうかメッセージが表示されます。
3. 保存する場合は「はい」を、保存しない場合は「いいえ」をクリックします。

第 4 章

VT 端末エミュレータ

「VT 端末エミュレータ」は、漢字対応の Telnet クライアントです。VT 端末エミュレータを使うことにより、Windows PC を各種ホストマシンの仮想端末として使用することができます。

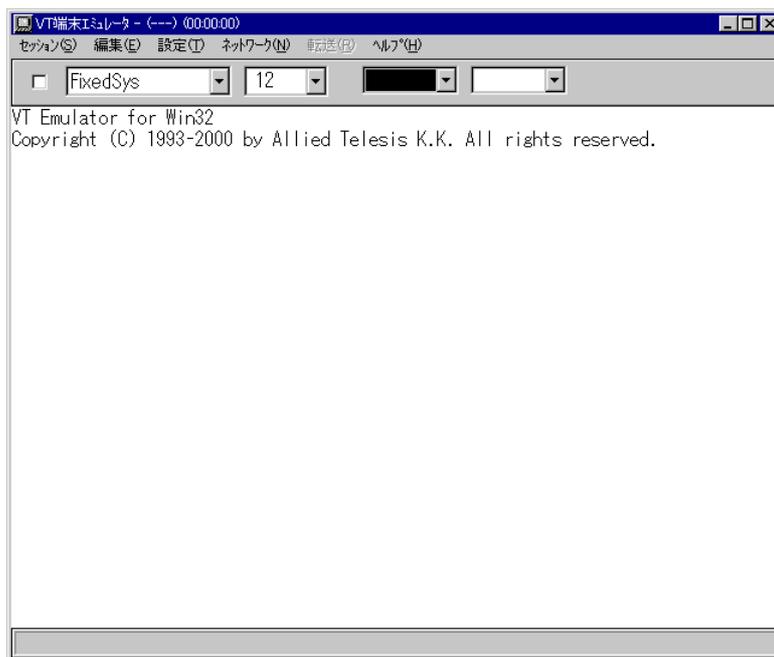
Topics:

- 起動 (⇒ p.65)
- ログイン (⇒ p.66)
- ログアウト (⇒ p.72)
- 切断 (⇒ p.72)
- 終了 (⇒ p.72)
- その他の機能 (⇒ p.73)
- UNIX 以外のサーバにログインする (⇒ p.77)

4.1 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「VT 端末エミュレータ」の順に選択します。

2. メイン画面が表示されます。



メイン画面

4.2 ログイン

4.2.1 その場限りのログイン

1. メニューから「ネットワーク」 「接続」を選択します。
2. ホスト名を入力ボックスが表示されます。接続したいホストのホスト名または IP アドレスを入力し、「OK」をクリックします。



ホスト名の入力

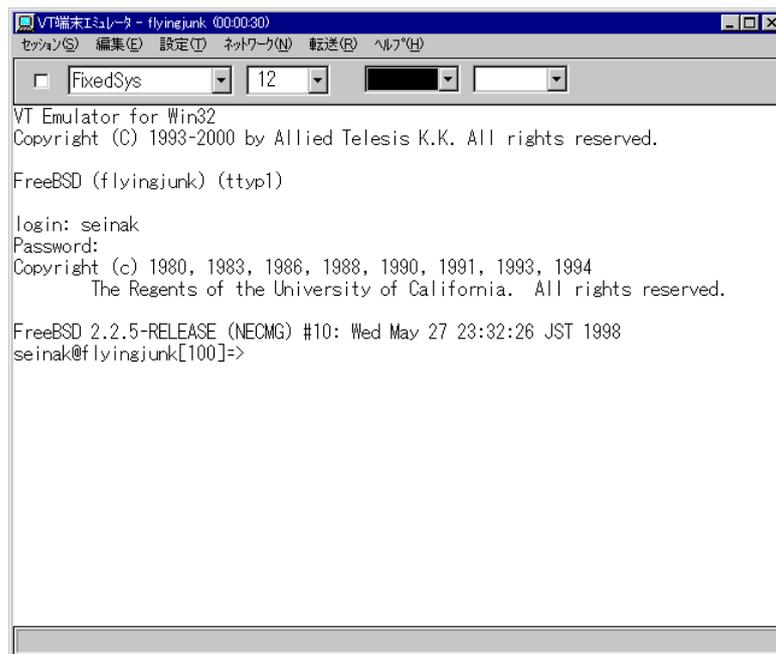
- ログインプロンプトが表示されたら、ログイン名(ユーザー名)とパスワードを入力します。通常、入力したパスワードは画面に表示されません。



ログインプロンプト

※ ログイン手順は接続先のシステムによって異なる可能性があります。詳細はシステム管理者にお尋ねいただくか、システムのマニュアル等でご確認ください。上記の例は、UNIX システムでのものです。

- ログイン名とパスワードが正しければ、ログインが完了し、システムを利用できるようになります。パスワードを間違えた場合は、通常ログインプロンプトに戻りますので、再度ログイン名から入力してください。



ログイン完了

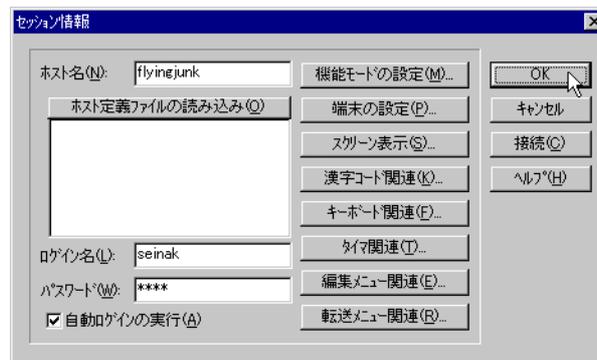
4.2.2 登録したセッション情報によるログイン

よくログインするホストについては、必要な情報を「セッション」として登録・保存しておく便利です。

セッションの登録

1. メニューから「セッション」 「新規作成」を選択します。
2. 「セッション情報」ダイアログが表示されます。接続したいホストの「ホスト名」(または IP アドレス)と「ログイン名」(ユーザー名)を入力して「OK」ボタンをクリックしてください。
また、必要に応じて「パスワード」も入力できます(入力したパスワードは「*****」のように表示されます)。ただし、パスワードを入力する場合は、下記の注意事項をよくお読みください。

セッションを開いたときに、自動的にログインしたい場合は、「自動ログインの実行」をチェックします。



「セッション情報」ダイアログ

＼セキュリティが重要な場合、パスワードは空欄にしておくことをお勧めします。セッション情報にパスワードを含めておくと、そのセッションを開きさえすれば、誰でもパスワードチェックを受けることなくあなたのログイン名でシステムにログインできてしまいます。

3. セッション情報を保存します。メニューから「セッション」 「名前を付けて保存」を選択してください。
4. 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。「セッション名」を入力し「OK」をクリックしてください。



セッションに名前を付ける

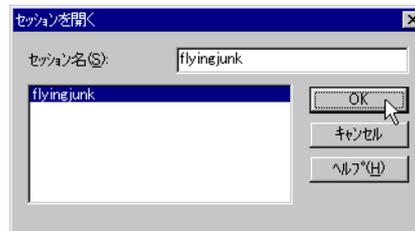
5. 「OK」をクリックしてください。



作成確認

セッションを開く

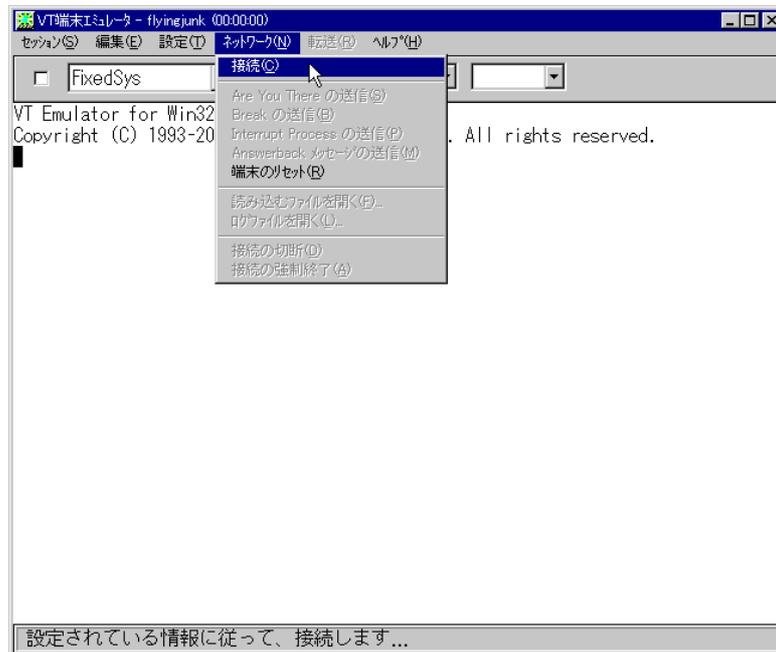
1. メニューから「セッション」 「開く」を選択します。
2. 「セッションを開く」ダイアログが表示されます。一覧からセッションを選択し、「OK」をクリックします。



セッションの選択

3. 「自動ログインの実行」をチェックしている場合は、セッションを開くと同時にリモートホストへの接続がおこなわれ、login: プロンプトに対してログイン名が送出されます。パスワードが登録されている場合は、password: プロンプトに対してパスワードが送られ、自動的にログインします。パスワードを登録していない場合は、プロンプトに対して手入力してください。

4. 「自動ログインの実行」をチェックしていない場合は、メニューバーから「ネットワーク」「接続」の順に選択すると、セッション情報に基づいてリモートホストへの接続とログインが行われます。



手動で接続

＼ 「自動ログインの実行」をチェックしていない場合、セッションを開いても、ほとんど画面が変わりません。このような場合は、タイトルバーをチェックしてください。セッションを開くと、接続先ホストの名前が表示されます。起動時は「(—)」のようになっています。

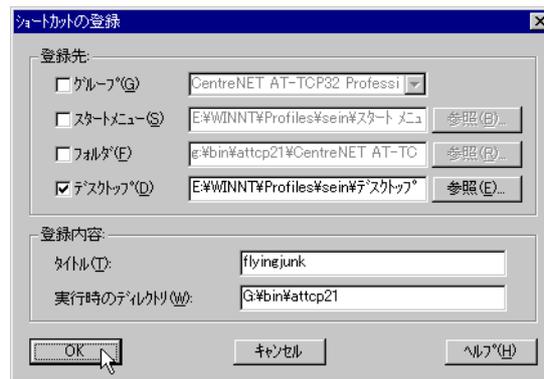
4.2.3 ショートカットによる自動ログイン

作成したセッションをショートカットとして登録しておく、それを実行するだけでリモートホストと接続できます。

ショートカットの登録

1. あらかじめ、前述の「セッションの登録」の手順にしたがってセッションを登録しておきます。ここでは、「flyingjunk」という名前のセッションへのショートカットを作成します。
2. メニューから「セッション」「ショートカットの登録」を選択します。

3. 「ショートカットの登録」ダイアログボックスが表示されます。



「ショートカットの登録」ダイアログ

- 「登録先」では、どこにショートカットを作るかを指定します。「グループ」、「スタートメニュー」、「フォルダ」、「デスクトップ」の中から任意のものにチェックマークをつけ、「参照」ボタンでパスを指定してください。
 - 「登録内容」の「タイトル」には、ショートカットの名前を指定します。デフォルトでセッション名が使われます。
4. 必要な情報を入力しおえたら、「OK」をクリックしてください。この例では、「デスクトップ」に「flyingjunk」というショートカットを登録します。



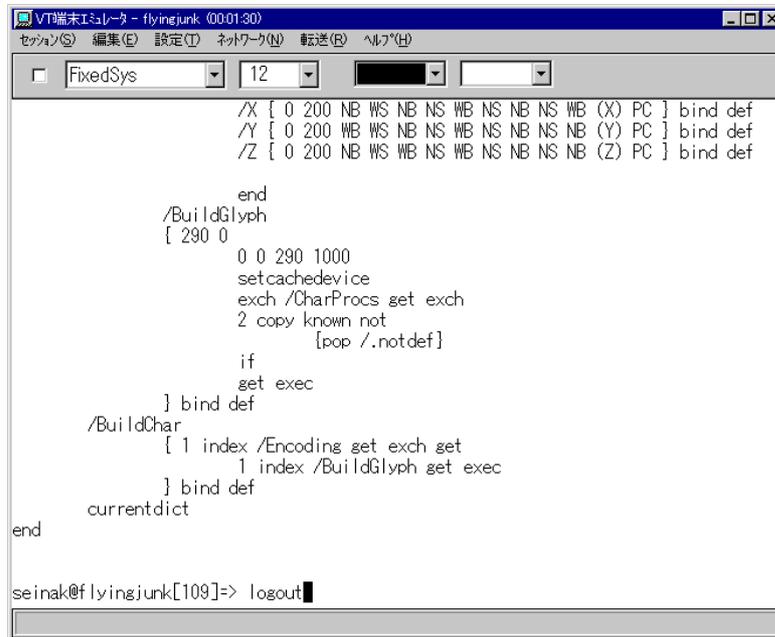
登録されたショートカット

ショートカットを開く

1. 先ほど作成したショートカット「flyingjunk」をダブルクリックします。
2. セッション「flyingjunk」が開きます。「自動ログインの実行」をチェックしている場合は、リモートホストへの接続も行われます。「自動ログインの実行」をチェックしていない場合は、メニューの「ネットワーク」 「接続」で接続します。

4.3 ログアウト

UNIXのプロンプト上で「logout」と入力し、リターンキーを押します。



```
VT端末エミュレータ - flyingjunk (00:01:30)
セッション(S) 編集(E) 設定(T) ネットワーク(N) 転送(R) ヘルプ(H)
FixedSys 12
/X { 0 200 NB WS NB NS WB NS NB NS WB (X) PC } bind def
/Y { 0 200 WB WS NB NS WB NS NB NS NB (Y) PC } bind def
/Z { 0 200 NB WS WB NS WB NS NB NS NB (Z) PC } bind def

end
/BuildGlyph
{ 290 0
  0 0 290 1000
  setcachedevice
  exch /CharProcs get exch
  2 copy known not
    {pop /.notdef}
  if
  get exec
} bind def
/BuildChar
{ 1 index /Encoding get exch get
  1 index /BuildGlyph get exec
} bind def
/currentdict
end
seinak@flyingjunk[109]> logout
```

ログアウト

4.4 切断

1. メニューから「ネットワーク」 「接続の切断」を選択します。
2. 以下のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。

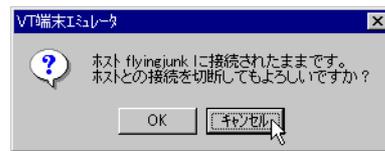


切断の確認

4.5 終了

メニューから「セッション」 「アプリケーションの終了」を選択します。

ホストに接続したまま終了させようとするると以下のメッセージが表示されます。「キャンセル」をクリックし、ログアウトさせてから「VT 端末エミュレータ」を終了させてください。



終了の確認

4.6 その他の機能

4.6.1 キーの定義

キーボードの各キーに割り当てられているデータの確認と割り当ての変更を行うことができます。

例えば、リモートホストで Emacs を使用する場合、Emacs のデフォルト設定では BS キーを押すとヘルプが表示されます。また DEL キーは、キーボード上の遠い位置にあります。こんなときは、BS キーを押したとき出力される文字コードを DEL に置き換えると便利です。

以下の手順を参考に行ってください。

1. メニューから「設定」「キーの定義」を選択します。
2. 「キーボード」と「キーパッド」が選択できるのでどちらかを選択します。ここでは「キーボード」を選択します。



キーの定義メニュー

3. 「キーの定義」ダイアログが表示されます。デフォルトでは PC-9800 シリーズのキーボードが表示されます。



「キーの定義」ダイアログ

この「キーの定義」のキーマップは、デフォルトが PC-9800 シリーズとなっています。AT 機をお使いのお客様で、「設定」「キーボード関連」の「キーボードタイプ」を「OADG 仕様 106」に設定している場合は DEL キーの設定が「PAD SELECT」となっていますので、キーの定義で設定変更が必要となります。

4. 次に割り当ての変更を行いたいキーをクリックします。ここでは BS キーをクリックします。選択されたキーは拡大して表示されます。



「BS」をクリック

5. 「キーの定義」ダイアログの右下の「設定>>」をクリックします。



「設定」をクリック

6. 「デフォルトデータ」と「コントロール」が表示されます。「コントロール」の下向き矢印をクリックすると、以下のようにリストが表示されます。そのリストの中から「0x7f:」を選択します。

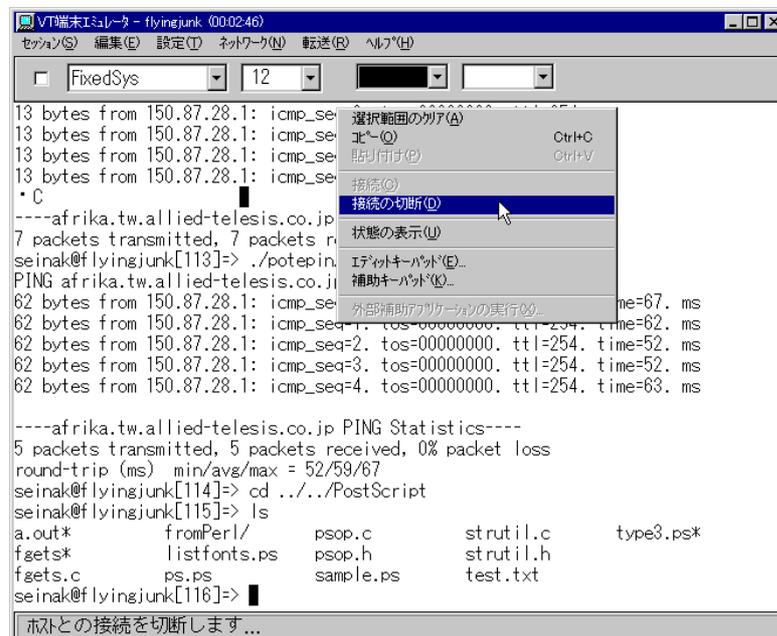


DEL を選択

7. 選択したら「OK」をクリックし、「デフォルトデータ」と「コントロール」を閉じ、「キーの定義」ダイアログを終了させます。

4.6.2 フローティングポップアップメニュー

マウスの右ボタンをクリックすることにより次のようなメニューが表示されます。このメニューをフローティングポップアップメニューといいます。



ポップアップメニュー

このメニューからは、次のような操作が可能です。

セッションの切断と再接続

フローティングポップアップメニューの「接続の切断」を使うと、簡単にセッションの切断を行う

ことができます。

また、接続の切断をした直後にこのメニューから「接続」をクリックすると同じセッションに自動的に再接続することができます。

コピーと貼り付け

コピーをしたいデータの範囲をマウスで指定し、「コピー」をクリックします。

次に、「貼り付け」をクリックすると、カーソル位置から「コピー」で範囲設定したデータが出力されます。

「コピー」で範囲設定する場合、あらかじめマウスで範囲を指定しますが、範囲指定の方法には2つの形式があります。これは、「設定」「編集メニュー関連」の「領域選択範囲の形式」で設定します。形式については以下の通りです。

行

行単位で範囲設定をします。

矩形

四辺形に範囲を設定します。

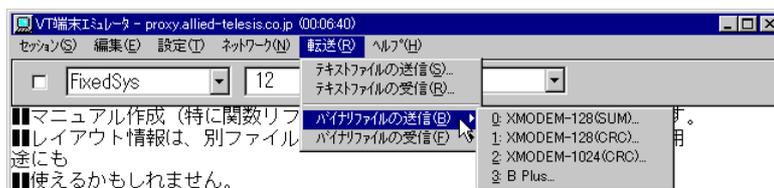
4.6.3 バイナリファイルの送受信

メニューの「転送」メニューから、「バイナリファイルの送信」、「バイナリファイルの受信」を選択すると、「VT 端末エミュレータ」で接続している BBS などとバイナリファイルの転送（アップロード/ダウンロード）を行うことができます。以下の手順にしたがってください。

1. メニューの「転送」「バイナリファイルの送信」または、「転送」「バイナリファイルの受信」から、アップロードまたはダウンロードに使用するプロトコルを選択します。



ダウンロードの場合



アップロードの場合

2. 選択したプロトコルに対応したダイアログボックスが表示されます（例: ダウンロード）。ここで、アップロードまたはダウンロードしたいファイル名を入力します。



ファイル名の指定

3. ファイル名を入力したら「開始」をクリックします。転送が開始されると「開始」ボタンが「中止」ボタンになり途中でキャンセルすることができます。
4. ダウンロードが終了したら、「ファイル」「プロトコル名(ダウンロード)の終了」をクリックします。
または、「プロトコル名(ダウンロード)」ダイアログボックスの「終了」ボタンをクリックします。

＼ 使用できる転送プロトコルは、接続先ホストや BBS によって異なります。接続先のシステムで利用できる転送プロトコルを確認の上、ご使用ください。

4.7 UNIX 以外のサーバにログインする

UNIX 以外のサーバにログインする場合、以下の手順にしたがってください。

1. メニューから「設定」「機能モードの設定」を選択します。
2. 「機能モードの設定」ダイアログが表示されます。「ログインスクリプトの設定」ボタンをクリックします。



「機能モードの設定」ダイアログ

3. 「ログインスクリプトの設定」ダイアログが表示されます。「ログインスクリプトファイルの使用」のチェックボックスをマウスでチェックします。



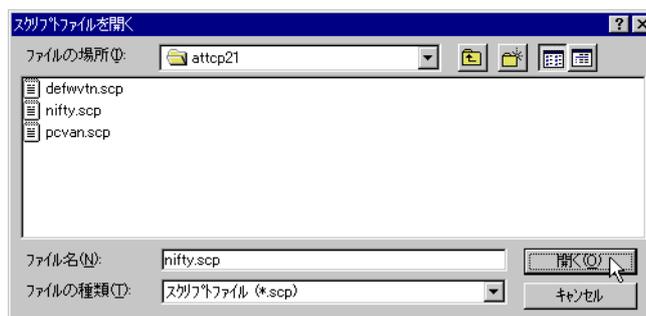
チェックをつける

4. 使用するログインスクリプトファイルを選択します。デフォルトは「DEFWVTN.SCP」です。「参照」ボタンをクリックします。



「参照」ボタン

5. 「スクリプトファイルを開く」ダイアログが表示されます。「ファイル名」フィールドのファイル一覧から使用するファイルを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



スクリプトファイルの選択

＼ ここに表示されていないBBS にログインする場合は、既存のログインスクリプトファイルを参考に作成してください。

6. 「ログインスクリプトの設定」ダイアログに戻ります。「編集」をクリックし、選択したログインスクリプトファイルを開きます。



「編集」ボタン

7. 「ログインスクリプトファイルの編集」画面が表示されます。接続先システムのログイン手順にしたがってスクリプトを書き換えてください。



スクリプトの編集

8. 入力が終了したら、「上書き保存」ボタンをクリックします。参考ファイルにないBBSのログインスクリプトファイルを作成している場合は、「名前を付けて保存」でファイル名を変更してください。
9. 編集終了後は、メニューから「設定」「端末の設定」を選択します。
10. 「端末の設定」ダイアログで「接続時CR変換」の「CR CR」をチェックします。



行末コード変換

＼ インターネット経由で UNIX 以外のサーバにログインする場合は、スクリプトファイルの設定をした後に接続時の CR 変換を「CR CR」に変更してください。また、UNIX のサーバにログインする場合は、サーバ側の設定によって異なりますが、通常は「CR LF」に設定します。変更しないとうまくログインできない場合があります。

第 5 章

Ftp クライアント

「Ftp クライアント」は、FTP サーバとファイルのやり取り（転送）をするためのアプリケーションです。

Topics:

- 起動 (☞ p.81)
- FTP セッションの登録 (☞ p.81)
- FTP サーバへの接続 (☞ p.84)
- ファイルの転送 (☞ p.85)
- ファイルの表示 (☞ p.88)
- ファイル名の変更 (☞ p.90)
- ファイルの削除 (☞ p.91)
- 終了 (☞ p.92)
- マクロプロセッサ機能 (☞ p.92)

5.1 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「Ftp クライアント」の順に選択します。
2. メイン画面が表示されます。

5.2 FTP セッションの登録

FTP サーバと接続するには、最初にサーバの情報を「FTP セッション」として登録します。以下の手順で FTP セッションの情報を登録してください。

1. メニューから「ツール」 「FTP セッションの作成」を選択します。

2. 「FTP セッションの新規作成」ダイアログが表示されます。以下の説明を参考に、必要な情報を入力してください。



FTP セッションの新規作成

セッション名

セッション情報を識別するための名前です。

ホスト名

接続する FTP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。

ユーザ名

FTP サーバにログインするときのユーザ名を入力します。ここを空にしておくと、FTP サーバへの接続時にユーザ名の入力を促す「ユーザ名の入力」ダイアログが表示されます。

パスワード

FTP サーバにログインするためのパスワードを入力します。入力したパスワードは「*****」のように表示されます。

また、ここを空にしておくと、FTP サーバへの接続時にパスワードの入力を促す「パスワードの入力」ダイアログが表示されます。

匿名ログイン

匿名 FTP (Anonymous FTP) サーバにログインします。これにチェックを付けると、「ユーザ名」フィールドに自動的に「Anonymous」が入力され、また「パスワード」フィールドが伏せ字ではなくなります。匿名ログインの場合、パスワードとしてメールアドレスを送るのが慣例となっています。

セッションを登録する

ここで入力したセッション情報を保存し、次回起動時にも利用可能にします。

これをチェックしなかったときは、セッション情報は今回のみ有効となり、次回 Ftp クライアント起動時にはクリアされますのでご注意ください。

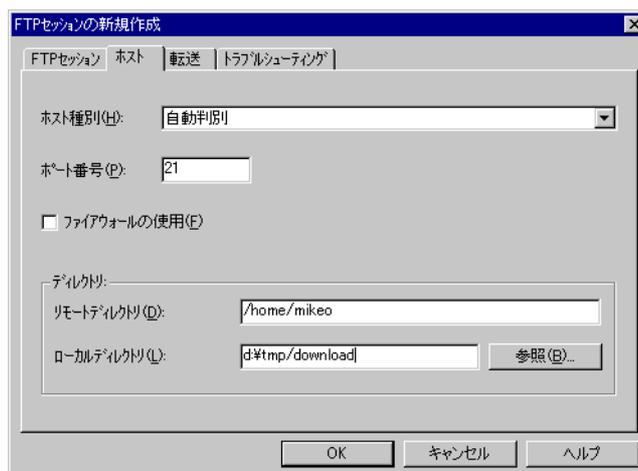
パスワードの保存

「パスワード」フィールドに入力したパスワードを保存したいときは、このチェックボックスをチェックします。

※ 「パスワードの保存」をチェックすると、FTP サーバへの接続時にパスワードの入力が不要になります。これは一見便利ですが、PC にアクセスできさえすれば、登録されたユーザの名前で誰でもログインできてしまうため、セキュリティ的にはおすすりできません。通常はチェックしないままにしておくことをおすすりします。

- 次に接続時のデフォルトディレクトリを設定します。「ホスト」タブをクリックし、「リモートディレクトリ」と「ローカルディレクトリ」に接続直後に移動したいディレクトリを指定します。

何も指定しなかった場合のデフォルトは、リモート側がログインしたユーザのホームディレクトリ、ローカル側は AT-TCP/32 がインストールされているディレクトリとなります。



デフォルトディレクトリの設定

- 日本語ファイル名を使用する場合や、ファイル転送中に漢字コード変換を行いたい場合は、「転送」タブをクリックします。以下の説明を参考に適宜設定を行ってください。



転送モードの設定

転送モード

ファイル転送モードを「アスキー」と「バイナリ」から選択します。デフォルトの「アスキー」はテキストファイルの転送に適したモードで、システムタイプにあわせて自動的に改行コード

の変換が行われます。

バイナリファイルを転送する場合は「バイナリ」モードを選択してください。バイナリモードでは、コード変換が行われず、ファイルがありのままの形で転送されます。テキストファイルを送信する場合でも、改行コードの自動変換を行いたくない場合は「バイナリ」モードを使ってください。

ファイル名漢字コード

リモートホストがファイル名に使用している漢字コード（画面表示のコード）を選択します。これにより、UNIX で使用する漢字コードのファイル名と DOS で使用するシフト JIS コードのファイル名の変換が行われます。

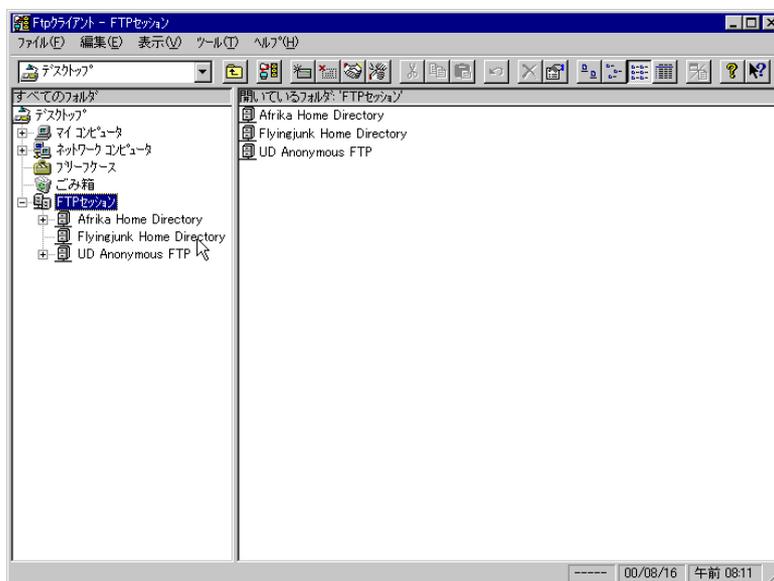
データコード

リモートホストのファイルで使用されている漢字コード、半角カナシフトを選択します。ただし、転送モードがアスキーの場合にだけ有効となります。

5. 以上の設定が終了したら「OK」ボタンをクリックし、ダイアログを閉じます。
6. メイン画面左側「すべてのフォルダ」一覧の「FTP セッション」アイコンの下に、登録した FTP セッションのアイコンが表示されます。

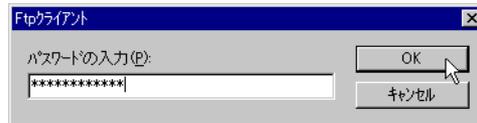
5.3 FTP サーバへの接続

1. FTP セッションアイコンをクリックします。



FTP セッションアイコンをクリック

- セッション登録でパスワードを入力しなかった場合は、次のダイアログが表示されるので、パスワードを入力して「OK」を押します。



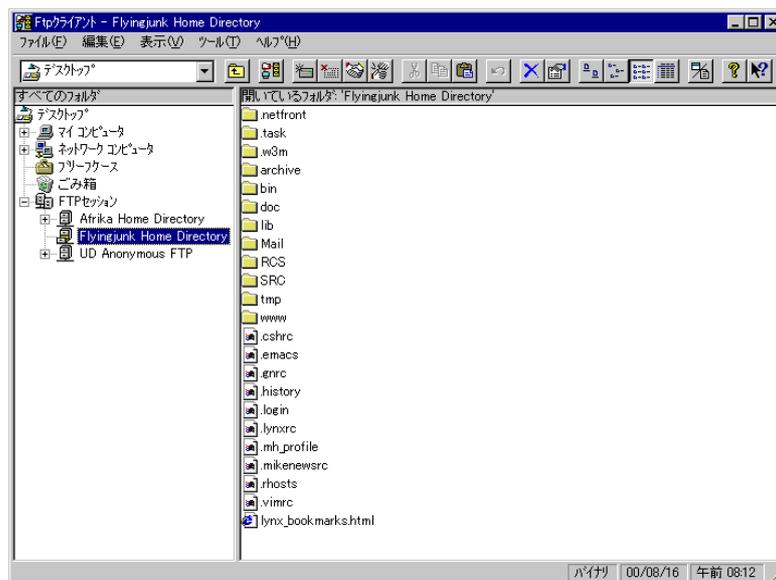
パスワードの入力

- 「接続」ダイアログが表示され、接続が開始されます。



接続中

- 接続に成功すると、メイン画面右側の「開いているフォルダ」にFTPサーバのデフォルトディレクトリ（セッション登録で指定した「リモートディレクトリ」）の内容が表示されます。

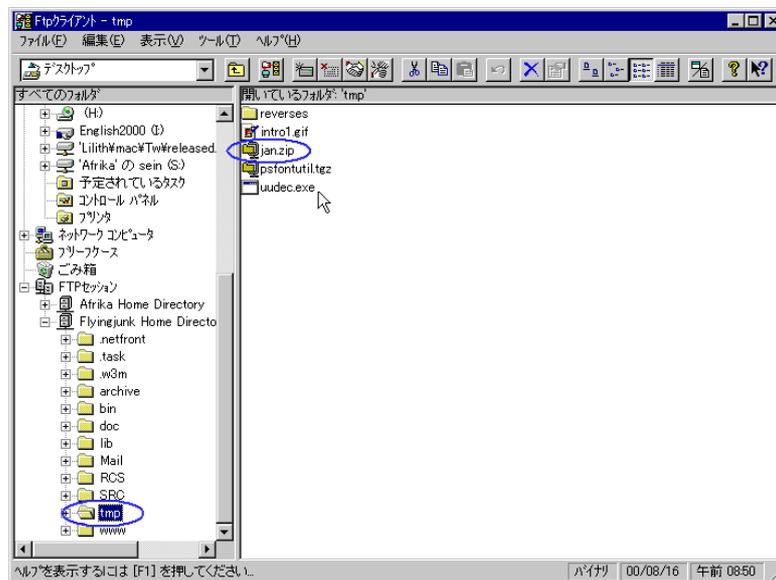


接続完了

5.4 ファイルの転送

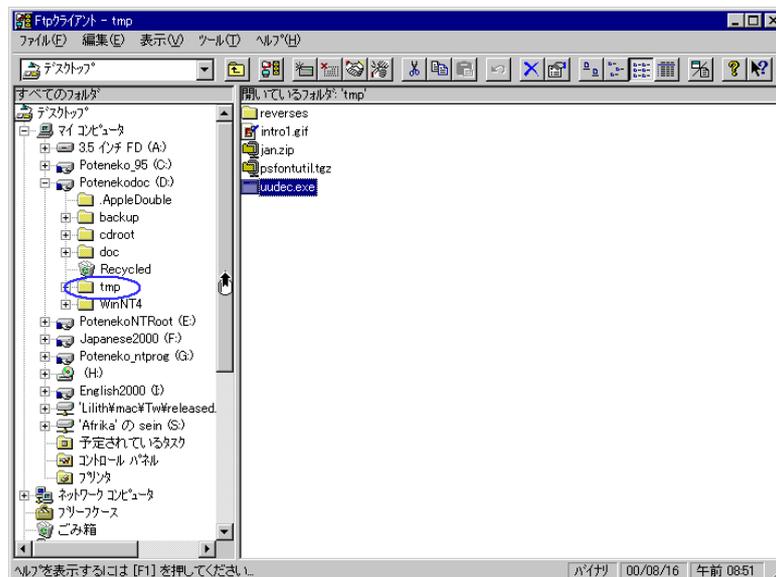
ファイルの転送は、以下の手順で行います。

1. 転送元のファイルがあるフォルダを選択して、画面右側の「開いているフォルダ」にファイルが表示されるようにします。ここでは、FTP サーバ「Flyingjunk」のホームディレクトリ上の「tmp/jan.zip」をダウンロードするものとします。



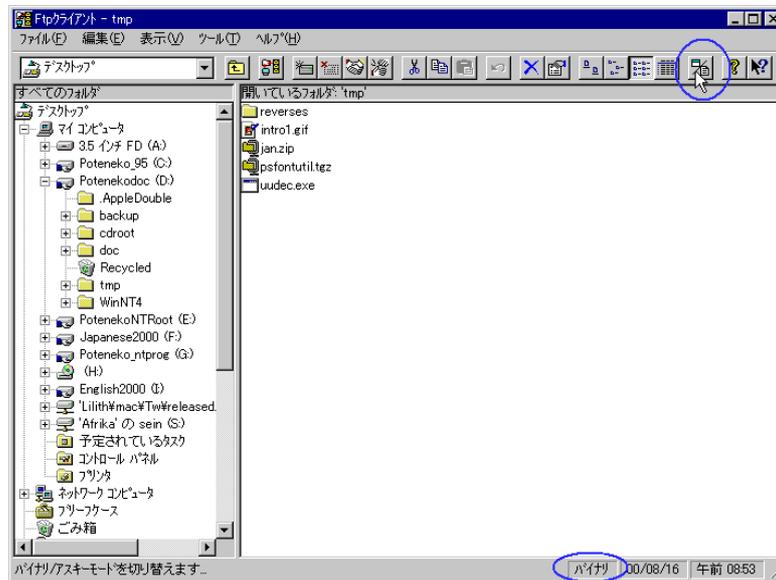
転送元ファイル

2. 次に、右画面に転送元ファイルを表示させたまま、画面左側の「すべてのフォルダ」でスクロールバー等进行操作し、転送先のフォルダが見えるようにします。ここでは、転送先をローカルマシンの「D:¥tmp」フォルダとします。



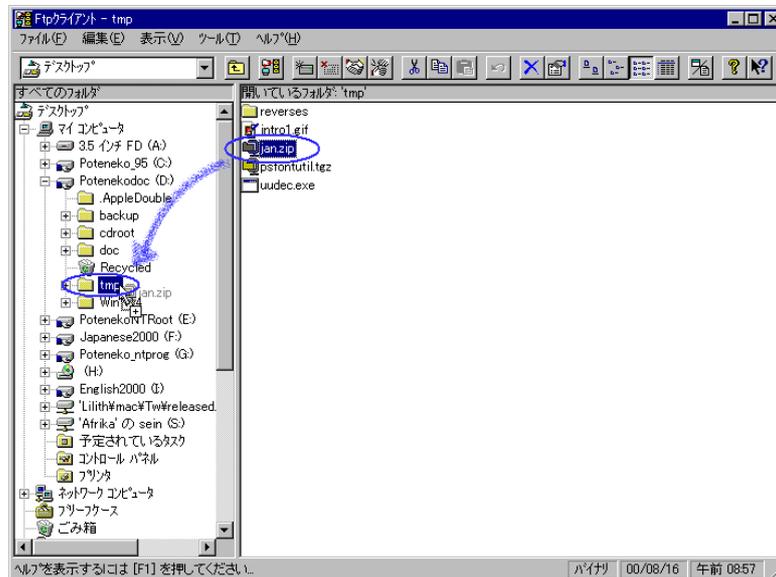
転送先フォルダ

3. ファイル転送には、「FTP セッションの登録」で設定した転送モードがデフォルトとして使われますが、一時的にモードを変更したい場合は、ツールバーの「バイナリ/アスキー」ボタンをクリックして切り換えます。現在選択されている転送モードは、ステータスバーに表示されています。



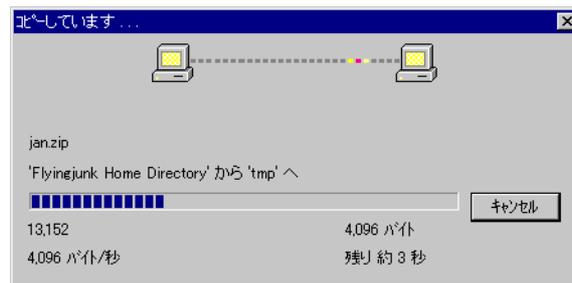
転送モードの切り替え

4. 準備ができたら、転送したいファイルを転送先のフォルダまでマウスでドラッグします。



転送するファイルをドラッグ

5. ファイルが転送されます。



転送中

※ 「エクスプローラ」などから、Ftp クライアントにドラッグ&ドロップすることもできます。WindowsNT 上でご使用の場合は、FTP クライアントからファイルマネージャへのドラッグ&ドロップによるコピーはできません。

5.5 ファイルの表示

ファイルの内容を表示させるには、次の手順にしたがいます。

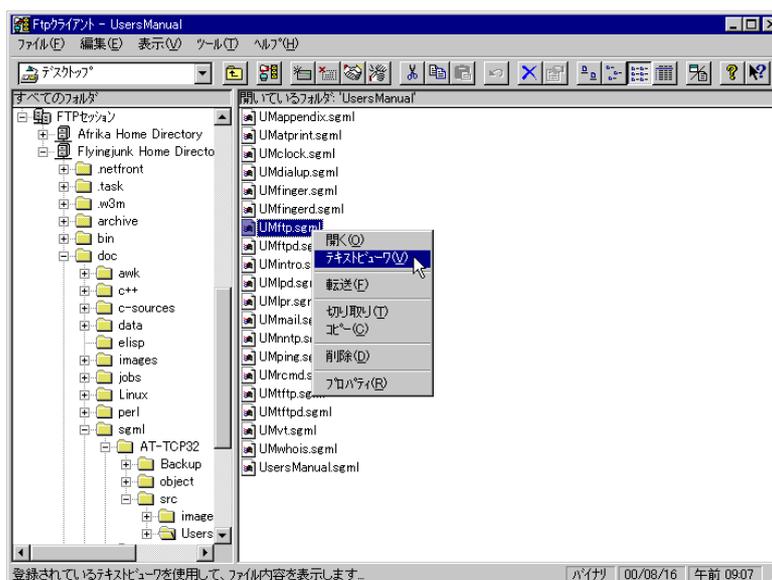
5.5.1 ダブルクリック

表示したいファイルをダブルクリックすると、ファイルタイプにあったアプリケーションが起動され、ファイルがオープンされます。

※ このとき起動されるアプリケーションは、Windows の拡張子関連付け設定に依存します。拡張子の付いていないファイルの場合は、エラーになる場合があります。

5.5.2 フローティングポップアップメニュー（テキストビューワ）

1. 表示したいファイルの右クリックメニュー（フローティングポップアップメニュー）から「テキストビューワ」を選択します。

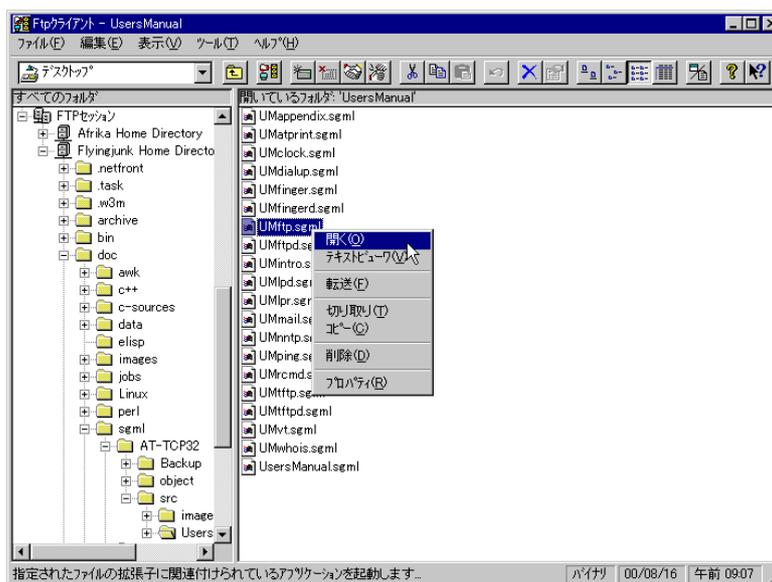


テキストビュー

2. Ftp クライアントの「ツール」 「FTP オプションの設定」メニューの「一般」タブで設定されているテキストビューを使ってファイルが表示されます。デフォルトのテキストビューは「メモ帳」(notepad.exe) です。

5.5.3 フローティングポップアップメニュー（開く）

1. 表示したいファイルの右クリックメニューから「開く」を選択します。

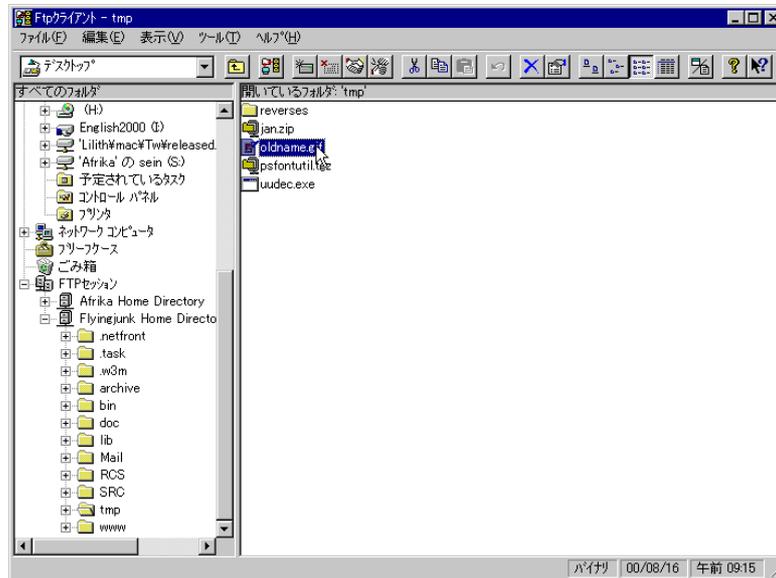


開く

2. 関連付け設定にしたがってアプリケーションが起動され、ファイルが表示されます。

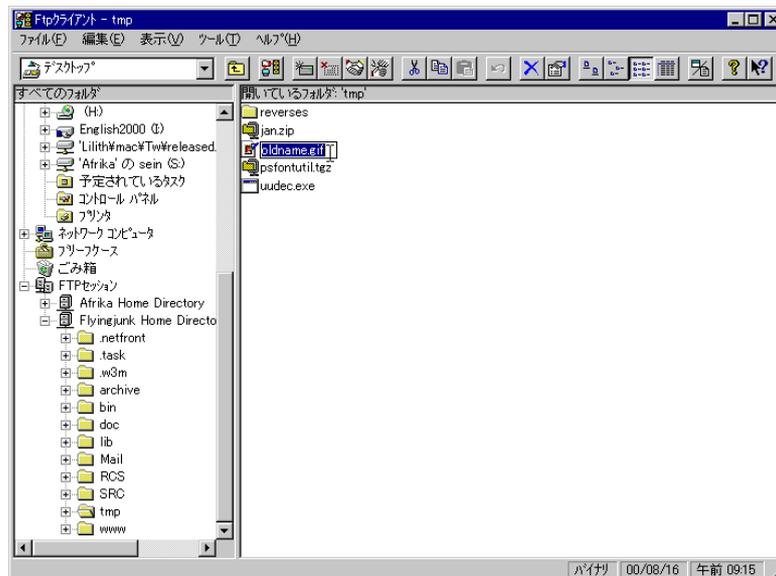
5.6 ファイル名の変更

1. 名前を変更したいファイルをマウスで選択します。



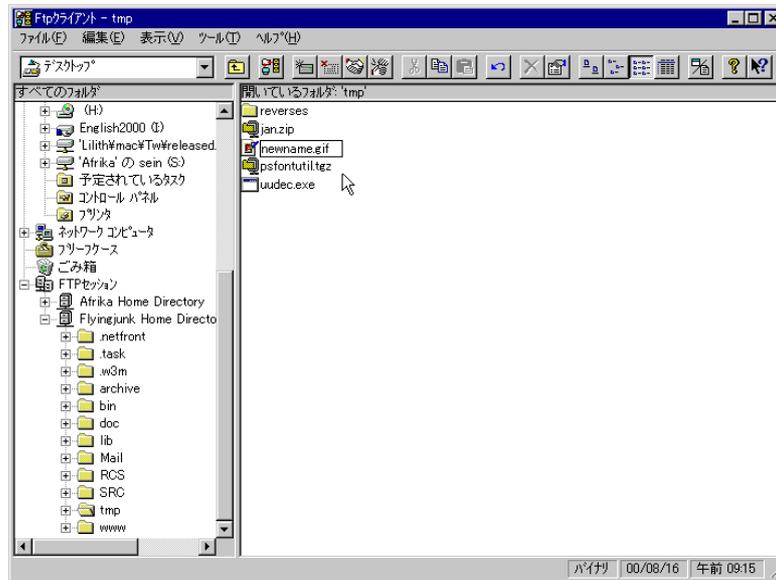
ファイルの選択

2. ファイル名を再度クリックします。ファイル名の変更が可能であれば（権限があれば）、ファイル名が四角い枠で囲まれ、文字が反転します。



名前の変更

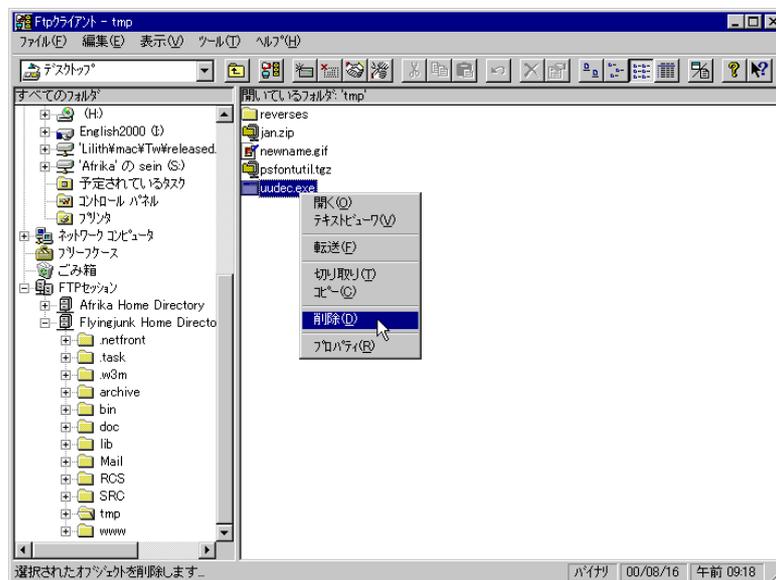
3. 新しい名前を入力し、リターンを押します。



新しい名前の入力

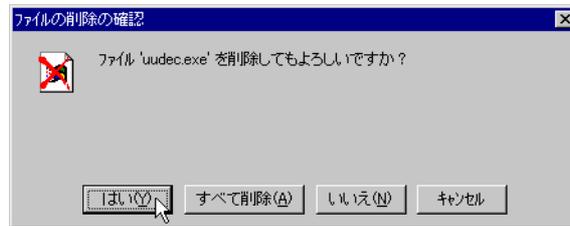
5.7 ファイルの削除

1. 削除したいファイルの右クリックメニューから「削除」を選択します。



削除

2. 「ファイルの削除の確認」ダイアログが表示されます。削除するなら「はい」ボタンをクリックします。



ファイルの削除の確認

3. 選択したファイルが削除されます。

5.8 終了

「ファイル」 「アプリケーションの終了」をクリックします。

5.9 マクロプロセッサ機能

Ftp クライアントには、FTP で行う処理の内容と手順をあらかじめ登録しておき、あとで一括処理させることのできるマクロプロセッサ機能が用意されています。この機能は、同じような処理を繰り返すような場合にたいへん便利です。

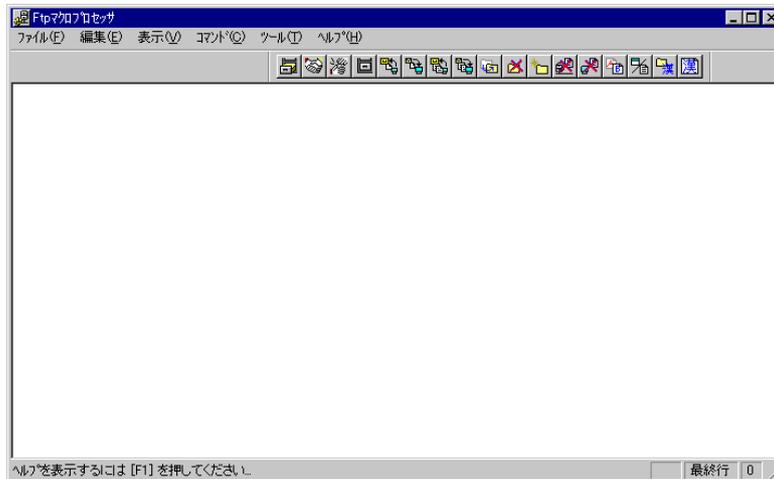
5.9.1 マクロコマンド一覧

マクロプロセッサでは、以下のコマンドが使用できます。各コマンドの使用方法については、オンラインヘルプをご参照ください。

サブメニュー	コマンド	FTP コマンド
セッション	オープン	FtpOpenSession
	接続	FtpConnect
	切断	FtpDisconnect
	クローズ	FtpCloseSession
サーバ	ホスト名	FtpSetHostName
	ユーザ名	FtpSetUserName
	パスワード	FtpSetPassword
	アカウント	FtpSetAccount
	匿名ログイン	FtpSetAnonymous
	ホスト種別	FtpSetHostType
	ポート番号	FtpSetPortNo
	FireWall の使用	FtpSetUseFireWall
	初期リモートディレクトリ	FtpSetDefRemoteDir
	初期ローカルディレクトリ	FtpSetDefLocalDir
コピー	Get	FtpGet
	Put	FtpPut
	拡張 Get	FtpGetEx
	拡張 Put	FtpPutEx
ディレクトリ	移動	FtpRemoteCD
	削除	FtpRemoteRmdir
	新規作成	FtpRemoteMkdir
ファイル	リモート削除	FtpRemoteDelFile
	ローカル削除	FtpLocalDelFile
	名前の変更	FtpRemoteRenFile
コード	転送モード	FtpSetTransferMode
	ファイル名漢字コード	FtpKanjiOfFilename
	データ漢字コード	FtpKanjiOfData

5.9.2 マクロプロセッサの起動

1. メニューから「ツール」 「マクロプロセッサの起動」を選択します。
2. マクロプロセッサの「メイン画面」が表示されます。



マクロプロセッサのメイン画面

5.9.3 マクロファイルの作成と保存

マクロプロセッサでは、一連の処理を「FTP セッション」という単位で記録します。各セッションには必ず、FTP セッションをオープンする `FtpOpenSession` コマンドと、クローズする `FtpCloseSession` コマンドが必要となります。

ここでは、ローカルディスクの HTML および GIF ファイルを、リモートホスト「afrika」のホームにある「www」というディレクトリに転送する FTP セッション「putHTMLtoAfrika」を作成する例をもとに説明します。

1. 「Ftp マクロプロセッサ」のメイン画面で、「ファイル」 「新規作成」を選択します。
2. メニューから「コマンド」 「FTP セッション」 「オープン」を選択します。

3. 「FTPセッションの新規作成」ダイアログが表示されるので、「FTPセッションの登録」を参考に「FTPセッション」、「ホスト」、「転送」の各タブで必要な情報を入力して「OK」ボタンを押します。次に、ここでの設定例を示します。

FTPセッションの新規作成

FTPセッション | ホスト | 転送 | トラブルシューティング

FTPセッション名(S): putHTMLtoAfrika 参照(R)

ホスト名(H): afrika.tw.allied-teleis.co.jp 参照(R)

ユーザ名(U): sein

パスワード(P): *****

アカウント(A):

匿名ログイン(L) セッションを登録する(E) パスワードの保存(V)

OK キャンセル ヘルプ

FTPセッション

FTPセッションの新規作成

FTPセッション | ホスト | 転送 | トラブルシューティング

ホスト種別(H): 自動判別

ポート番号(P): 21

ファイアウォールの使用(E)

ディレクトリ:

リモートディレクトリ(D): /home/sein/www/test

ローカルディレクトリ(L): d#doc/html 参照(R)

OK キャンセル ヘルプ

ホスト

FTPセッションの新規作成

FTPセッション | ホスト | 転送 | トラブルシューティング

転送モード(T): バイナリ アスキー

ファイル名エンコード(E): なし Shift JIS EUC

文字コード:

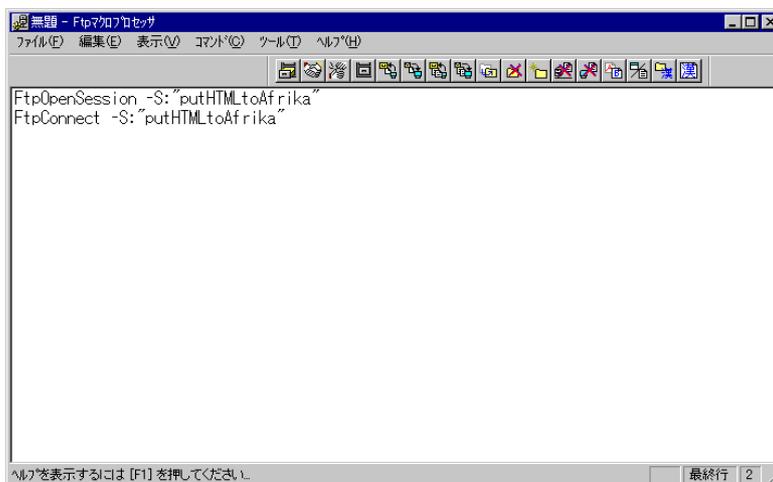
漢字(C): なし EUC 旧 JIS Shift JIS 新 JIS

かな(C): なし SO/ST EBCDIC

OK キャンセル ヘルプ

転送

4. 「FTP セッションの新規作成」で「セッションの登録をする」を on にした場合、「セッションのオープン」と「ホストへの接続」の2つのコマンドだけがマクロファイルに書き込まれます。



接続コマンド

5. 「コマンド」「コピー」「Put」をクリックします。
6. 「Put -FtpPut-」ダイアログが表示されるので、転送するファイルの名前を指定します。ワイルドカードも指定できます。



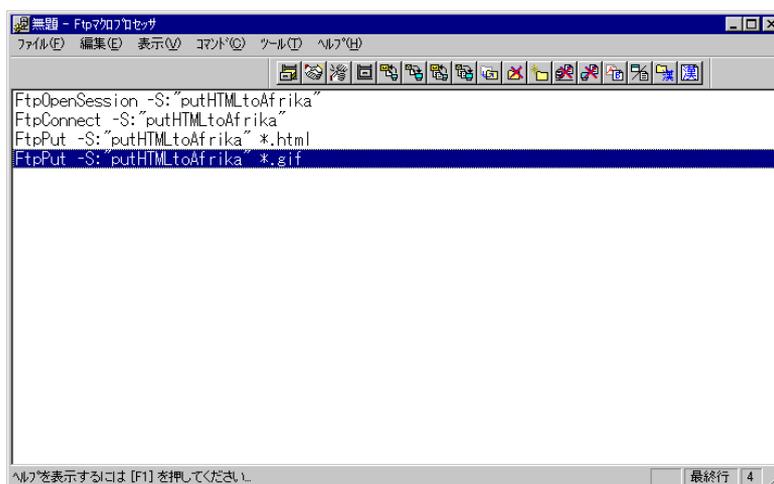
転送するファイルの指定



転送するファイルの指定 2

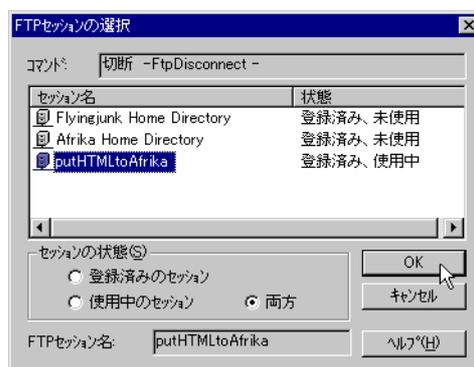
＼ ディレクトリ階層をコピーする場合は、「リモートファイル」と「ローカルファイル」にディレクトリ名を入力し、「リカーシブモード」をチェックしてください。

- Put オペレーションのコマンドが追加されます。



Put コマンド

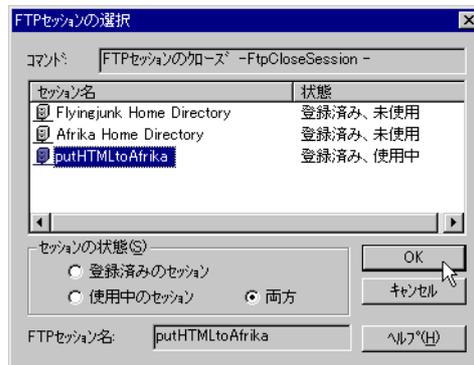
- メニューの「コマンド」「FTP セッション」「切断」を選択します。
- 「FTP セッションの選択」ダイアログが表示されるので、切断するセッションを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



切断するセッションの選択

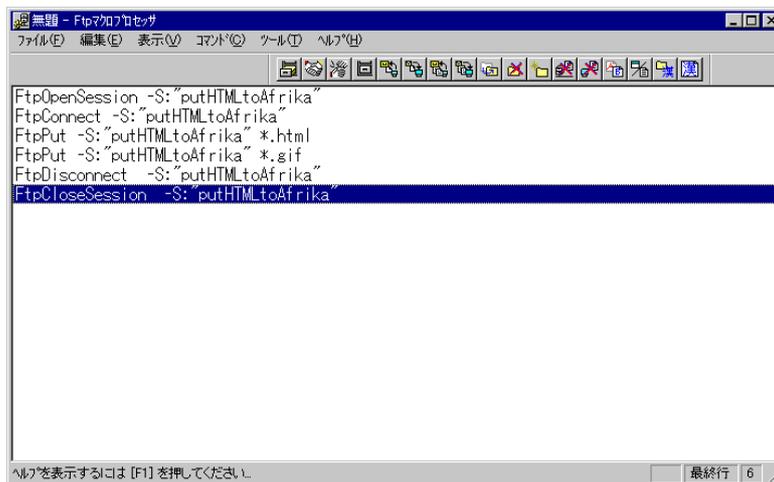
- メニューの「コマンド」「FTP セッション」「クローズ」を選択します。

11. 「FTPセッションの選択」ダイアログが表示されるので、クローズするセッションを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



クローズするセッションの選択

12. マクロが完成しました。



完成したマクロ

5.9.4 マクロファイルの保存

作成したマクロをファイルに保存するには、次の手順にしたがいます。

1. メニューから「ファイル」「名前を付けて保存」を選択します。

2. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、適当な名前を付けて「保存」ボタンをクリックします。

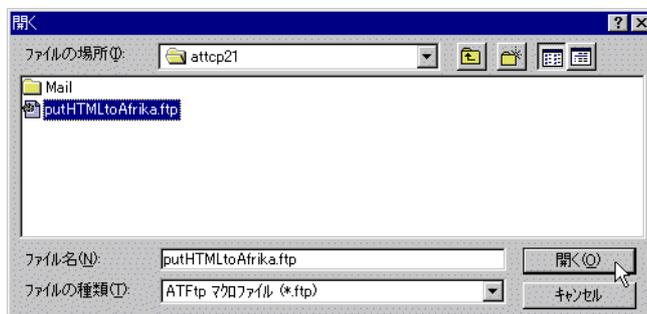


マクロファイルの保存

5.9.5 マクロファイルを開く

ファイルに保存されたマクロを開くには、以下の手順にしがいます。

1. メニューから「ファイル」「開く」をクリックします。
2. 「開く」ダイアログが表示されるので、マクロファイルを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



マクロファイルを開く

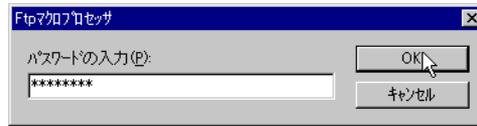
3. Ftp マクロプロセッサのメイン画面に選択したマクロファイルが表示されます。

5.9.6 マクロの実行

マクロを実行するには、次の手順にしがいます。

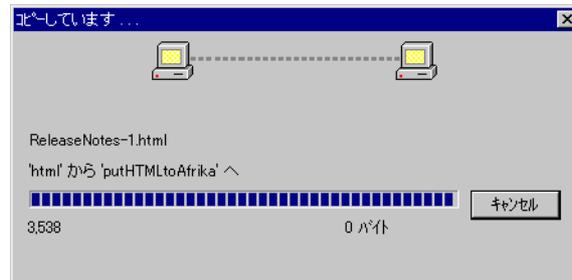
1. メニューから「コマンド」「実行」を選択します。

2. パスワードの入力を促すダイアログが表示されるので、FTP サーバにログインするためのパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。入力されたパスワードは「*****」のように伏せ字で表示されます。



パスワードの入力

3. マクロコマンドが実行されます。



マクロ実行中

5.9.7 マクロプロセッサの終了

1. メニューから「ファイル」 「アプリケーションの終了」を選択します。

第 6 章

Ftp サーバ

「Ftp サーバ」は、Windows マシンを FTP サーバとして使用するためのプログラムです。設定によって、サーバにアクセスできるホストを制限することもできます。

Topics:

- 起動 (⇒ p.101)
- 設定 (⇒ p.102)
- 終了 (⇒ p.106)

6.1 起動

「Ftp サーバ」を起動すると、そのコンピュータは自動的に FTP サーバとなります。

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「Ftp サーバ」の順に選択します。

2. メイン画面が表示されます。



メイン画面

6.2 設定

デフォルトの設定では、あらゆるホストから誰もがコンピュータ（およびそのファイル）にアクセスできてしまいます。Ftp サーバでは、以下の手段によって、アクセスに制限をかけることができます。

アクセス許可ホストの設定

FTP サーバにアクセス（接続）できるホスト（コンピュータ）を制限する

パスワードの設定

FTP サーバにアクセス（ログイン）できるユーザーを制限する。正しいユーザ名とパスワードを知っている人しかログインできなくします。

6.2.1 アクセス許可ホストの設定

FTP サーバにアクセスできるホストを制限するには、以下の手順にしたがいます。

1. メニューから「設定」 「アクセス許可ホストの設定」を選択します。

2. 「アクセス許可ホストの設定」ダイアログが表示されます。「ホスト名の直接入力」にアクセスを許可するホスト名を入力します。



許可するホストを入力

または「HOSTS ファイルから選択」の「読み込み」ボタンをクリックし、その中から選択することも可能です。



HOSTS ファイルから選択

3. アクセスを許可するホストを入力または選択したら、ダイアログの中央にある左向き矢印をクリックしてください。
4. 「アクセス許可ホスト一覧」にホスト名が追加されます。



アクセス許可ホスト一覧

\\ 「アクセス許可ホスト一覧」からホストを削除したいときは、そのホスト名を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

5. 設定が終了したら「OK」ボタンをクリックしてください。メイン画面の「アクセス許可ホスト」にアクセスを許可するホストの一覧が表示されます。



メイン画面のアクセス許可ホスト一覧

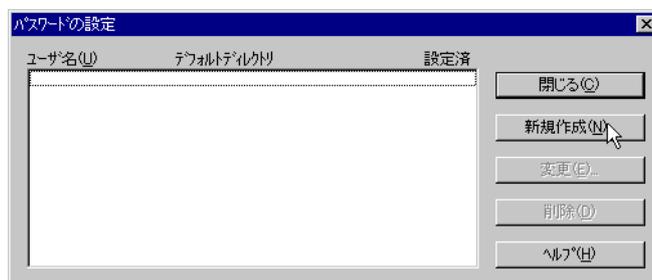
「アクセス許可ホスト」にホスト名が表示されている場合は、表示されているホストからしか接続できなくなります。

「アクセス許可ホスト」が空の場合は、どのホストからでも接続できます。

6.2.2 ユーザ/パスワードの設定

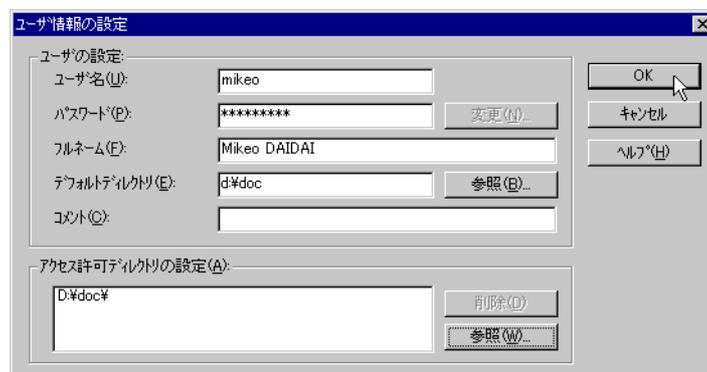
ローカルファイルへのアクセスを、特定のユーザだけに制限するには、次の手順にしたがって、ユーザ名とパスワードを登録します。

1. メニューから「設定」 「パスワードの設定」を選択します。
2. 「パスワードの設定」ダイアログが表示されるので、「新規作成」ボタンをクリックします。



パスワードの設定ダイアログ

3. 「ユーザ情報の設定」ダイアログが表示されるので、アクセスを許可するユーザの情報を入力して、「OK」ボタンを押します。



ユーザ情報の設定

ユーザ名

Ftp サーバにログインするためのユーザ名です。

パスワード

Ftp サーバにログインするためのパスワードです。

フルネーム

該当ユーザのフルネームです。

デフォルトディレクトリ

該当ユーザがログインした直後のカレントディレクトリを指定します。

コメント

該当ユーザについてメモを入力できます。

アクセス許可ディレクトリの設定

該当ユーザがアクセスできるディレクトリを指定します。「参照」ボタンを押してリストからディレクトリを選択してください。無指定の場合はサーバ上のすべてのディレクトリにアクセスできます。

4. 「パスワードの設定」ダイアログに戻るので、「閉じる」をクリックします。



パスワードの設定を閉じる

5. メイン画面の「パスワードによるアクセス制限」に、登録したユーザの情報が表示されます。



メイン画面のユーザー一覧

「パスワードによるアクセス制限」にユーザ名が表示されている場合は、表示されているユーザしかログインできなくなります。しかも、ログインにはパスワードが必要になります。

「パスワードによるアクセス制限」が空の場合は、ユーザ名に関係なくログインできます。また、パスワードは聞かれません。

ユーザ情報の保存

登録したユーザ/パスワードの情報は以下の手順でファイルに保存できます。

1. メニューから「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。
2. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、適当なファイル名を指定して「保存」をクリックします。拡張子は「.pwd」となります。

保存したユーザ情報ファイルの読み込み

保存したユーザ情報ファイルを開くには、次の手順にしたがいます。

1. メニューから「ファイル」 「開く」を選択します。
2. 「開く」ダイアログが表示されるので、ファイル名を指定して「開く」をクリックします。

6.3 終了

メニューから「ファイル」 「アプリケーションの終了」を選択します。

第7章

Ping ユーティリティ

「Ping ユーティリティ」は、指定したホストとの間で TCP/IP の通信ができるかどうかを確認するネットワーク診断用のアプリケーションです。

本ユーティリティは、通常の ping に加え、リモートホストまでの経路を調べる traceroute 機能を持っています。

なお、本ユーティリティは、一般的な ping/traceroute コマンドが持つオプションをすべて実装しているわけではありませんのでご注意ください。

Topics:

- 起動 (☞ p.107)
- ping の実行 (☞ p.108)
- トレースルートの実行 (☞ p.109)
- 終了 (☞ p.110)

7.1 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「Ping ユーティリティ」の順に選択します。

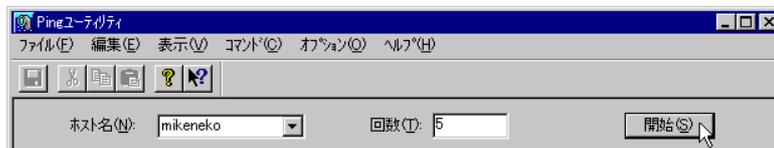
2. メイン画面が表示されます。デフォルトはPING モードです。



メイン画面

7.2 ping の実行

1. リモートホストのホスト名（または IP アドレス）と、ping パケットの送信回数を指定し、「開始」ボタンをクリックします。



ping の開始

2. ping が開始されると、送信パケット数、受信パケット数、成功率、応答時間（平均応答時間）などがリアルタイムに表示されます。

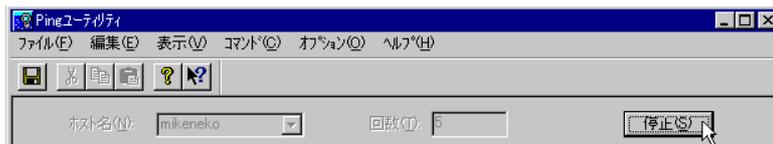


ping の結果表示

※ 成功率が90%以下のときは、オプションメニューでインターバルタイムやタイムアウトの値を大きくしてみてください。タイムが短すぎると、リモートホストからの応答が帰る前に、タイムアウトになる可能性があります。

※ ping に失敗した場合は、ローカルホストの TCP/IP 設定が正しくない、リモートホストが停止している、または、ネットワークに接続されていない、などの理由が考えられます。

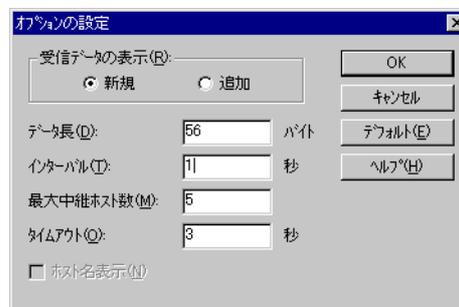
3. パケットの送信を途中で停止するには、「停止」ボタンをクリックしてください（ping を開始すると「開始」ボタンが「停止」ボタンに変わります）。



ping の停止

7.2.1 インターバルタイムの変更

1. メニューから「オプション」、「オプションの設定」を選択します。
2. 「オプションの設定」ダイアログが表示されます。「インターバル」フィールドに1～1000（秒）の範囲で整数値を入力します。デフォルトは1秒です。



「オプションの設定」ダイアログ

3. 入力したら「OK」ボタンをクリックします。

7.3 トレースルートの実行

トレースルートモードでは、指定したホストまでの経路（通過するルーター）を調べることができます。このモードは、ネットワークのより詳細なメンテナンスに使用します。

1. 「コマンド」 「トレースルートモード」をクリックします。



トレースルートモードへの切替え

＼トレースルートモードから PING モードへ切り替えるときは、「コマンド」 「PING モード」をクリックします。

2. リモートホストのホスト名（または IP アドレス）を入力し、「開始」ボタンをクリックします。



トレースルートの開始

3. トレースルートの結果が表示されます。



トレースルートの結果表示

7.4 終了

メニューから「ファイル」 「アプリケーションの終了」を選択します。

第 8 章

リモートプリント

「リモートプリント」は、ネットワーク上のプリンタにファイルを出力するプログラムです。

本プログラムは、UNIX の lpr をエミュレートするため、プリンタは必ず lpd (UNIX-style line printer daemon) が起動されているサーバに接続する必要があります。

Topics:

- 起動 (⇒ p.111)
- 基本設定 (⇒ p.111)
- 印刷 (⇒ p.112)
- プリントオプション (⇒ p.113)
- 終了 (⇒ p.114)

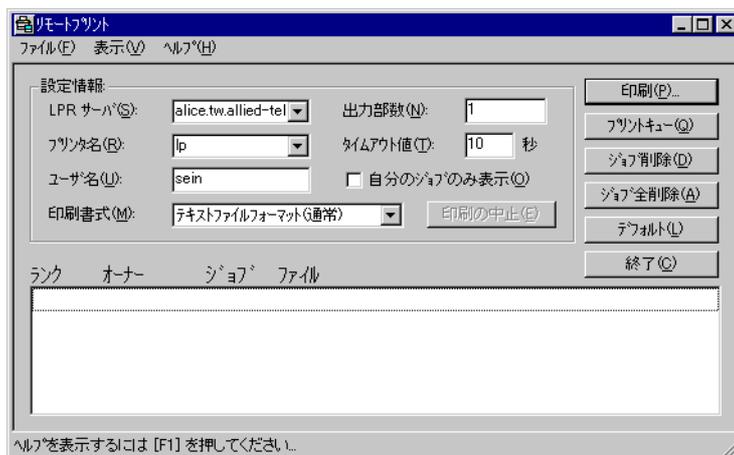
8.1 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「リモートプリント」の順に選択します。
2. メイン画面が表示されます。

8.2 基本設定

1. メイン画面で、LPR サーバ、プリンタ名、ユーザ名、印刷書式等、「リモートプリント」を使って印刷する際の諸条件を設定します。

ここでは、LPR サーバを alice、プリンタ名を lp、ユーザ名を sein、印刷書式をテキストファイルフォーマットとする例を示します。



メイン画面

LPR サーバ

プリンタサーバのホスト名を指定します。

プリンタ名

サーバ側で定義されているネットワーク上のプリンタ名を指定します。

ユーザ名

プリンタを使用するユーザの名前を指定します。

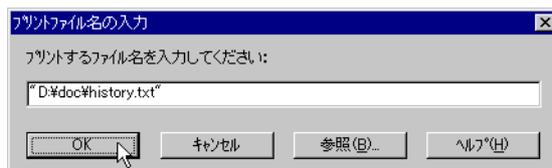
印刷書式

印刷するファイルの書式を設定します。通常はテキストファイルフォーマット（デフォルト）を設定します。

テキストファイルフォーマット以外の書式については lpd 側にそれらを印刷するためのプリンタ名（プリンタエントリ）がなければなりません。

8.3 印刷

1. メイン画面の「印刷」ボタンをクリックします。「プリントファイル名の入力」ダイアログが表示されるので、印刷したいファイルの名前を入力し、「OK」をクリックします。



印刷ファイルの指定

2. 「プリントファイル確認」のダイアログが表示されるので、ファイル名を確認し、「OK」をクリックします。



印刷ファイルの確認

3. ステータスバーに「ファイル名：<filename> をプリント中」と表示されます。この表示が消えたら、プリント終了です。



印刷中

8.4 プリントオプション

印刷書式がテキストファイルモードか PR 印刷の場合、「プリントオプション」メニューでさらに細かい印刷設定を行うことができます。

ここではよく使用されると思われる項目についてのみ説明しますので、その他の項目については、オンラインヘルプをご参照ください。

1. メニューから「表示」「オプション設定」を選択します。
2. 「オプションの設定」ダイアログが表示されるので、このダイアログの「プリントオプション」で設定を行います。



オプションの設定

3. 印刷時に、漢字コードをシフト JIS コードから JIS コードに変換して LPR サーバに送信することができます。この機能は、LPR サーバ側に漢字コード変換機能がない場合に使います。
 - (a) 「JIS 変換」をチェックします。
 - (b) 「プリンタタイプ」が選択できるようになるので、プリンタサーバに接続されているプリンタのタイプを選択します。各プリンタがサポートしているプリントエスケープコードについてはオンラインヘルプをご参照ください。
4. 印刷終了時にプリンタへ改頁コードを送出するには、「改頁コードの送付」をチェックしてください。
5. 印刷を開始する前に、選択されたファイルがバイナリファイルかどうかをチェックし、バイナリだった場合は警告メッセージが表示されるようにするには、「バイナリファイルチェック」をチェックします。

印刷ファイルがバイナリファイルだった場合は、次のメッセージが表示されます。



バイナリファイル

8.5 終了

メイン画面の右にある「終了」ボタンをクリックします。またはメニューから「ファイル」「アプリケーションの終了」を選択します。

第 9 章

プリンタサーバ

「プリンタサーバ」は、Windows マシンを lpr サーバや lpbios サーバといった、スプール機能付きのプリンタサーバにするプログラムです。

「プリンタサーバ」の起動されたコンピュータは、ネットワーク内のコンピュータおよびサーバからの lpr、lpq、lprm、lpbios 要求を受けて実行します。

※ 「プリンタサーバ」は、テンポラリディレクトリにスプールファイルを作成するので、テンポラリディレクトリの作成場所にご注意ください。

Topics:

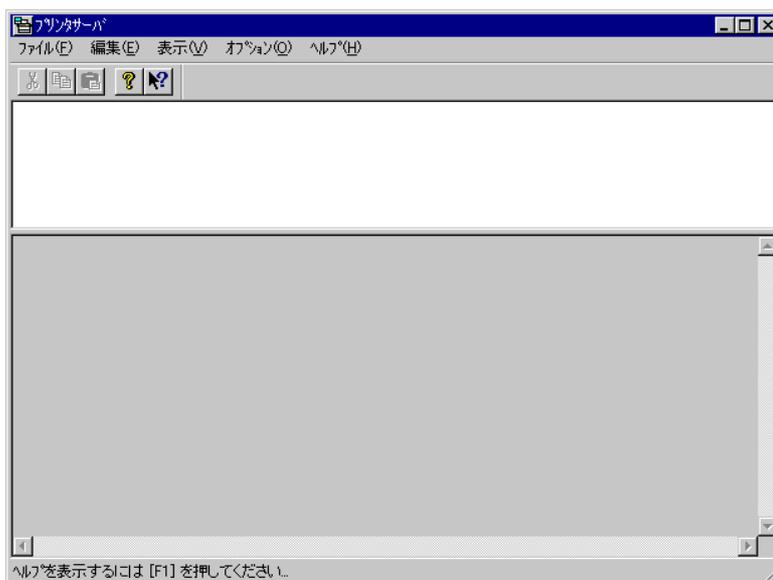
- 起動 (⇒ p.115)
- プリンタの選択 (⇒ p.116)
- 終了 (⇒ p.117)

9.1 起動

「プリンタサーバ」を起動するとそのコンピュータは自動的にプリンタサーバとなります。

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「プリンタサーバ」の順に選択します。

2. メイン画面が表示されます。

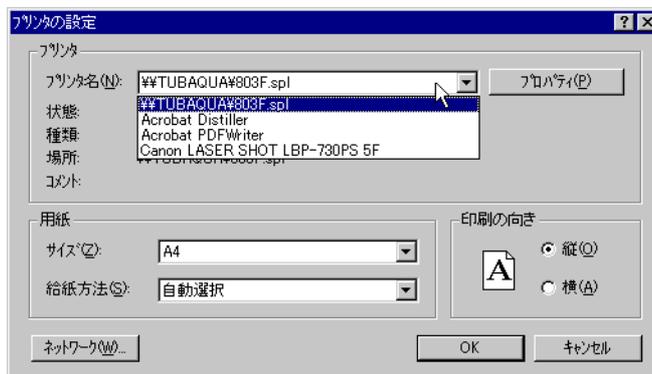


メイン画面

9.2 プリンタの選択

デフォルトでは、Windows で設定された「通常使用するプリンタ」が使用されますが、他のプリンタを使うこともできます。

1. メニューから「ファイル」「プリンタの設定」を選択します。
2. 「プリンタの設定」ダイアログが表示されるので、使用するプリンタを選択して「OK」ボタンを押します。



プリンタの選択

9.3 終了

メニューから「ファイル」 「アプリケーションの終了」を選択します。

第 10 章

Tftp クライアント

「Tftp クライアント」は、Windows 用の TFTP (Trivial File Transfer Protocol) クライアントアプリケーションです。

「Tftp クライアント」は、主にネットワークメンテナンス用に使用します。

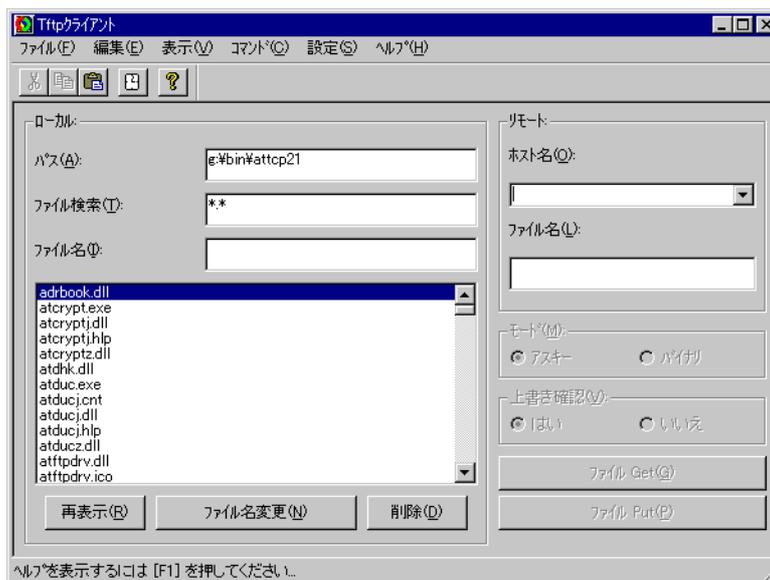
Topics:

- 起動 (⇒ p.119)
- ファイル転送 (⇒ p.120)
- 終了 (⇒ p.124)

10.1 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「Tftp クライアント」の順に選択します。

2. メイン画面が表示されます。



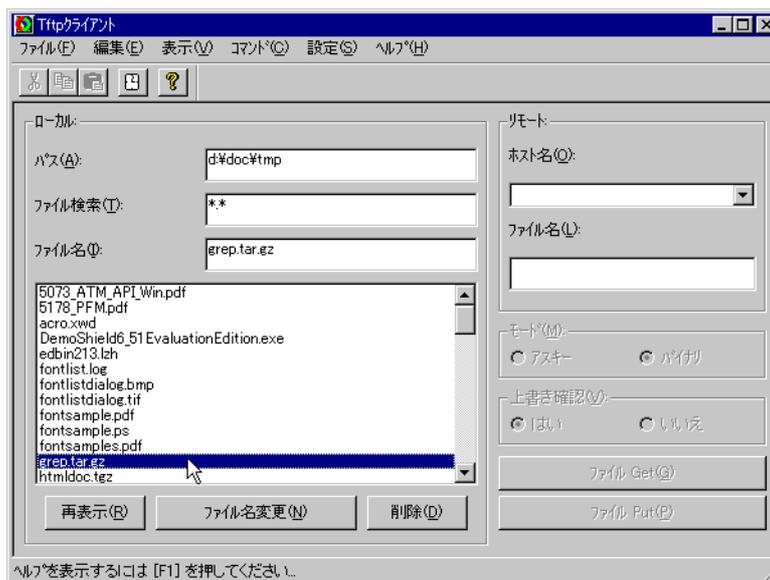
メイン画面

10.2 ファイル転送

10.2.1 Put

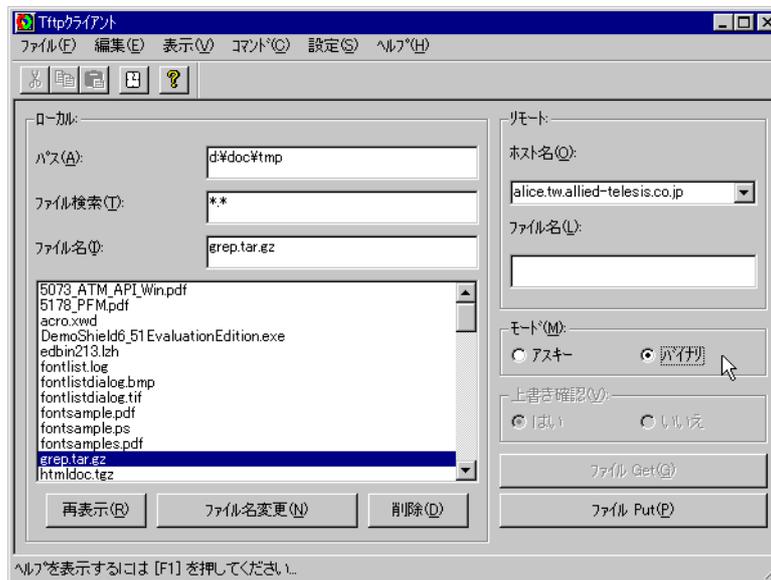
ローカルからリモートへ転送する場合に使用します。

1. 「ローカル」で、転送するファイルのパス、ファイル名を指定します。



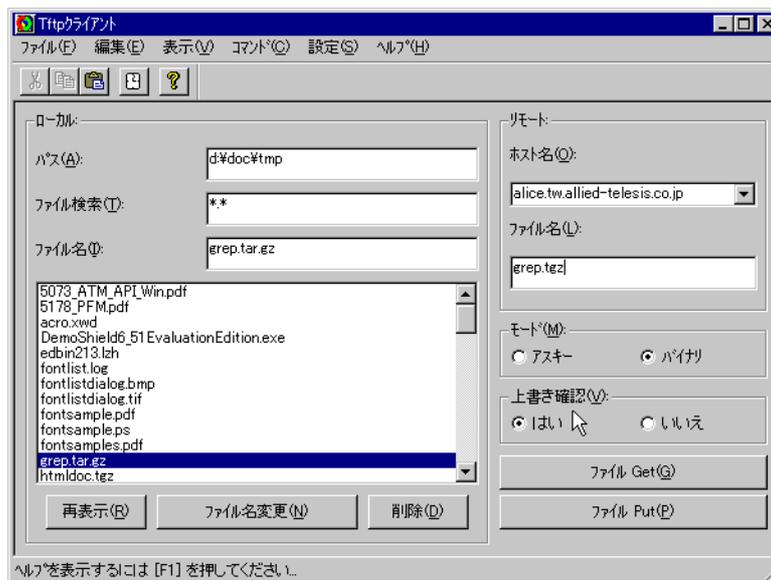
ローカルファイル名の指定

2. 「リモート」で、転送先のホスト名を指定します。ホスト名を入力すると「モード」が選択可能になるので、ファイルのタイプに合わせてモードを選択します。デフォルトは「アスキー」です。バイナリファイルの場合は「バイナリ」を選択します。



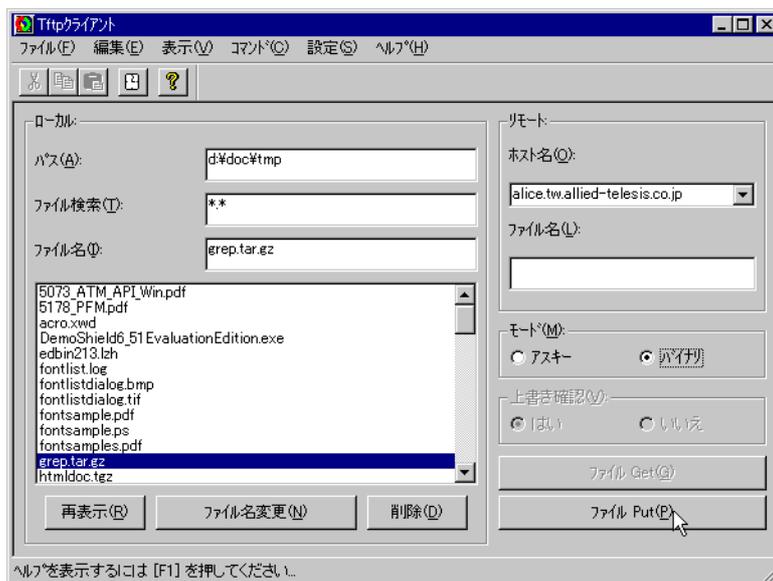
リモートホスト名の指定

3. 転送時にファイル名を変更したい場合は、「リモート」の「ファイル名」に変更後のファイル名を入力します。ファイル名を入力すると、「上書き確認」が選択可能になるので、転送先に同じ名前のファイルがあった場合に上書き確認のメッセージを表示するかどうかを選択します。デフォルトは「はい」です。



リモートファイル名の指定

4. 設定が終了したら「ファイル Put」ボタンをクリックするか、「コマンド」「ファイル Put」をクリックします。



Put

5. ファイルがリモートへ転送されます。



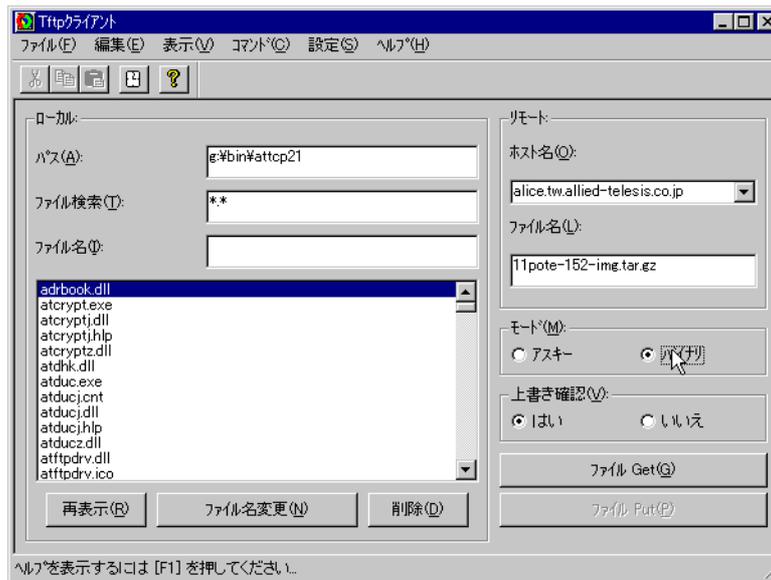
Put 中

10.2.2 Get

リモートからローカルへ転送する場合に使用します。

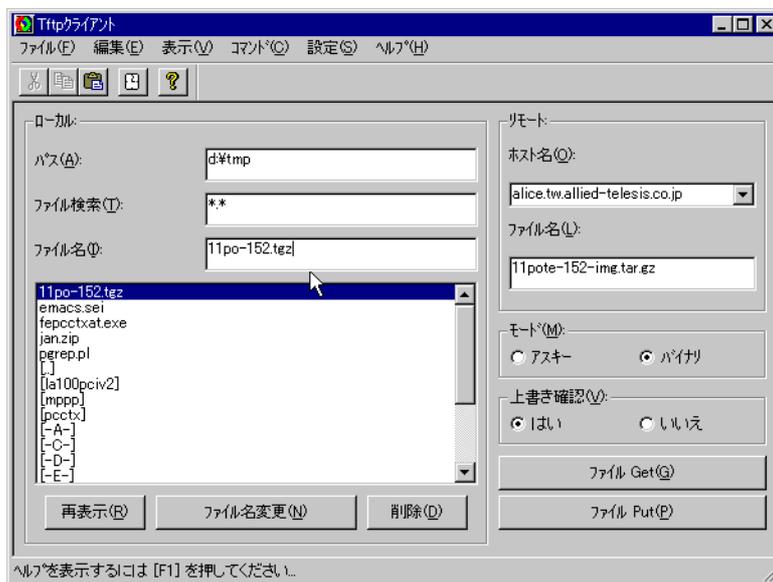
1. 「リモート」で転送元ファイルのあるホスト、ファイル名を指定します。

ホスト名とファイル名を指定すると、「モード」と「上書き確認」が選択可能になります。ファイルのタイプに合わせてモードを選択し、上書き確認のメッセージを表示するかどうかを選択してください。



リモートファイルの指定

- 「ローカル」の「パス」に転送先のディレクトリを指定します。
転送時にファイル名を変更したい場合は、「ローカル」の「ファイル名」に変更後のファイル名を入力します。



ローカルファイル名の指定

- 必要な情報を指定したら、「ファイル Get」をクリックするか、「コマンド」 「ファイル Get」を選択します。
- ファイルの転送が行われます。



Get 中

10.3 終了

メニューから「ファイル」 「アプリケーションの終了」を選択します。

第 11 章

Tftp サーバ

「Tftp サーバ」は Windows マシンを TFTP サーバにするためのプログラムです。

Topics:

- 起動 (⇒ p.125)
- ディレクトリの設定 (⇒ p.126)
- サーバの開始と停止 (⇒ p.127)
- 終了 (⇒ p.128)

11.1 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「Tftp サーバ」の順に選択します。
2. メイン画面が表示されます。



メイン画面

11.2 ディレクトリの設定

TFTP でアクセスできるディレクトリの設定を行います。

1. メニューから「設定」 「ディレクトリの設定」を選択します。
2. 「ディレクトリの設定」ダイアログが表示されます。ディレクトリ名を入力または「参照」ボタンで選択し、パーミッションを適宜設定してから「追加」ボタンを押します。



ディレクトリの追加

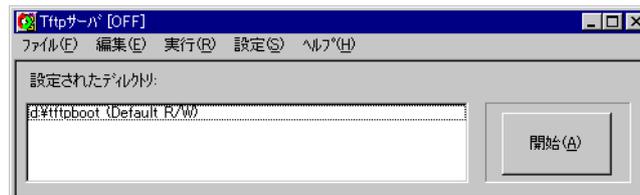
※ 「デフォルト」をチェックすると、そのディレクトリはデフォルトディレクトリとなり、クライアントはパス指定なしでファイルにアクセスできます。デフォルトでないディレクトリにアクセスする場合は、クライアント側でフルパス指定が必要です。

3. 「設定されたディレクトリ」に追加したディレクトリが表示されます。「OK」ボタンを押してダイアログを閉じてください。



設定されたディレクトリ

4. メイン画面の「設定されたディレクトリ」にディレクトリ名が表示されます。



メイン画面のディレクトリ一覧

11.3 サーバの開始と停止

1. Tftp サーバを開始するには、メニューの「実行」「開始」を選択するか、メイン画面の「開始」ボタンをクリックします。



開始

2. サーバプロセス実行中は、「開始」ボタンが「停止」ボタンになり、メッセージフィールドにサーバの動作ログが表示されます。

3. Tftp サーバを停止するには、メニューの「実行」「停止」を選択するか、メイン画面の「停止」ボタンをクリックします。



停止

11.4 終了

メニューから「ファイル」「アプリケーションの終了」を選択します。

第 12 章

リモートコマンド

「リモートコマンド」は、Windows PC 上から、リモートの UNIX ホストに対して、r コマンド (rcp、rsh) を実行するためのプログラムです。「リモートコマンド」を使うと、UNIX ホストとの間でファイルのコピー（転送）を行ったり、UNIX ホストに任意のコマンドを実行させたりすることができます。

また、「リモートコマンド」では、スクリプトファイルを作成して、リモートコマンドを連続実行することもできます。

Topics:

- リモートホスト側に必要な環境と設定 (☞ p.129)
- 起動 (☞ p.131)
- r コマンドの実行 (☞ p.132)
- スクリプトファイルの使用 (☞ p.136)
- 終了 (☞ p.139)

12.1 リモートホスト側に必要な環境と設定

r コマンドを使用するためには、リモートの UNIX ホストに以下の設定が必要となります。ただし、r コマンドの設定を施すことは、UNIX システムのセキュリティレベルを低下させる可能性がありますので、厳密なセキュリティが必要な場合は十分にご注意ください。

12.1.1 r コマンドをサポートしていること

r コマンドは、もともと BSD 系 UNIX のコマンドです。r コマンドを使用するためには、リモートホストに r コマンドのサーバプロセス (rshd: リモートシェルサーバ) が必要です。さらに、rshd が動作可能な状態になっている必要があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

12.1.2 ユーザアカウントがあること

r コマンドを実行するには、リモートホストに自分のユーザアカウントがなくてはなりません。具体的には、リモートホスト上で次の設定が行われている必要があります (BSD 系 UNIX における例)。

1. ユーザ名が /etc/passwd ファイルに登録されていること。
2. パスワードが /etc/passwd ファイルに登録されていること。パスワードなしは無効です。
3. ホームディレクトリが作成されていること。

※ なお、リモートホスト側で、シェル起動時に stty、tset、resize などの画面設定コマンドが実行されるようになっている場合、rsh、rcp コマンドはエラーを発生し、うまく動作しません。たとえば、C シェルをご使用の場合、これらの画面設定コマンドは ~/.cshrc ファイルではなく ~/.login ファイルに記述してください。

12.1.3 ~/.rhosts ファイルが作成されていること

r コマンドを実行するには、リモートホストのホームディレクトリに.rhosts ファイルを作成し、r コマンドを発行するコンピュータ (ここでは、AT-TCP 32 をインストールした PC) のホスト名とユーザ名を記述しておく必要があります。~/.rhosts ファイルが存在しなかったり、記述が間違っていると、リモートコマンドは失敗します。

※ ただし、/etc/hosts.equiv ファイルに PC のホスト名が記述されている場合は、~/.rhosts ファイルがなくても r コマンドを実行できます。なお、/etc/hosts.equiv は、通常システム管理者が管理するファイルです。

~/.rhosts ファイルがない場合は、リモートホストにログインし、次の例を参考に作成してください。また、PC 上でエディタを使って作成し、FTP などでリモートホストへ転送してもかまいません。

~/.rhosts ファイルには、r コマンドを実行するコンピュータのホスト名 (または IP アドレス) とユーザ名をスペースまたはタブで区切って記述します。「#」以降行末までは、コメントとして無視されます。次に、~/.rhosts ファイルの例を示します。

```
bulbul.birds.xx.jp sein
osprey.birds.xx.jp sein
wagtail.birds.xx.jp sein # PC with AT-TCP/32 installed
192.168.1.87 seinan
```

この例では、ホスト「bulbul.birds.xx.jp」、「osprey.birds.xx.jp」、「wagtail.birds.xx.jp」のユーザ「sein」と、ホスト「192.168.1.87」のユーザ「seinan」に対して、r コマンドの実行を許可しています。

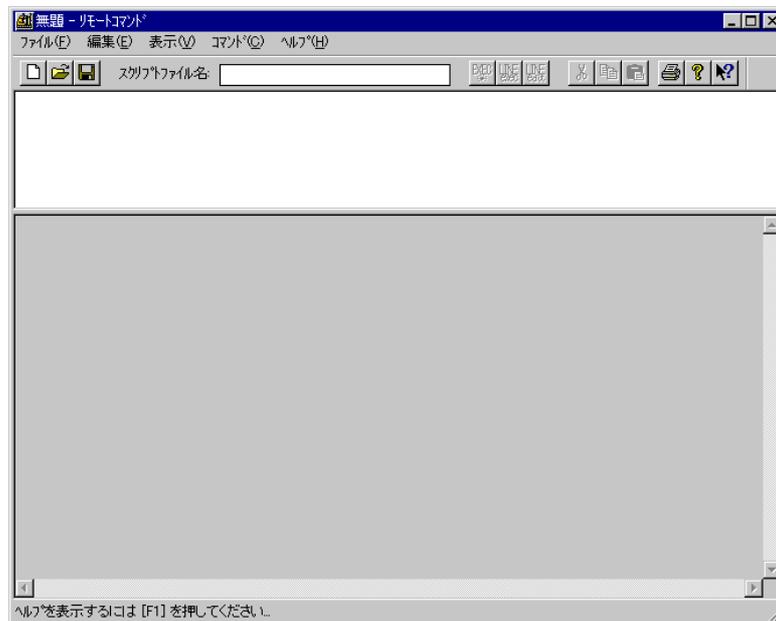
※ 通常、所有者以外のユーザに ~/.rhosts ファイルへの書き込み権限が与えられていたり、~/.rhosts ファイルの所有者が該当ユーザでなかったりすると、r コマンドは実行できません。詳細については、システム管理者にお尋ねになるか、システム付属のマニュアル等をご参照ください。

12.1.4 PC の IP アドレスとホスト名を相互変換できること

r コマンドを実行するには、リモートホストが PC の IP アドレスとホスト名を相互変換できるように設定されている必要があります。具体的には、リモートホストの /etc/hosts ファイルに PC の IP アドレスとホスト名が記述されている、あるいは、DNS 等のネームサービスを利用するよう設定されており、なおかつ DNS 等に PC の情報が登録されている必要があります。

12.2 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「リモートコマンド」の順に選択します。
2. メイン画面が表示されます。



メイン画面

12.3 r コマンドの実行

12.3.1 リモートコピー

リモートコピー (rcp) は、リモートホストと自ホストの間でファイルのコピー (転送) を行うためのコマンドです。

∟ リモートホスト上でのファイルのコピーや、ローカルホスト上でのコピーも可能です。また、各ホストに適切な設定が施されていれば、リモートホスト A からリモートホスト B への第三者間コピーも可能です。

1. メニューから「コマンド」 「リモートコピー」を選択します。
2. 「リモートコピー」ダイアログが表示されるので、ここで必要な情報を入力します。
3. まず、送信元ファイルについて設定します。送信したいファイルがリモートにあるのか、ローカルにあるのかを選択し、ローカルの場合はファイル名を、リモートの場合は、ホスト名、ユーザ名、ファイル名を指定します。

∟ バイナリファイルをコピーする場合は、「バイナリモード」のチェックを忘れないように気を付けてください。「バイナリモード」をチェックしなかった場合は、コピー時に行末コードの自動変換 (LF ↔ CR+LF) が行われます。

ディレクトリごとコピーしたい場合は、「ファイル名」にディレクトリを入力し、「リカーシブモード」をチェックします。

送信元ファイルがローカルにある場合は、「参照」ボタンでファイル名を選択指定することもできます。

4. 次に送信先について設定します。送信先をローカルにするか、リモートにするかを選択をします。ローカルの場合はファイル名 (またはディレクトリ名) を、リモートの場合は、ホスト名、ユーザ名、ファイル名 (またはディレクトリ名) を指定します。

ファイル名やディレクトリ名に漢字が含まれている場合は、「漢字変換」ボタンをクリックし、表示される「漢字変換」ダイアログでリモートホスト側の漢字コードを選択します。

また、送信先がリモートの場合、「モード」で送信先にコピーしたときのファイルパーミッションを設定することもできます。



パーミッションの設定

5. 必要な情報を入力しおわったら、「実行」ボタンをクリックしてください。
次に、いくつか例を示します。

- (a) リモートホスト「alice」上の「\$HOME/tmp/img0816.tgz」ファイルを、ローカル PC の「C:¥tmp」ディレクトリにコピー



例 1

- (b) リモートホスト「alice」上の「\$HOME/doc/perl/myinc」ディレクトリ以下を、ローカル PC の「C:¥tmp」ディレクトリ以下にコピー



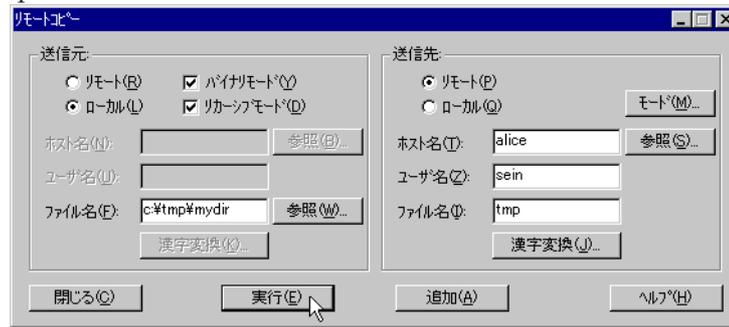
例 2

- (c) ローカル PC の「D:¥intro1.gif」をリモートホスト「alice」のホームディレクトリ直下にコピー（リモートの「ファイル名」を空欄にすると、ホームディレクトリを指定したのと同じになります）



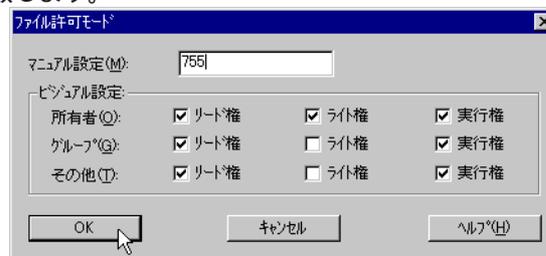
例 3

- (d) ローカル PC の「C:\tmp\mydir」ディレクトリ以下を、リモートホスト「alice」の「\$HOME/tmp」ディレクトリ以下にコピー



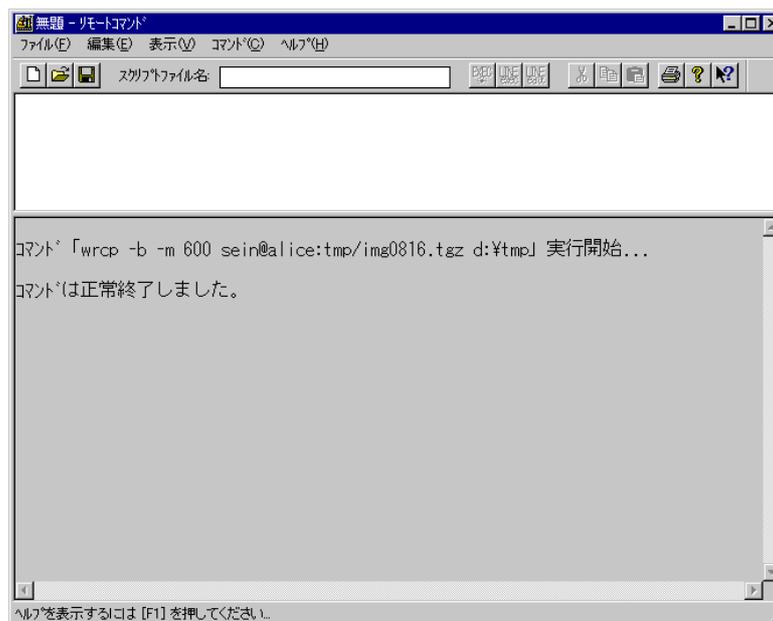
例 4

このとき、「モード」ボタンをクリックして、リモートファイルに実行パーミッションを与えないと、コピーに失敗します。



パーミッションの設定

6. コマンドが実行され、結果が画面に表示されます。



リモートコピーの結果

12.3.2 リモートシェル

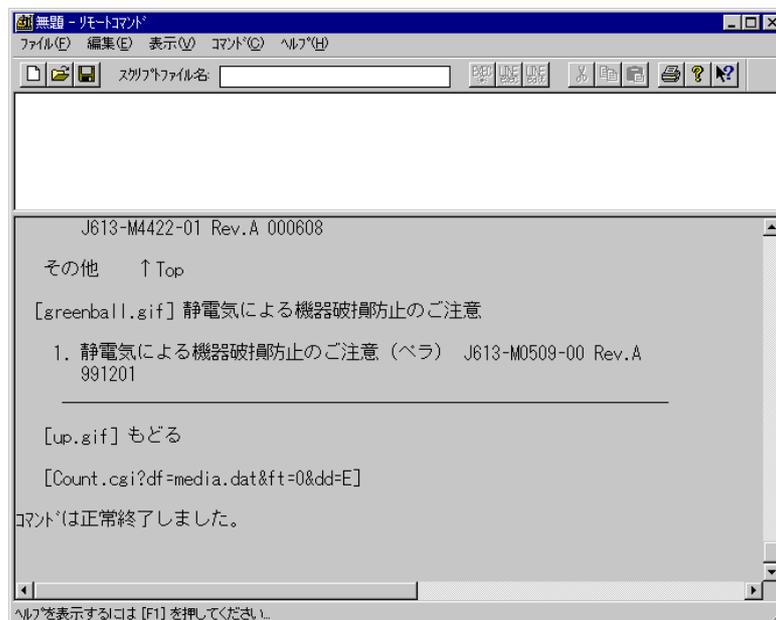
リモートシェル (rsh) は、リモートホスト上でコマンドを実行させるコマンドです。リモートシェルは、リモートホストへのログイン、コマンドの実行、ログアウトを一連の動作として行います。

1. メニューから「コマンド」「リモートシェル」を選択します。
2. 「リモートシェル」ダイアログが表示されるので、ここで必要な情報を入力します。
3. コマンドを実行するホスト名、リモートホスト上でコマンドを実行するユーザ名、リモートホスト上で実行するコマンドを入力します。ここでは、ホスト名「alice」、ユーザ名「sein」、コマンド「lynx -dump -crawl http://www.tw.allied-telesis.co.jp/」とします。



コマンドの指定

4. 入力が終わったら、「実行」ボタンをクリックします。
5. コマンドが実行され、実行結果が画面に表示されます。



コマンド実行結果

12.4 スクリプトファイルの使用

スクリプトファイルを作成すると、複数の r コマンドを連続して実行させることができます。

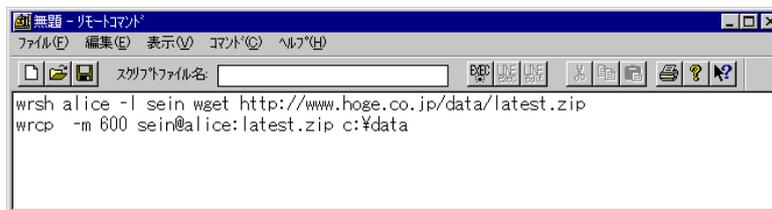
12.4.1 スクリプトファイルの作成

1. 実行したい各コマンドについて、前述した「リモートコピー」および「リモートシェル」の手順にしたがって、各種パラメータを設定します。



コマンドの追加

2. 入力が終了したら、「実行」ではなく「追加」をクリックします。すると、メイン画面上部に入力したコマンドが表示されます。



追加されたコマンド

3. この手順を繰り返して、必要なコマンドをすべて入力します。

12.4.2 スクリプトファイルの実行

1. 「コマンド」「スクリプトファイルの実行」をクリックします。またはツールバーの「EXEC」ボタンをクリックします。



スクリプトファイルの実行

2. コマンドが実行され、実行結果が画面に表示されます。



実行中のスクリプト

12.4.3 スクリプトファイルの保存

1. 作成したスクリプトファイルを保存するには、メニューの「ファイル」「名前を付けて保存」を選択します。
2. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、ファイル名を指定して「保存」ボタンをクリックします。

12.4.4 スクリプトファイルの読み込み

1. 保存したスクリプトファイルを読み込むには、メニューの「ファイル」 「開く」を選択します。
2. 「開く」ダイアログが表示されるので、スクリプトファイル名を指定して、「開く」をクリックしてください。
3. 指定したファイルが読み込まれると、メイン画面の「スクリプトファイル名」欄にファイル名が表示され、コマンド表示欄にスクリプトの内容が表示されます。

12.4.5 コマンド行の編集、実行

スクリプトファイル内のコマンドを 1 行だけ実行したり、編集したりするには、以下の手順にしたがい

ます。

ダブルクリックによる編集、実行

スクリプトファイル内のコマンド行をダブルクリックすることにより、その行を実行、または、編集することができます。

ダブルクリック時にどちらの動作を行わせるかは、メニューで変更できます。

1. 「コマンド」 「ダブルクリック時の動作」を選択すると、次のサブメニューが表示されるので、「実行」、「編集」のどちらかを選択します。



ダブルクリック時の動作

一行実行 (LINE exec)

選択したコマンド行だけを実行するには、次のようにします。

1. 実行したいコマンド行を選択します。

2. ツールバーの「LINE exec」ボタンをクリックします。



LINE exec

3. 「ダブルクリック時の動作」の設定にかかわらず、選択したコマンドが実行されます。

一行編集 (LINE edit)

選択したコマンド行を編集するには、次のようにします。

1. 編集したいコマンド行を選択します。
2. ツールバーの「LINE edit」ボタンをクリックします。



LINE edit

3. 「ダブルクリック時の動作」の設定にかかわらず、選択したコマンドの編集画面が表示されます。

12.5 終了

メニューから「ファイル」 「アプリケーションの終了」を選択します。

第 13 章

Finger クライアント

「Finger クライアント」は、指定したホストにログインしているユーザの情報や、指定したユーザの情報を得るためのプログラムです（情報の内容はホストに依存します）。一般的に、finger クライアントでは次の情報が得られます。

Login

ユーザのログイン名。

Name

ユーザのフルネーム。

TTY

ユーザが使用している端末。

Idle

ユーザが最後に端末を操作してからの経過時間。

When

ログイン時刻。

Where

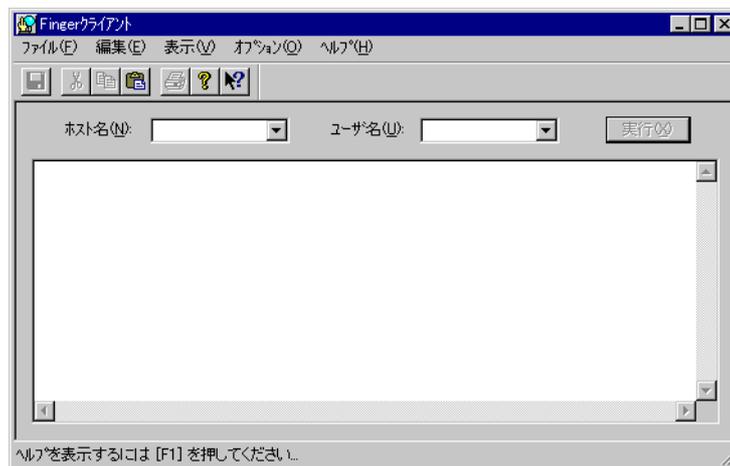
ユーザがどこからログインしているか。

Topics:

- 起動 (☞ p.142)
- finger の実行 (☞ p.142)
- 情報の保存 (☞ p.143)
- 漢字コード変換の設定 (☞ p.144)
- 終了 (☞ p.144)

13.1 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「Finger クライアント」の順に選択します。
2. メイン画面が表示されます。



メイン画面

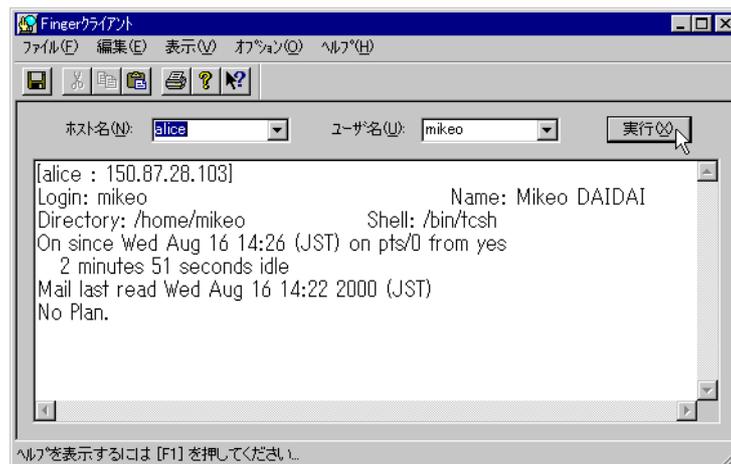
13.2 finger の実行

1. 「ホスト名」に finger サーバのホスト名（または IP アドレス）を、「ユーザ名」には情報を取得したいユーザの名前を入力し、「実行」ボタンをクリックします。



情報の取得

2. 指定したユーザの情報が表示されます。



ユーザの情報

また、「ユーザ名」の入力を省略すると、指定したホストにログインしているユーザすべてに関する情報が表示されます。



ユーザ名を省略した場合

13.3 情報の保存

取得した情報はファイルに保存することができます。

1. メニューから「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。
2. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。保存する場所とファイル名を指定して「保存」をクリックしてください。

13.4 漢字コード変換の設定

finger サーバが日本語に対応している場合、finger サーバから取得したデータ中の漢字コードを変換することができます。

1. メニューから「オプション」 「オプションの設定」を選択します。
2. 「オプションの設定」ダイアログが表示されるので、「漢字コード変換」をサーバ側の設定に合わせます。設定が終了したら「OK」をクリックします。



オプションの設定

13.5 終了

メニューから「ファイル」 「アプリケーションの終了」を選択します。

第 14 章

Finger サーバ

「Finger サーバ」は、Windows マシンを finger サーバにするためのプログラムです。ネットワーク上の他のコンピュータから、finger クライアントを使って finger サーバのユーザ情報を取得することができます。ただし、この場合のユーザ情報とは、CentreNET AT-TCP/32 Professional インストール時に設定したホームディレクトリ上の「_plan」ファイルに記述してある内容をさします。

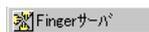
Topics:

- 起動 (⇒ p.145)
- 終了 (⇒ p.146)

14.1 起動

「Finger サーバ」を起動すると、そのコンピュータは自動的に finger サーバとなります。

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「Finger サーバ」の順に選択します。
2. タスクバーに「Finger サーバ」のタスクボタンが表示されます。これで、このコンピュータは finger サーバとして動作します。ネットワーク上の他のコンピュータから、Finger クライアントコマンドを使用して、ユーザ情報を取得できるようになります。



Finger サーバのタスクボタン

14.2 終了

マウスの右ボタンでタスクバーの「Finger サーバ」アイコンをクリックしてメニューを表示させ、「閉じる」をクリックします。

第 15 章

Whois クライアント

「Whois クライアント」は、Whois サーバから、指定したキーワードに関する情報を引き出すためのプログラムです。接続先のサーバによって、表示されるデータは異なります。詳細は接続先ホストの管理者にお問い合わせください。

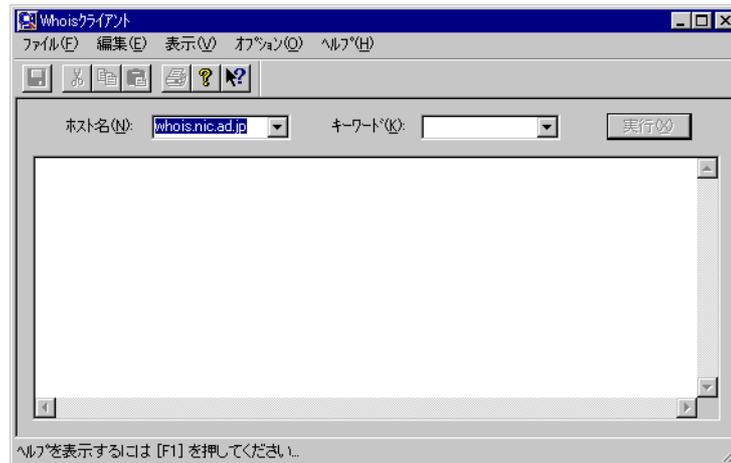
Topics:

- 起動 (☞ p.147)
- 漢字コード変換の設定 (☞ p.148)
- 情報の検索 (☞ p.149)
- 情報の保存 (☞ p.149)
- 終了 (☞ p.149)

15.1 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「Whois クライアント」の順に選択します。

2. メイン画面が表示されます。



メイン画面

15.2 漢字コード変換の設定

日本国内の Whois サーバに接続する場合は、オプション設定で漢字コードの変換設定を行います。

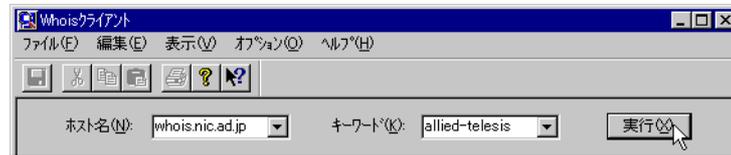
1. メニューから「オプション」「オプションの設定」を選択します。
2. 「オプションの設定」ダイアログが表示されます。「漢字コード変換」から、サーバ側で使われている漢字コードを選択します。設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。



漢字コード変換の設定

15.3 情報の検索

1. メイン画面の「ホスト名」に Whois サーバの名前（または、IP アドレス）を、「キーワード」にユーザ名等のキーワードを入力して「実行」ボタンをクリックします。



サーバ名、キーワードの入力

2. 情報が表示されます。

15.4 情報の保存

取得した情報をファイルに保存することができます。

1. メニューの「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。
2. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、ファイル名を指定して「保存」をクリックします。

15.5 終了

メニューから「ファイル」 「終了」を選択します。

第 16 章

時刻設定ユーティリティ

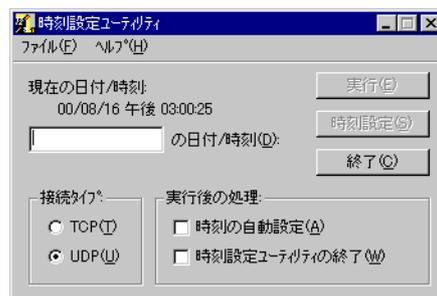
「時刻設定ユーティリティ」は、タイムサーバに対して、現在の日付、時刻の問い合わせを行い、本ユーティリティを実行しているコンピュータの時計を、タイムサーバに同期させるプログラムです。

Topics:

- 日付・時刻の確認 (⇒ p.151)
- 終了 (⇒ p.152)

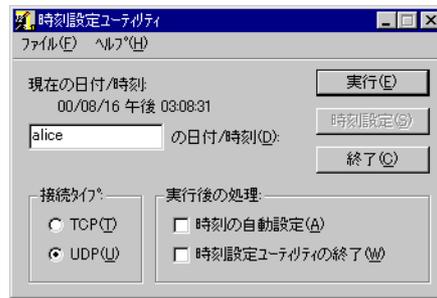
16.1 日付・時刻の確認

1. 「スタート」ボタンから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「時刻設定ユーティリティ」の順に選択します。
2. 設定ダイアログボックスが表示され、コンピュータに設定してある「現在の日付/時刻」が表示されます。



現在時刻

3. 「現在の日付/時刻」の下のボックスにタイムサーバのホスト名を入力します。ここではホスト名を「alice」とします。



タイムサーバ名の指定

4. 次に「接続タイプ」を選択します。タイムサーバに応じて、「TCP」か「UDP」のどちらかを選択してください。デフォルトは「UDP」です。
5. 「時刻の自動設定」をチェックしておく、「実行」ボタンをクリックしてタイムサーバにアクセスしたときに、コンピュータの時計がタイムサーバの時刻に同期されます。
6. 「時刻ユーティリティの終了」をチェックしておく、時刻同期とともに、本ユーティリティを終了することができます。

※ 「時刻ユーティリティの終了」は単独で選択しても意味がありません。

7. タイムサーバとコンピュータの時刻のずれを確認した上で時刻の同期をとりたい場合は、「時刻の自動設定」と「時刻ユーティリティの終了」のチェックを外しておきます。

「実行」ボタンをクリックすると、「時刻設定ユーティリティ」はタイムサーバの時刻を表示するので、「時刻設定」ボタンをクリックしてください（「時刻設定」ボタンは「実行」ボタンをクリックすることによりアクティブになります。コンピュータの時刻は、Windows 95/98/NT 4.0/2000 のタスクバーの右端か、「コントロールパネル」 「日付と時刻」で確認できます）。

16.2 終了

メニューから「ファイル」 「アプリケーションの終了」を選択します。または、ダイアログの中央にある「終了」ボタンをクリックします。

第 17 章

ダイヤルアップコネクター

「ダイヤルアップコネクター」は、モデムを使用して、インターネットプロバイダなどにダイヤルアップ接続するためのコマンドです。

Topics:

- はじめに (☞ p.153)
- 起動 (☞ p.154)
- 接続先の登録 (☞ p.154)
- 接続と切断 (☞ p.159)
- 巡回接続と巡回切断 (☞ p.160)
- 接続状態の確認 (☞ p.160)
- 接続先の削除 (☞ p.161)
- 接続先情報の編集 (☞ p.161)
- 自動起動と自動ダイヤル (☞ p.161)
- リダイヤル (☞ p.163)
- 自動切断 (☞ p.164)
- ダイヤルアップコネクターのアイコン化 (☞ p.165)
- 接続後に接続ダイアログを隠す (☞ p.166)
- 接続通知 (☞ p.166)
- 構内交換機 (PBX) 経由で接続する場合 (☞ p.167)
- 終了 (☞ p.169)

17.1 はじめに

このコマンドを使用する前に、あらかじめ以下のコンポーネントのインストールおよび設定を行っておい
てください。

1. ダイヤルアップネットワーク

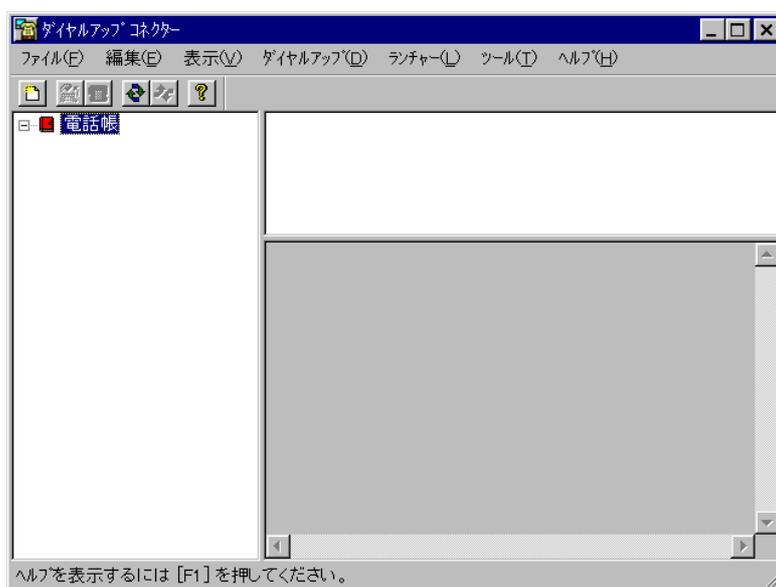
2. モデム
3. ダイヤルアップアダプタ
4. TCP/IP

※ Windows 95 では、上記に加え、Internet Explorer 3.0 (4.70.1155) 以降がインストールされている必要があります。

※ Window NT 3.51 でダイヤルアップコネクターを使用する場合は、「電話帳」の接続先エントリのみがご使用いただけます。その他、ご使用の OS によって、使用できる機能に制限があります。詳しくは、「お読みください」(README) などのドキュメントをご参照ください。

17.2 起動

1. 「スタート」メニューから「プログラム」 「CentreNET AT-TCP32 Professional」 「ダイヤルアップコネクター」の順に選択します。
2. メイン画面が表示されます。



メイン画面

17.3 接続先の登録

最初に、ダイヤルアップ接続先（プロバイダのアクセスポイントなど）の登録を行います。登録方法には、手動ですべての情報を入力する方法と、本製品が保持するプロバイダアクセスポイント一覧から任意のエ

ントリを選択して、ユーザ名とパスワードだけを入力する方法があります。

17.3.1 手動登録

1. メニューの「ファイル」「新しい接続エントリ」「新規作成」を選択してください。
2. 「ダイヤルアップ接続」ダイアログが表示されます。各タブで以下の項目について入力します。
 - ◇ Windows NT 3.51、NT 4.0、2000 では、OS 標準の設定画面が表示されます。

(a) ユーザアカウントタブ



ユーザアカウントタブ

プロバイダ名

接続先を識別するための名前を入力します。プロバイダ名とアクセスポイント名を組み合わせたものなどを設定するとよいでしょう。半角で 32 文字まで入力できます。また、漢字入力も可能です（全角文字は 16 文字まで）。ただし、使用できない文字がありますのでご注意ください。たとえば、Windows 95/98 では、|, >, <, ?, *, ¥, /, : などが入力できません。

ユーザ名

プロバイダから指定されたユーザ名（ログイン名）を入力します。

パスワード

プロバイダから指定されたパスワードを入力します。

(b) 接続タブ

接続タブ

電話番号

接続先の電話番号を入力します。

ドメイン名

プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。

モデム

接続時に使用するモデムを選択します。

(c) TCP/IP タブ

TCP/IP タブ

DNS サーバ

プロバイダから指定された DNS (Domain Name Service) サーバの IP アドレスを入力します。「プライマリ」と「セカンダリ」の 2 つを指定できます。

WINS サーバ

プロバイダから指定された WINS (Windows Internet Naming Service) サーバの IP アドレスを入力します。「プライマリ」と「セカンダリ」の 2 つを指定できます。指定されていない場合は空欄でかまいません。

暗号化パスワードを使う

接続する際に必要なパスワードを暗号化して送信します。

ソフトウェア圧縮をする

送受信時にデータを圧縮します。ただし、接続先と圧縮方式が同じ場合にのみ有効です。

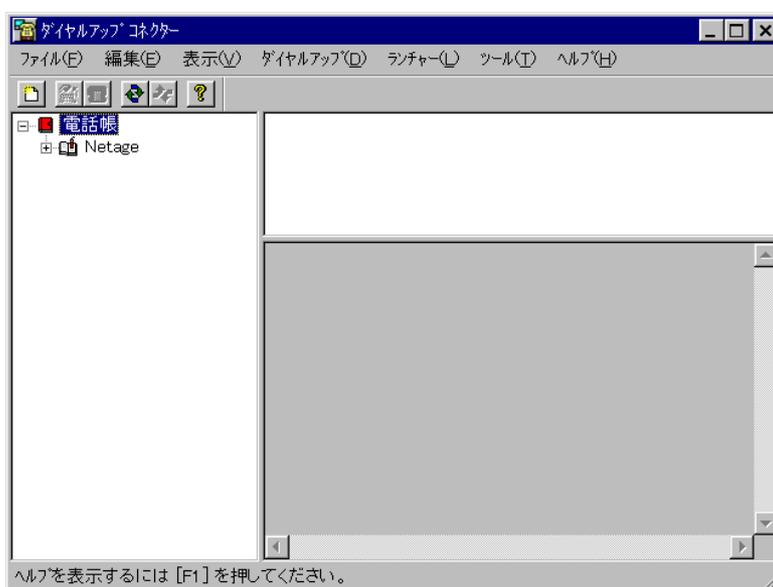
IP ヘッダ圧縮を使う

データ送信時に IP ヘッダを圧縮します。ただし、接続先が IP ヘッダの圧縮に対応しているときに限ります。

リモートネットワーク上のデフォルトのゲートウェイを使う

モデムを使用して接続する際、プロバイダのゲートウェイをデフォルトゲートウェイとして使用する場合にチェックします。NetWare や LAN をご使用の場合は、通常ここをチェックしてください。

3. 各タブの設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。
4. メイン画面の電話帳に、登録したプロバイダ名が追加されます。



メイン画面

17.3.2 「プロバイダー一覧からの選択」で設定する場合

この機能は、Windows NT 3.51 ではご使用になれませんのでご注意ください。

1. メニューの「ファイル」 「新しい接続エントリ」 「プロバイダー一覧から選択」を選択します。
2. 「プロバイダー一覧から選択」ダイアログが表示されます。このダイアログの中からご契約のプロバイダを選択し、「選択」ボタンをクリックします。



プロバイダー一覧から選択

3. 「ダイヤルアップ接続」ダイアログが表示されます。すでに、選択したプロバイダに関する情報は設定されていますので、「ユーザ名」と「パスワード」だけを入力してください。ご契約のプロバイダから指定されたユーザ名とパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。



アカウントタブ

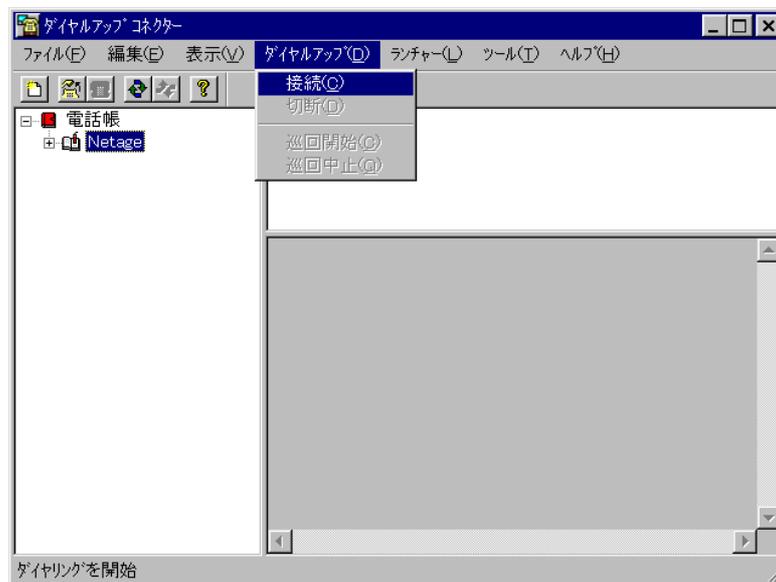
4. メイン画面の電話帳に登録されます。

＼ なお、プロバイダのアクセスポイントは変更される可能性がありますので、最新の情報につきましては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。

17.4 接続と切断

登録した接続先にダイヤルアップするには、次の手順にしたがいます。

1. メイン画面左側の電話帳から、接続先アイコンを選択し、メニューから「ダイヤルアップ」、「接続」を選択します。



接続

2. 接続が始まると、メイン画面に次のように表示され、接続中のダイアログが表示されます。



メイン画面

3. 接続が完了すると、ダイヤルアップネットワークの次のダイアログが表示されます。



接続完了

4. 切断するときは、メニューの「ダイヤルアップ」 「切断」を選択します。

17.5 巡回接続と巡回切断

電話帳に複数の接続先を登録してある場合、巡回接続機能を用いると、あるアクセスポイントに接続できなかった場合に、自動的に次に登録されているアクセスポイントに接続しに行きます。

このようにして、どこかに接続できるまで、電話帳に登録してある接続先エントリを順番に試みます。

1. 巡回接続をするには、メニューの「ダイヤルアップ」 「巡回接続」を選択します。
2. 巡回接続を取り消すには、メニューの「ダイヤルアップ」 「巡回中止」を選択します。

17.6 接続状態の確認

現在の接続状態を確認するには、メニューから「表示」 「接続状況表示」を選択します。現在接続中の接続先エントリがあれば、以下の情報が表示されます。接続中のエントリがない場合は「接続数:0」と表

示されます。

接続先

「接続先の登録」で設定した「プロバイダ名」が表示されます。

ステータス

現在の接続状況が表示されます。

デバイスタイプ

接続するために何を使用しているかが表示されます。

デバイス名

デバイスの機種などが表示されます。

17.7 接続先の削除

電話帳から接続先エントリを削除するには、次の手順にしがいます。

1. 電話帳から、削除したい接続エントリを選択し、メニューの「編集」「接続エントリ」「削除」をクリックします。
2. 確認のダイアログが表示されるので、削除してもよければ「OK」ボタンをクリックします。
3. メニューから「表示」「電話帳を最新の情報に更新」を選択し、電話帳の情報を更新します。

17.8 接続先情報の編集

すでに設定してある接続先情報を変更するには、次の手順にしがいます。

1. 電話帳から、変更したい接続先エントリを選択し、メニューの「編集」「接続エントリ」「設定」をクリックします。
2. 「ダイヤルアップ接続」ダイアログが表示されるので、設定内容を適宜変更します。
 ∟ Windows NT 3.51、NT 4.0、2000 では OS 標準の設定画面が表示されます。
3. 修正が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
4. メニューから「表示」「電話帳を最新の情報に更新」を選択し、電話帳の情報を更新します。

17.9 自動起動と自動ダイヤル

ダイヤルアップコネクターは、アプリケーションがネットワークにアクセスしようとした場合に、自動的にダイヤルアップするよう設定できます（自動起動）。

また、ダイヤルアップコネクターを起動したら、よく使うプロバイダに自動的にダイヤルアップするよう設定することもできます（自動ダイヤル）。

これらの設定は、接続中やダイヤル中は変更できません。また、自動起動は Windows95 でのみ使用できます。

1. メニューから「ツール」 「オプション」を選択します。
2. 「オプション」ダイアログが表示されます。

17.9.1 自動起動

アプリケーションがネットワークにアクセスしようとしたときに、自動的にダイヤルアップさせるには、次のようにします。

1. メニューの「ツール」 「オプション」を選択します。
2. 「オプション」ダイアログが表示されるので、「起動と接続」タブの「ダイヤラーの自動起動」の「アプリケーションがネットワークにアクセスしたら自動起動する」をチェックします。
3. 自動起動するときに使用するダイヤラーを、「ダイヤルアップコネクター」と「Windows ダイヤラー」の 2 つから選択します。



自動起動の設定

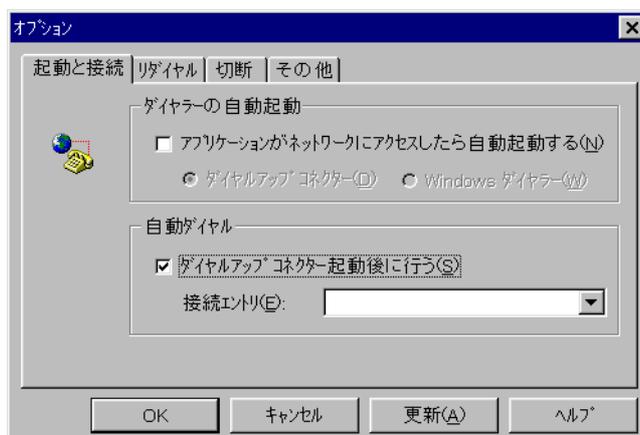
4. 設定が終了したら、設定を更新するために「更新」ボタンをクリックしてから「OK」ボタンをクリックします。

17.9.2 自動ダイヤル

ダイヤルアップコネクターの起動時に、指定した接続先に自動的にダイヤルアップするよう設定するには、次のようにします。

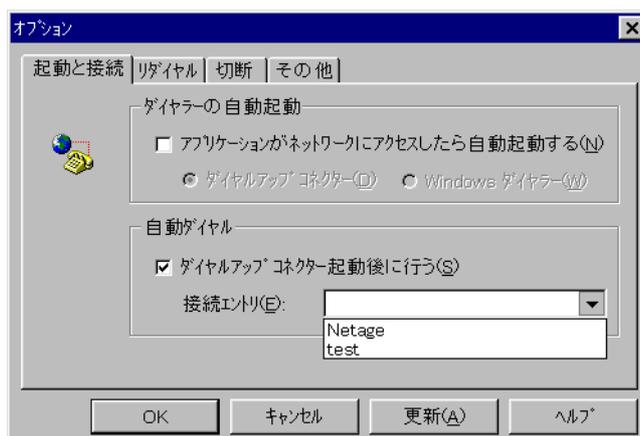
1. メニューの「ツール」 「オプション」を選択します。

2. 「オプション」ダイアログが表示されるので、「自動ダイヤル」の「ダイヤルアップコネクター起動後に行う」をチェックします。



自動ダイヤルのチェック

3. 「接続エントリ」から接続先を選択します。



自動ダイヤル先の指定

4. 設定が終了したら、設定を更新するために「更新」ボタンをクリックします。

17.10 リダイヤル

巡回接続をするときのリダイヤル回数や、接続先へのリダイヤル回数を設定するには、次のようにします。

1. メニューの「ツール」 「オプション」をクリックします。
2. 「オプション」ダイアログが表示されます。「ダイヤリング」タブをクリックします。

3. 1 回の巡回で接続できなかった場合、ここに設定してある回数だけ巡回します。「巡回接続」を
チェックし、回数と間隔を入力します。



4. 1 回目の接続に失敗したら、ここに設定されている回数だけダイヤリングします。「接続エントリ毎
のリダイヤル」をチェックし、回数と間隔を入力します。



5. 設定が終了したら、設定を更新するために「更新」ボタンをクリックしてから「OK」ボタンをク
リックします。

17.11 自動切断

接続したあとに、自動で接続の切断を行うことができます。

1. メニューの「ツール」 「オプション」をクリックします。

2. 「オプション」ダイアログが表示されます。「切断」タブをクリックします。



切断タブ

指定時間後

接続してから、何時間かしてから切断したい場合は、ここをチェックして時間数を入力します。

ダイヤルアップコネクタ終了時

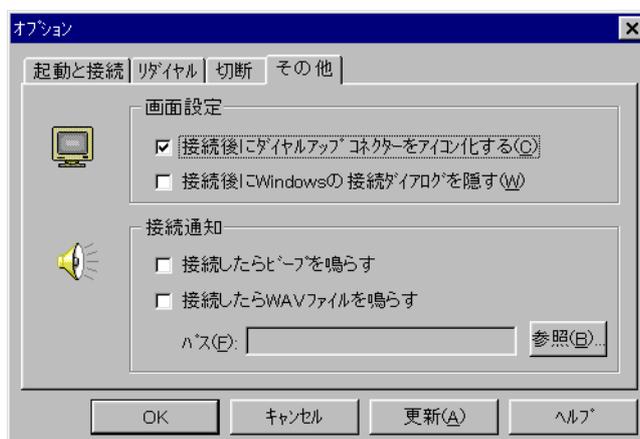
ダイヤルアップコネクタを終了すると同時に切断をする場合はここをチェックしてください。

3. 設定が終了したら、設定を更新するために「更新」ボタンをクリックしてから「OK」ボタンをクリックします。

17.12 ダイヤルアップコネクターのアイコン化

ダイヤルアップコネクタを起動したらアイコン化することができます。

1. メニューの「ツール」 「オプション」をクリックします。
2. 「オプション」ダイアログが表示されます。「その他」タブをクリックします。
3. 「画面設定」の「接続後にダイヤルアップコネクタをアイコン化する」をチェックします。



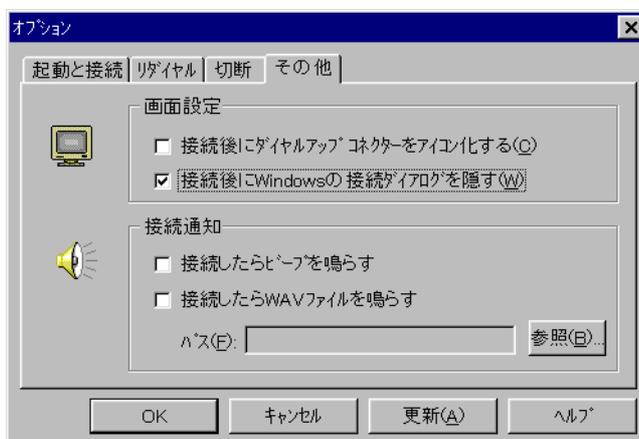
接続後にアイコン化

4. 設定が終了したら、設定を更新するために「更新」ボタンをクリックしてから「OK」ボタンをクリックします。

17.13 接続後に接続ダイアログを隠す

接続エントリに接続されると、接続ダイアログが表示されます。この接続ダイアログを隠すことができます。この機能は Windows95 のみの機能です。

1. メニューの「ツール」 「オプション」をクリックします。
2. 「オプション」ダイアログが表示されます。「その他」タブをクリックします。
3. 「画面設定」の「接続後に Windows の接続ダイアログを隠す」をチェックします。



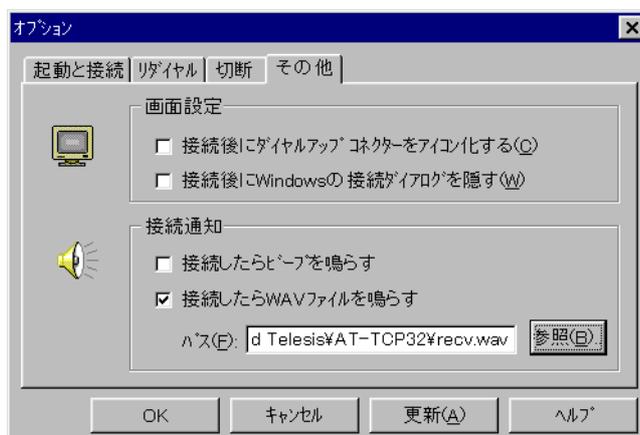
ダイアログを隠す

4. 設定が終了したら、設定を更新するために「更新」ボタンをクリックしてから「OK」ボタンをクリックします。

17.14 接続通知

1. メニューの「ツール」 「オプション」をクリックします。
2. 「オプション」ダイアログが表示されます。「その他」タブをクリックします。

3. 「接続通知」の方法を選択します。WAV ファイルを選択した場合は「参照」ボタンでファイルを選択します。



WAV ファイルの選択

4. 設定が終了したら、設定を更新するために「更新」ボタンをクリックしてから「OK」ボタンをクリックします。

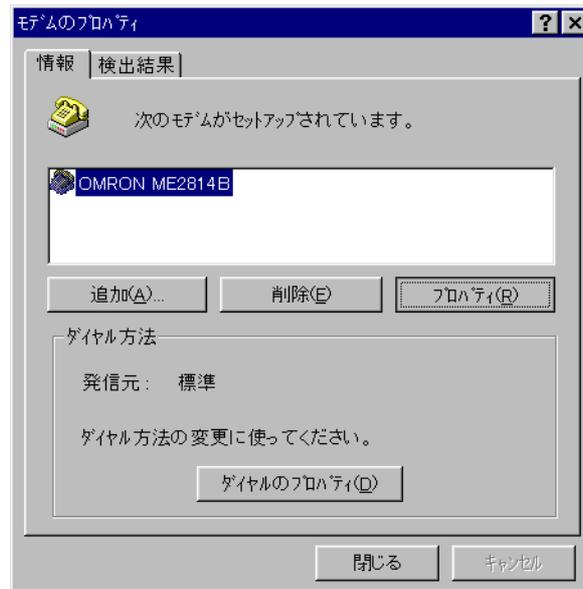
17.15 構内交換機 (PBX) 経由で接続する場合

0 発信の PBX 内線電話のような 2 線式の電話をご使用の場合は、モデムが正常に動作しない場合があります。その場合は以下の設定を試してみてください (ここで表示されるダイアログは Windows 95 の画面です。Windows NT 4.0、2000 の場合は若干画面が異なります)。

◇ このメニューは Windows NT 3.51 では使用できませんのでご注意ください。

1. メニューの「ツール」 「システム設定」 「モデムの設定」をクリックします。

2. 「モデムのプロパティ」が表示されます。「プロパティ」ボタンをクリックします。



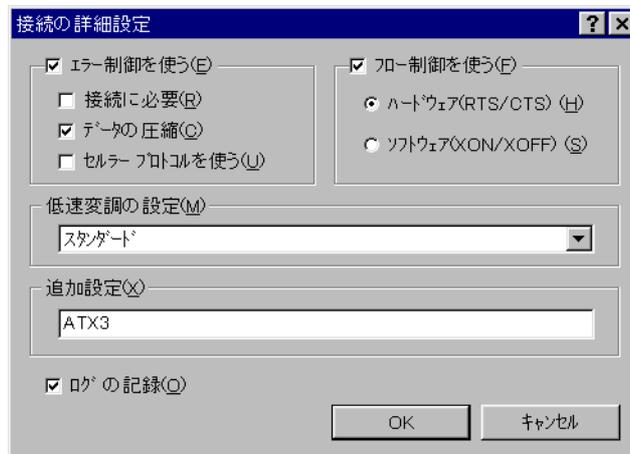
モデムのプロパティ

3. 使用しているモデムのプロパティが表示されます。「接続」タブの「詳細設定」ボタンをクリックします。



モデムのプロパティ 2

4. 「接続の詳細設定」ダイアログが表示されます。「追加設定」項目のフィールドに「ATX3」というコマンドを入力し、「OK」ボタンをクリックします。



接続の詳細設定

17.16 終了

メニューから「ファイル」 「アプリケーションの終了」を選択します。

付録 A

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートが必要な場合は、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項を記入し、下記のサポート先に FAX してください。電話による直接のお問い合わせはできるだけ避けてください。FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話によるお問い合わせよりもはるかに早く問題を解決することができます。記入内容については、以下の説明をご覧ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: 0120-860-772 月～金（祝・祭日を除く）
9:00～12:00、13:00～18:00
土（祝・祭日を除く）
10:00～17:00
Fax: 0120-860-662 年中無休 24 時間受け付け

A.1 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入頂くものです。ご提供頂く情報が不十分な場合には、障害の原因を突き止めることに時間がかかり、最悪の場合は障害の解消ができない場合もあります。迅速に障害の解消を行うためにも、担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。記入用紙に書き切れない場合は、プリントアウトなどを別途添付ください。なお、都合によりご連絡の遅れることもございますのであらかじめご了承ください。

A.1.1 ソフトウェアとハードウェア

1. AT-TCP/32 のバージョン、パッチレベル、シリアル番号、認証キー番号をご記入ください。
2. ネットワークの接続形態（LAN またはダイヤルアップ）をご記入ください。
3. ご使用のネットワークアダプターについてご記入ください。
4. ご使用のサーバー機と OS についてご記入ください。

5. AT-TCP/32 をインストールした PC や OS についてご記入ください。

A.1.2 お問い合わせ内容について

1. どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできるかぎり具体的に（再現できるように）ご記入ください。
2. 併用しているユーティリティやアプリケーションの処理内容についてもご記入ください。
3. エラーメッセージやエラーコードが表示される場合は、それらのメッセージ内容についてもご記入ください（プリントアウトなどを添付していただいても結構です）。

A.1.3 ネットワーク構成について

AT-TCP/32 をご使用になっている PC とネットワークの接続状況や使用しているネットワーク機器などについてご記入ください。ネットワーク構成がわかるような簡単な図を添付していただくと大変助かります。

調査依頼書 (CentreNET AT-TCP/32 Professional 1/2)

一般事項

年 月 日

1. 御社名： _____
部署名： _____ ご担当者： _____
ご連絡先住所： 〒 _____
Tel. : _____ Fax. : _____

2. 本製品のご購入販売店： _____ 販売店担当者： _____
Tel. : _____ ご購入日： _____ 年 月 日

ハードウェアとソフトウェア

1. AT-TCP/32 Professional のバージョンと環境
AT-TCP/32 Professional Ver. _____ pl _____ シリアル番号 _____
認証キー _____

2. 環境
ダイヤルアップ LAN

3. ご使用のネットワークアダプターの種類、シリアル番号、製品リビジョン、ボードリビジョン：
弊社アダプター名  S/N _____ Rev _____

REV	
-----	--

ドライバーディスク Ver. _____ PL _____
他社メーカー名 / アダプター名： _____

4. サーバーのメーカー名、OS名、Ver. : _____

5. PC メーカー名 / 機種： _____

PC の OS (メーカー名)、Ver. : _____

拡張アダプター名 / 機種： _____

アプリケーション： _____

ユーティリティ： _____
